

C2  
1113  
71-02

特刊  
512

京都市例規類抄



書ハ明治二十二年市制施行以來ニ於テ制定シタル條例規則ニ  
シテ明治三十六年三月ノ現行ニ係ルモノヲ編纂ス  
本書ハ設定ノ前後ニ拘ハラズ之ヲ類別シテ索引ニ便ナラシム



明治三十六年三月

編者識

索引

市役所位置

一

頁

議

事

市會議事細則

一

頁

區會條例

五

頁

市會議員撰出條例

六

頁

市會議員就職期日

七

頁

委員撰舉ノ件

七

頁

市會傍聽人取締規則

七

頁

職

制

市參事會規程

八

頁

市役所規程

九

頁

區役所規程

二

頁

水利事務所規程

三

頁

市學務委員規程

四

頁

尋常小學區學務委員條例

四

頁

市臨時勸業委員規程

四

頁

市臨時傳染病豫防委員設置ノ件

四

頁

市收入役責任及身元保証金規程	四十八頁
市長代理順序條例	四十九頁
市書記及技師技手定員規程	五十一頁
區書記并書記補定員規程	五十一頁
市長專決事項	五十二頁
區長分掌事務	五十二頁
市參事會管掌事務區長分任條件	五十三頁
市長管掌事務區長分任條件	五十三頁
水利事務所長分任條件	五十四頁
學務委員ノ管理スヘキ教育事務	五十六頁
市參事會員就職退職期日	五十八頁
市名譽職員退任者影切規程	五十八頁
市視學視察規程	六十頁
檢稅吏設置ノ件	六十頁
檢稅吏職務規程	六十頁
檢稅吏証票攜帶ノ件	六十一頁
檢稅吏制服着用之件	六十二頁
市役所第二部土木課規程	六十三頁
土木小修繕監督規程	六十四頁

土木小修繕定備工夫採用規程	六十七頁
土木小修繕定備工夫服役心得	六十八頁
守衛服務規程	七十頁
望火櫓雇員勤務心得	七十一頁
稅務取扱吏員証票ノ件	七十二頁
暑中休暇ノ件	七十三頁
掃除監視吏員職務章程	七十三頁
同 巡視懲罰例	七十四頁
同 巡視制服着用期限	七十一頁
同 巡視誓約書并身元引受書書式ノ件	七十一頁
同 巡視休暇規程	七十二頁
同 巡視心得	七十三頁
同 巡規點檢規則	七十五頁
同 巡視攜帶名刺一定ノ件	七十六頁
監視吏員稱呼規程	七十七頁
同 吏員禮式規程	七十七頁
掃除巡視宿置心得	七十八頁
監視吏員勤務心得	七十九頁
寄附金受納認可手續	八十一頁

辭令文例  
 道路敷地ノ爲ノ買收地寄附ニ係ル處分ノ件  
 廢公用道路並川溝敷地處分ノ件  
 疏水用地ノ使用ヲ許可スル件  
 市設電柱疏水運河放水等ノ使用許可スル件  
 公同組合設置標準

學事

市立美術工藝學校規則  
 同 染織學校規則  
 同 商業學校規則  
 同 簡易商業學校規則  
 同 盲啞院規則  
 同 美術工藝學校商議員規程  
 同 評議委員規程  
 同 染織學校商議員規程  
 同 評議員規程  
 同 商業學校簡易商業學校商議員規程  
 同 評議員規程  
 同 育啞院商議員商議要項

九十一頁  
 九十五頁  
 九十五頁  
 九十五頁  
 九十五頁  
 九十八頁  
 百一十二頁  
 百二十四頁  
 百三十七頁  
 百四十六頁  
 百七十一頁  
 百七十一頁  
 百七十二頁  
 百七十二頁  
 百七十三頁  
 百七十四頁  
 百七十四頁

勸業

同 管理規程  
 美術工藝學校外四校長處分ノ件  
 高學小學校長處分ノ件  
 市立學校々地變更ニ關スル處分ノ件  
 高等小學校授業料細則  
 尋常小學校授業料細則  
 市立美術工藝學校其他各學校生徒修學旅行ノ節稟議若クハ開申方ノ件  
 尋常小學校生徒修學旅行ノ節開申方ノ件  
 學區經費負擔ノ件  
 市立美術工藝學校應請圖案調製規則  
 市立染織學校製品整理規則

陶磁器試驗所職制  
 同 規則  
 同 商議員規程  
 同 傳習生規則  
 同 職丁就業規程  
 衛生

百七十五頁  
 百七十五頁  
 百七十六頁  
 百七十六頁  
 百七十六頁  
 百七十七頁  
 百七十七頁  
 百七十七頁  
 百七十八頁  
 百七十八頁  
 百七十九頁  
 百七十九頁  
 百八十一頁  
 百八十二頁  
 百八十三頁  
 百八十三頁  
 百八十七頁

市立病院規則	百八十九頁
同 日吉病院細則	百九十頁
同 日吉病院取扱事項	百九十五頁
常設市醫規程	百九十六頁
常設市醫勤務心得	百九十七頁
衛生組合並聯合衛生組合設置標準	百九十九頁
聯合衛生組合補助費支出方法	百九十九頁
衛生組合經費決算報告ノ件	百九十九頁
市設塵芥捨場規則	二百二頁
市收塵芥捨場位置	二百二頁
傳染病ニ罹ル赤貧者救濟費支給方法	二百二頁
改良井水試驗隨時需ニ應スル件	二百四頁
市醫職務表	二百五頁
市立日吉病院常設ノ件	二百六頁
傳染病赤貧患者取扱方ノ件	二百六頁
自宅治療傳染病患者排泄物日吉病院送付ノ件	二百六頁
消毒物品採收手續	二百七頁
排泄物採收手續	二百七頁
自宅治療傳染病患者ノ排泄物採收人夫賃市費支辨ノ件	二百八頁

傳染病患者送院人夫賃市費支辨ノ件	二百八頁
傳染病患者送院人夫賃市費支辨ノ件	二百八頁
傳染病豫防消毒ニ從事スル吏員制服着用ノ件	二百八頁
聚樂病院管理之件	二百九頁
公文	二百九頁
公告式規程	二百九頁
徽 章	二百九頁
京都市徽章	二百九頁
徽章及徽章佩用規程	二百十頁
水利事務所徽章	二百十頁
營造物及財産管理	二百十二頁
議事堂管理規程	二百十三頁
慈惠基金管理規程	二百十三頁
學事基本財産管理規程	二百十三頁
美術工藝學校建築準備金管理方法	二百十四頁
同	二百十四頁
盲啞院附屬地管理規程	二百十四頁
教育資金管理規程	二百十五頁
水利事業管理規程	二百十五頁
圓山公園管理規程	二百十六頁

號砲發射場管理規程  
 第五號地使用許可ノ件  
 市有地一時使用許可ノ件

二百十七頁  
 二百十八頁  
 二百十八頁

市吏員給料額條例

二百十八頁

區長及區書記俸給條例

二百二十頁

給料支給規則

二百二十頁

給料支給定日

二百二十二頁

掃除監視吏員俸給支給規則

二百二十三頁

定備夫步増給料支給之件

二百二十三頁

旅費支給規則

二百二十七頁

定額旅費規則

二百二十七頁

幼稚園保姆旅費額

二百二十八頁

名譽職員實費辨償規則

二百二十八頁

名譽職員報酬支給規則

二百二十九頁

退隱料條例

二百二十九頁

有給吏員退職死亡給與規則

二百三十二頁

掃除巡視退職死亡給與規則

二百三十二頁

負傷者傳染病感染者及死亡者手當給與條例

二百三十三頁

有給市吏員及傭員傳染病豫防救治ニ從事中ノ月手當支給ノ件

二百三十五頁

傳染病豫防消毒ニ從事スル吏員支給手當ノ件

二百三十五頁

傳染病豫防消毒ニ從事スルモノ、特別手當支給方法

二百三十六頁

市役所吏員文具支給規則

二百三十六頁

區役所吏員文具支給規則

二百三十七頁

賄料支給規則

二百三十七頁

檢稅吏ニ手當金支給ノ件

二百三十八頁

種痘醫手當之件

二百三十八頁

掃除巡視給與品及貸與品規程

二百三十八頁

給仕以下被服給與規程

二百四十頁

陶磁器試驗所職工被服給與規程

二百四十二頁

工事及物品購入賣却

二百四十三頁

工事施行手續

二百四十三頁

物品購入賣却規則

二百四十九頁

諸稅及使用料手數料

二百四十九頁

特別稅營業稅條例

二百五十七頁

同 船車乘馬稅條例

二百六十三頁

同 戶別稅條例

二百六十六頁

同 步一稅賦課條例

二百六十七頁

市稅徵收規程

二百六十八頁

船車納稅人心得

二百七十四頁

遊藝師匠其他鑑札ニ係ル件	二百七十四頁
納税ニ關スル鑑札烙印取扱方ノ件	二百七十五頁
電氣使用條例	二百八十頁
疏水運河使用條例	二百八十七頁
疏水々力使用條例	二百九十五頁
圓山公園使用條例	三百頁
同 使用料細則	三百四頁
同 事務所貸與料金ニ係ル件	三百五頁
督促手数料條例	三百五頁
手数料條例	三百六頁
會計	
會計規則	三百七頁
會計規則施行規定	三百七十二頁
京都市金庫規程	三百五十三頁
區役所簿記規程	三百五十三頁
公債	
長期市公債募集及償還方法	三百五十五頁
同 發行手續	三百五十六頁
市公債募集ニ關スル規程	三百五十九頁
市公債証書書換ニ要スル實費ノ件	三百六十六頁

# 京都市例規類抄

## 市役所位置

本市役所位置ヲ上京區寺町御池上ル東入本市議事堂内ニ定メ本日ヨリ開廳ス

明治卅一年十月十五日  
市公告第四十四號

## 議事

### 市會議事細則

明治卅四年三月十一日  
制定

第一章 議場整理	
第一條 會議ハ午前九時ニ始メ午前三時ニ終ル	
但議長又ハ會議ノ意見ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ	
第二條 議員ハ開會定刻前ニ參集シ出席簿ニ捺印スヘシ	
第三條 議事ノ始終ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ス	
第四條 議員ノ席次ハ每曆年ノ初ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム	
第五條 議事中議員出席シ若クハ退席セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ	
第六條 議長缺席スルカ又ハ意見アルトキハ代理者之ニ代リ議長代理者共ニ缺席シ若クハ意見アルトキハ議員中年長者ヲ以テ假議長トス	
第二章 議事	
第七條 凡ソ議事ヲ開クトキ議長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム	
但時宜ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得	

議事

- 第八條 議長ハ議事日程ヲ定メテ豫メ之ヲ會議ニ報告ス  
議事日程ノ變更ヲ求ムルモノアルトキ又ハ議長ニ於テ必要ト認ムルトキハ會議ニ諮ヒ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第九條 議事ハ第一讀會第二讀會第三讀會ノ三會ニ區別ス
- 第十條 第一讀會ハ議題ノ大意ヲ議シ否決スルトキハ其議題ヲ消滅セシメ可決スルトキハ二讀會ヲ開クモノトス
- 第十一條 第二讀會ハ議案ヲ逐條議決シ否決シタル條項ハ消滅トシ可決シタル條項ハ三讀會ヲ開クモノトス
- 第十二條 第三讀會ハ全案ニ付可否ヲ決シ確定トス  
但議事ノ便宜ニ依リ逐條議決スルコトアルヘシ
- 第十三條 確定シタル議題ヲ其議會中ニ再議セントスルトキハ出席議員三分ノ二以上ノ贊成者アルコトヲ要ス
- 第十四條 第一讀會ニ於テ異論ナキトキハ議長及議會ノ意見ヲ以テ第二讀會第三讀會ヲ省畧シ確定ト爲スコトヲ得
- 第十五條 修正説ハ第二讀會及第三讀會ニ於テ之ヲ提出スヘシ  
但シ議案ノ全体ニ付修正ヲ要スルトキハ第二讀會ヲ開クノ始メニ於テモ之ヲ提出スルコトヲ得
- 第十六條 凡ソ發議ニ贊成者ナキモノ及第三讀會ニ於テ五名以上ノ贊成者ナキモノハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得ス

- 第十七條 議案ノ修正調査等ノ爲メニ設ケタル委員ノ意見報告ハ直ニ之ヲ議題ト爲スモノトス
- 第十八條 總テ會議ノ議題トナリタル後其發議者ニ於テ説ヲ變スルトキハ議長ハ其議題ヲ消滅セシムルヤ否ヤナ會議ニ諮テ決スヘシ  
但第一讀會第二讀會ニ於テ二名以上第三讀會ニ於テ六名以上ノ贊成者アルトキハ本條ノ限りニアラス
- 第十九條 發議ハ録シテ文案トナシ之ヲ議長ニ提出シ又ハ議場ニ於テ直ニ陳述スルコトヲ得
- 第三章 發 言
- 第二十條 凡ソ發言セント欲スルモノハ起立シ議長ト呼ビ自己ノ番號ヲ唱ヘ其許可ヲ得テ演壇ニ登リ陳述スヘシ  
但簡單ナル發言ハ議席ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 參事會員ノ資格ヲ以テ議席ニ於テ發言スルコトヲ得ス
- 第二十二條 一事件未ダ終ラサルニ他ノ事件ヲ發議スルコトヲ許サス  
但緊急必要ノ議件ハ此限リニアラス
- 第二十三條 議長發議セント欲スルトキハ其議事ノ始メニ於テ其事由ヲ陳ヘ代理者ニ席ヲ讓リ議員席ニ着キ普通ノ順序ニ依リテ發議シ決議ノ後ハ再ヒ議長席ニ復スヘシ討論中其席ヲ下リ若クハ其席ニ復ルコトヲ得ス
- 第二十四條 未ダ議題トナラサル説ニ對シ討論辯駁スルコトヲ許サス
- 第二十五條 質問ハ其事項ヲ陳ルニ止メ論議ニ涉ルヲ許サス
- 第二十六條 凡テ議員議場ニ於テ特ニ希望ヲ陳述スルコトアルモ會議ノ是認シタルモノニアラサ



レハ其効チ有セス

第四章 決議

第二十七條 着席ノ議員自己ノ説アルモノヲ除クノ外可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス

第二十八條 可否ヲ決スルハ起立投票ノ二種トシ議長便宜ニ之ヲ用フヘシ

但動議ナキトキハ全會ノ可決ト見做シ本條ニ由ラスシテ決スルコトアルヘシ

第二十九條 修正説ハ原案ニ先チ可否ヲ決シ廢棄説ハ修正説ニ先チ採決スヘシ

第三十條 修正説數多アルトキハ第一修正説ヨリ逐次決テ採ルヘシ

但委員ノ修正説ハ議題ノ順序ニ拘ラス修正説中ノ最後ニ採決スヘシ

第三十一條 討論未タ終ラスト雖トモ議長ニ於テ論旨既ニ盡キタリト認ムルトキハ其議題ノ決テ採ルコトヲ得

但會議ニ於テ多數ノ異議アル場合ハ此限リニアラス

第三十二條 議員ハ討論未タ終ラスト雖トモ討論終結ノ動議ヲ提出スルコトヲ得議長ハ此場合ニ於テ贊成者アレハ討論ヲ用ヒズ之ヲ會議ニ諮テ決スヘシ

第三十三條 可否ノ數ハ議長之ヲ認定宜告ス

但二名以上ノ異議アルトキハ指名點呼ヲナスヘシ

第五章 委員

第三十四條 會議ニ於テ委員ヲ要スルトキハ議長ハ之ヲ會議ニ諮ヒ其議決ヲ以テ撰任スヘシ

但委員ノ撰任ハ投票又ハ議長ノ指名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 修正説ヲ提出シタル議員ハ委員會ニ列シ其趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

但可否ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第六章 罰則

第三十六條 議員正當ノ事故ナクシテ無届缺席スルトキハ金貳圓以下ノ過怠金ニ處スヘシ

第三十七條 前條ノ罰則ニ處スヘキモノアリト認ムルトキハ議長又ハ會議ノ意見ニ依リ懲罰委員ヲ撰シテ其事故ヲ審査シ及過怠金ヲ提案セシムヘシ

第七章 雜則

第三十八條 議員疾病其他ノ事故ニ依リ缺席スルトキハ開會定刻後一時間以内ニ其旨議長ニ届出ツヘシ

第三十九條 大祭日祝日及日曜日ハ休會タルヘシ

但會議ノ都合ニ依リ臨時休會シ又ハ休會定日ト雖モ臨時開會スルコトアルヘシ

第四十條 本則ヲ改正加除セントスルトキハ之ヲ會議ニ諮ヒ通常議事ノ手續キヲ以テ議決スヘシ

○區會條例

條例第二十五號

明治廿八年六月三日  
市公告第四九號

第一條 京都市各學區ニ區會ヲ設ク

第二條 前條ノ區會ハ其區ニ於ケル尋常小學校尋常高小學校及幼稚園ノ設立維持並ニ學務委員ニ關スル經費ヲ議定ス

第三條 區會議員ノ定員ヲ每區十二人トス

第四條 區會議員ノ選舉人ハ階級ヲ分マス

第五條 區會議員ハ名譽職トス

第六條 區會議員トナルヲ得ヘキモノハ市會議員ノ被撰舉權ヲ有シ其區ニ住スルモノニ限ル

第七條 區内ニ住スル市公民ハ凡テ區會議員ノ撰舉權ヲ有ス

但公民權ヲ停止セラル、モノ及陸海軍ノ現役ニ服スルモノ又ハ現役以外ノ兵役ニ在ルモノニ

シテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノハ此限ニアラス

第八條 凡ソ内國人ニシテ公權ヲ有シ其區ニ於テ直接市稅ヲ納ムルモノ其額區内ニ住スル公民ノ

其區ニ於テ最モ多ク納稅スルモノ三名中ノ一人ヨリモ多キ時ハ區内ハ住スル公民ニアジスト雖

モ選舉權ヲ有ス

但公民權ヲ停止セラル、モノ及陸海軍ノ現役ニ服スルモノ又ハ現役以外ノ兵役ニ在ルモノニ

シテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノハ此限ニアラス

第九條 法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前條ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

第十條 本條例ニ規定スルモノ、外議員ノ選舉手續並ニ任期及職務權限處務規程等ニシテ本區會

ニ適用シ得ヘキモノハ凡テ市制ノ例ニヨル

○市會議員選出條例

明治二十八年三月十日  
六日市公告第一五號

條例第二十四號

第一條 市會議員ノ定員ヲ四十五人トシ上京選舉區ヨリ二十二名下京選舉區ヨリ二十三人ヲ選舉

スルモノトス

第二條 各選舉區ニ於ケル各級選出ノ議員數ヲ定ムル左ノ如シ

上京選舉區

一級 七人

二級 七人

三級 八人

下京選舉區

一級 七人

二級 八人

三級 八人

第三條 本條例ハ次期ノ改選期ヨリ施行ス

○市會議員就職期日

明治廿五年三月二十  
八日市公告第一七號

本會議員ハ四月十五日ヲ以テ就職ノ日ト定メ半數改選後新議員就職迄ハ前議員ニ於テ其職務ヲ執

行スルモノトス

但當選ヲ辭シタル爲メ更ニ選舉ヲ行ヒ若クハ増加議員等ニテ一般議員ニ後レテ就職シタルモ

ノアルモ一般議員ト同時ニ改選ス

明治廿八年四月十五日決議

市條例ヲ以テ規定シタル委員ノ選舉ハ總テ過半數ノ得票ヲ以テ當選者トス

○市會傍聽人取締規則

明治卅四年三月十一日十六日制定

第一條 會議ヲ傍聽セントスル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ

議長ハ豫メ傍聽券ノ員數ヲ定メテ之ヲ議員ニ配付ス

第二條 官公吏及新聞社員ハ特ニ指定シタル傍聽席ニ着クヘシ

第三條 議員傍聽人ヲ紹介シタルトキハ自己ノ氏名及傍聽人ノ住所氏名ヲ傍聽券ヘ記入スヘシ

第四條 傍聽人ハ傍聽券ヲ交付係ニ示シ其指示ヲ受クヘシ

- 第五條 傍聽人ハ二百五十人ヲ以テ定員トシ其定員ニ達スルトキハ傍聽ヲ拒施ス
- 第六條 凡ソ傍聽席ニアル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ違フ者ハ退場セシムヘシ
  - 一 帽子外套ノ類ヲ著スヘカラス
  - 二 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
  - 三 飲食又ハ喫烟スヘカラス
  - 四 議員ノ言論ニ對シ批評ヲ加ヘ又ハ可否ヲ表スヘカラス
  - 五 喧擾ニ涉リ又ハ禮容ヲ失フノ舉動ヲナスヘカラス
- 第七條 左ニ掲クル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ得ス
  - 一 戎器又ハ兇器ヲ携帯シタル者
  - 二 酩酊シタル者
  - 三 瘋癲白痴ト認ムル者
  - 四 異様ノ扮裝ヲナシタル者

職制

○京都市參事會規程

明治卅二年八月七日制定

- 第一條 參事會ハ臨時要急ノ場合ヲ除クノ外毎火曜日金曜日ヲ定日トシ午前第九時ヨリ開會ス但定日休應日ニ相當スルトキハ其翌日ヲ以テ開會ス
- 第二條 市會開會ノ日ハ議件ノ有無ニ關セズ參事會ヲ開ク
- 第三條 參事會ノ議決ハ出席員過半數ノ同意ニヨリ之ヲ定ム

第四條 參事會ニ於テ行フ選舉ハ市制第四十四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 參事會其議決ニ對シ全會一致ト否トニ論ヲク聯帶責任ヲ負フモノトス

第六條 參事會員ハ市行政ニ關スル意見ヲ參事會ニ提出シ二名以上ノ同意ヲ得タルトキハ市長ニ發案ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參事會ノ議件中重要ナルモノハ其議決ニ依リ會員中ニ就キ調査委員ヲ設クルコトヲ得

○市役所規程

明治卅一年十月十三日市達第六三號

第一條 市役所ニ左ノ三部ヲ置キ其行政事務分掌セシム

第一部

第二部

第三部

第二條 各部ニ部長一名ヲ置キ第一第二ノ部長ハ助役ヲ以テ之ニ充テ第三部長ハ收入役ヲ以テ之ニ充ツ

但時宜ニヨリ其他ノ職員ニ部長心得ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 各部ニ屬スル事務ノ分掌ヲ定ムル左ノ如シ

第一部

- 一 議員選舉ニ關スル事項
- 一 市會市參事會ノ議事ニ關スル事項
- 一 市ノ支出收入豫算整理ニ關スル事項
- 一 市稅ノ賦課ニ關スル事項

- 一 市費出納検査ニ關スル事項
- 一 區役所ノ監督ニ關スル事項
- 一 公同組合ニ關スル事項
- 一 賞恤慈惠ニ關スル事項
- 一 教育ニ關スル事項
- 一 勸業ニ關スル事項
- 一 商業會議所議員選舉ニ關スル事項
- 一 兵事ニ關スル事項
- 一 戶口民籍ニ關スル事項
- 一 社寺ニ關スル事項
- 一 議員并ニ市吏員ノ身分ニ關スル事項
- 一 文書ノ收受發送及其保管ニ關スル事項
- 一 公印監守ニ關スル事項
- 一 給仕使丁并ニ廳中取締ニ關スル事項
- 右ノ外他部ノ主管ニ屬セサル事項

第二部

- 一 土工并ニ建築ニ關スル事項
- 一 公園ニ關スル事項
- 一 市區ノ境域ニ關スル事項

- 一 土地ノ整理ニ關スル事項
- 一 衛生ニ關スル事項
- 一 傳染病ニ罹ル赤貧者救濟ニ關スル事項
- 一 獸疫豫防ニ關スル事項
- 一 號砲ニ關スル事項
- 一 火防ニ關スル事項
- 一 街燈街厠ニ關スル事項
- 一 名區勝地ノ保存ニ關スル事項
- 一 水利事務所ニ關スル事項
- 一 動物園ニ關スル事項
- 一 汚物掃除ニ關スル事項
- 一 土地收用及賣却貸與ニ關スル事項
- 一 社寺建物及境内ニ關スル事項

第三部

- 一 市費ノ出納及其精算ニ關スル事項
- 一 市有財産ノ整理ニ關スル事項
- 一 市公債募集及償還ニ關スル事項
- 一 爲替方ニ關スル事項
- 一 有價証券及現金保管ニ關スル事項

一 市役所用品ノ購買并ニ其保管出納ニ關スル事項  
 一同上ノ用品ノ處分ニ關スル事項  
 右ノ外臨時ノ事務ニ就テハ特ニ其分掌ヲ定ムルコトアルヘシ  
 第三條 一市長ハ各部分掌ノ事務整理ノ爲メ課又ハ係ヲ設ケ課長又係長ノ置クコトヲ得  
 第四條 部長ハ部務總掌ノ責ニ任シ其主掌ノ事務ニ就テハ部名又ハ職名ヲ以テ本市立ノ學校病院  
 其他ノ事務所ヘ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得  
 但部長事故アルトキハ各分任着席ノ職員ニ於テ其分任事務ヲ代理スヘシ  
 第五條 技師ハ部長ノ監督ニ屬シ技術ニ關スル事務ヲ擔當ス  
 第六條 視學ハ部長ノ監督ニ屬シ市立諸學校ノ視察及ヒ教育ニ關スル事務ニ從事ス  
 第七條 書記技師ハ部長ノ指揮ニ從ヒ部務ニ從事ス  
 但技師ハ技術ニ關スル事務ニ付テハ技師ノ指揮監督ヲ受クヘシ  
 第八條 市役所ノ處務時限ヲ定ムル左ノ如シ  
 但事務繁劇ノ場合ハ此限リニアラス  
 自三月一日 至七月十日 午前八時ヨリ午後四時迄  
 自七月十一日 至九月十日 午前八時ヨリ正午十二時迄  
 自九月十一日 至十月三十日 午前八時ヨリ午後四時迄  
 自十一月一日 至二月末日 午前九時ヨリ午後四時迄  
 右ノ内土曜日ニ限リ正午十二時迄トス  
 第九條 市役所ノ休務日ヲ定ムル左ノ如シ

但事務繁劇ノ場合ハ此限リニアラス  
 一月一日ヨリ同月三日迄 十二月二十九日ヨリ同月三十一日迄  
 日曜日 新年宴會 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭 神武天皇祭 秋季皇靈祭 神嘗祭  
 天長節 新嘗祭  
 第十條 市役所ニ收受スル文書物品ハ第一部文書主任ニ於テ之ヲ接受シ收受簿ニ登記ノ上即時之  
 ナ主務部長ニ配布スヘシ  
 但親展書ハ記名者ニ提出シ其閱覽ヲ經テ親展文書收受簿ニ登記シ本文ノ手續ヲ爲スヘシ  
 第十一條 各部長前條ノ文書ヲ接受シ又ハ發議ヲ要スルトキハ其方案ヲ定メ主任ヲシテ速ニ之ヲ  
 處理セシムヘシ  
 第十二條 各主任前條ノ文書ヲ接受シ又ハ發議ヲ要スルトキハ其事件ヲ處理件名録ニ登記シ直ニ  
 起案又ハ供覽ノ手續ヲ爲スヘシ  
 但調査ノ爲メ二日以上ノ時日ヲ要スルモノハ部長ノ承認ヲ受クヘシ  
 第十三條 各部提出ノ文書ハ關係各部ノ回議閱覽ヲ了シタル后主務部長以外ノ助役ヲ經テ市長ノ  
 決断ヲ受クヘシ  
 但關係文書ハ其事件ノ完結ニ至ル迄一切之ヲ其文書ニ添屬スヘシ  
 第十四條 市長決断濟ノ文書ハ主務部長之ヲ受ケ參事會ヘ提出スヘシ  
 但參事會ノ決断ヲ要セサル文書ハ直ニ次條ノ手續ヲ爲スヘシ  
 參事會ノ議件中重要ノモノハ主任ヲシテ其議案ノ副本ヲ製セシメ各參事會ニ配付スヘシ  
 第十五條 參事會決断濟ノ文書ハ主務部長之ヲ受ケ第一部文書主任ニ送付スヘシ

但其事件ノ完結セルモノハ其文書ノ欄外ニ完結ノ字ヲ完結ニ至ラサルモノハ未完結ノ字ヲ朱記スヘシ

第十六條 第一部文書主任ニ於テ前條ノ文書ヲ接受スルトキハ淨書發送ノ上未完結ノモノハ立案主任ニ返付シ完結ノモノハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 參事會ノ議件中加除修正又ハ否決ニ係ルモノハ主務部長ニ於テ再查ノ上市長ノ承認ヲ經テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十八條 第一部文書主任ハ毎月五日迄ニ前月收受セシ文書中處分ノ濟否ヲ調査シ未濟事件調査ヲ製シ之ヲ主務部長ニ送付スヘシ

各部長前項ノ調査ヲ接受シタルトキハ其事由ヲ詳查シ市長ノ閱覽ニ供スヘシ

第十九條 文書整理ニ關スル諸帳簿様式并ニ發行文書文例ハ別記ノ式例ニ依ルヘシ

第二十條 各部ニ於テハ別記ノ種目ニ從ヒ臺帳原圖ヲ製置スヘシ

但種目ノ増設ヲ要スルトキハ主務部長ニ決定ムヘシ

第二十一條 各部ニ於テハ毎年處務要録ヲ製シ翌年一月十五日迄ニ市長ノ閱覽ニ供スヘシ

第二十二條 完結文書ハ別記ノ類別ニ從ヒ之ヲ編綴シ重要ノ文書ハ冊首ニ目錄ヲ付シ索引ノ便ヲ設クヘシ

但所定ノ分類ニ綴入シ難キモノ并ニ臨時事務ニ關スルモノ、分類ハ第一部長ニ決定ムヘシ

第二十三條 市長ハ休務日并ニ毎日處務時間ノ終リヨリ翌日處務時間ノ始メ迄書記書記補ノ内一名小使二名ヲ在直セシムヘシ

第二十四條 前條ノ在直者在直中文書物品ヲ收受スルトキハ在直收受簿ニ登錄シ翌朝(休務日ニ

相當スルトキハ順次翌朝トス)第一部文書主任ニ引繼クヘシ

但緊急ノ事件ハ直ニ之ヲ主務ノ部長又ハ書記ニ送付スヘシ

在直者ハ在直録ヲ製シ在直中ノ事故ヲ記録シ置クヘシ

第二十五條 市吏員ノ服務心得ヲ定ムル左ノ如シ

一 出所スレハ必ス先ツ出勤簿ニ捺印スヘシ

但定時限二十分ヲ過キ出所シタルモノハ遲參ノ旨ヲ部長ニ申出ツヘシ

二 處務時限中疾病又ハ事故ノ爲メ退所セシムルトキハ部長ノ承認ヲ受クヘシ

三 疾病又ハ事故ノ爲メ出所スルトキハ其事由ヲ記シ午前十時迄ニ届出テ病氣ノ爲メ欠勤五日以上ニ及フキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出テ爾後十五日毎ニ同様届出ツヘシ

事故ノ爲メ欠勤二日以上ニ及フトキトハ請假ヲ出願スヘシ

四 前項ノ場合ニ於テハ扱ヒ掛リノ事件ヲ同僚ニ引斷クヘシ

五 出張ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ復命スヘシ

六 退所ノトキハ公文書類ヲ筐中ニ收メ散逸セシムヘカラス

七 在直者ハ時々役所内ヲ巡視シ其取締ヲ怠ルヘカラス

八 非常ノ場合ハ各吏員出所諸事取締ヲ爲スヘシ

九 退職轉職等ノ場合ハ其擔當スル未濟事件ニ對シ演說書ヲ作り主務部長ニ引斷クヘシ

文書收受簿

配付月日部名 及其領受印	收年月日	文書件名	差出人	處分濟
年月日 何部	年月日 番	何々願	何某	年月日
年月日 部	年月日 號			處分濟

本簿登記ト共ニ其收受文書上欄外ニ左記ノ印ヲ捺シ其番號  
月日ヲ照記スヘシ

號 第收市  
受領日 月 年 治明

處理件名錄

件名及其處分要旨	差出人	起案 月日	裁決 月日	送及月 領受印其日付	備考
何々願ニ對スル指令	何役所 (何某)	月日	月日	月日 ①	年月日參事會ニ於テ修正又 ハ廢案ニ決ス依テ議決ノ通 執行或ハ廢案又ハ再議等ノ 事ヲ掲ク

文書發送簿

發送番號	發送日期	件名	宛所	發送種類		量目(字數)
				郵便	電信	
	何月何日	何々ノ件照會	何所	何	何	何々(書留)
						何錢

直使ヲ以テスルモノハ最下欄ノ記入ヲ要セス  
 本簿ハ稟申(甲番號ノ符)往復(乙番號ノ符)指令ノ三種ニ區別スヘシ

何部未濟事件調書

何月分

文書主任印

受取番號	受取日期	件名	差出人	未濟事由
號	日 月	何々ノ件	何所(何某)	何々

本調書ハ市長點檢ノ後主務部長之ヲ保存シ督促ノ資料ニ供スヘシ



文書送達簿

受領先	受領者印	送付月日	文書番號	番號ヲ付セサルモノハ件名
何部	①	月日	何第號	

公告(達)(市會議案)番號録

番號	件名	配付月日
號	何々ノ件	月日

官廳ニ對スル稟申書文例  
市甲第 號

何々ノ義ニ付稟請(請訓)(上申)(報告)  
何々々々此段稟請(請訓)(上申)(報告)候也  
年 月 日

京都市參事會  
市長 氏

名

何官氏名殿  
官廳公署ニ對スル往復書文例  
市乙第 號

何々々々此段及御照會(御回答)(御依頼)(御通知)(御報告)又ハ(申進)候也  
年 月 日

京都市參事會  
市長 氏

名

官氏名殿 (廳署ニ宛ツルトキハ市)  
役所名ヲ以テスベシ  
指令文例

指令第 號

何年何月何日付願(伺)(上申)何々ノ件許可ス(詮議ニ及ヒ難シ)(開届云々)(伺之通)(承認)  
何所(何 某)

ス(認可ス)(左ノ通心得ヘシ)  
年月日

京都市参事會

市長 氏

名

公告文例

京都市公告第 號

何々、々、相定ム

年月日

京都市参事會

市長 氏

名

達文例

京都市達第 號

區役所(區長)  
市一般  
何々

何々、々、相定ム(心得ヘシ)(スヘシ)  
年月日

京都市参事會

市會議案文例  
京都市第何號議案(報告諮詢ハ單リ報告  
(諮問)第何號トス)  
何々  
年月日提出

臺帳原圖種目

- 一 職員名簿
- 一 市費收支命令簿
- 一 慈惠基金臺帳
- 一 市立學校盲啞院基本金増減簿
- 一 文書目錄
- 一 市街細圖
- 一 市内町名簿
- 一 公園細圖
- 一 街燈配置簿并ニ圖
- 一 街廁配置簿并ニ圖

市長 氏 名

京都市参事會  
市長 氏 名

- 一 市費出納簿
- 一 市有不動産増減簿
- 一 保管金品出納簿
- 一 市公債増減簿
- 一 備品増減簿
- 一 消耗品受拂簿
- 一 郵便電信切手受拂簿
- 文書編綴類別
- 一 官廳令達
- 一 市公告級 印刷ニ付シタルモノハ別ニ番號順序ニ從ヒ編綴スルモノトス
- 一 市達級
- 一 例規級
- 一 議員選舉一件
- 一 名譽職吏員選任辭任一件
- 一 市會決議報告級 市會議案ノ印刷ニ付シタルモノハ別ニ番號順序ニ從ヒ編綴スルモノトス
- 一 市有不動産一件
- 一 市會一件
- 一 區役所一件

- 一 議事堂美術館管理一件
- 一 水利事務所一件
- 一 慈惠一件
- 一 土工一件
- 一 營繕一件
- 一 公園一件
- 一 高等小學校一件
- 一 盲啞院一件
- 一 美術工藝學校一件
- 一 染織學校一件
- 一 獎學一件
- 一 市費豫算精算一件
- 一 市費收支命令書綴
- 一 市稅一件
- 一 市公債一件
- 一 爲替方一件
- 一 金品保管一件
- 一 勸業一件
- 一 陶磁器試驗所一件

- 一 保勝一件
- 一 火防一件
- 一 號砲一件
- 一 街燈一件
- 一 避病院一件
- 一 上水試験一件
- 一 街廁一件
- 一 傳染病患者救濟一件
- 一 傳染病豫防一件

○區役所規程

明治廿九年三月卅一日市公告第二號

- 第一條 區長ハ市長又ハ市參事會ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ區内ノ行政事務ヲ掌理ス
- 第二條 區長ハ其職權若クハ監督者ノ委任事務ニ付區内ニ公告ヲ爲シ又ハ區民ニ命令ヲ發スルコトヲ得
- 第三條 區長ハ部下ノ吏員ヲ指揮監督シ其功過ヲ市參事會ニ具狀ス
- 第四條 區長ハ書記ノ進退並ニ各課長ノ命免ヲ市參事會ニ具申スルコトヲ得
- 第五條 區長ハ各掛主査以下ノ分掌ヲ命スルコトヲ得
- 但其都度市參事會ヘ報告スヘシ
- 第六條 區長ハ區書記ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七條 區長ハ定額内ヲ以テ書記補雇給仕小使ヲ命免スルコトヲ得

但シ書記補ハ月俸其他ハ日給トス

第八條 區長ハ定額内ヲ以テ書記以下ニ出張ヲ命スルコトヲ得

第九條 區長ハ成規定例アル事務ニシテ特ニ緊急ヲ要スルモノハ第三十五條ノ在直者ヲシテ臨時ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得尤モ其事項ハ豫メ市參事會ニ具申スルコトヲ要ス

第十條 區長ハ部下吏員ノ除服ヲ命シ又ハ請假ヲ許スルコトヲ得

第十一條 區長ハ定額内ヲ以テ普通消耗品及拾圓未滿ノ備付品ヲ購入スルコトヲ得

第十二條 區長ハ定額内ヲ以テ貳拾圓未滿ノ營繕ヲ爲スコトヲ得

第十三條 區長ハ署内ノ用品ヲ賣却スルコトヲ得

但一箇ノ價格壹圓以上ノ備品ハ此限リニアラス

第十四條 區長ハ主掌ノ事務ニ付裁判所聯隊區司令部郵便電信局大小林區署郡市役所町村役場府

立以下ノ學校病院本府各部署等ヘ文書ノ往復ヲ爲シ及ヒ區内人民ヲ召喚スルコトヲ得

第十五條 執務時限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 但事務繁劇ノ場合ハ此限リニアラス
- 自三月一日 至七月十日 午前八時ヨリ午後四時迄
- 自七月十一日 至九月十日 午前八時ヨリ正午十二時迄
- 自九月十一日 至十月三十日 午前八時ヨリ午後四時迄
- 自十一月一日 至二月末日 午前九時ヨリ午後四時迄
- 右ノ内土曜日ニ限リ正午十二時迄トス

第十六條 休署日ヲ定ムル左ノ如シ

但事務繁劇ノ場合ハ此限リニアラス

一月一日ヨリ同月三日迄 十二月二十九日ヨリ同月三十一日迄

日 曜 日 新年 宴會 孝明天皇祭 紀 元 節

春季皇靈祭 神武天皇祭 秋季皇靈祭 神 嘗 祭

天 長 節 新 嘗 祭

第十七條 署務ヲ分課シ庶務戶籍衛生稅務司計ノ五課ヲ置キ庶務課ヲ庶務學務兵事ノ三掛ニ分ツ

第十八條 書記以下ハ課掛ニ分屬シ各事務ニ從事ス

第十九條 各課ニ課長各掛ニ主査一人ヲ置キ其課掛ノ事務總掌ノ責ニ任ス

但課長事故アルトキハ主務ノ主査其事務ヲ代理シ掛ヲ設ケサル課ハ首席書記其事務ヲ代理ス

第二十條 臨時ノ事務ニ關シテハ特ニ委員ヲ定メ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第二十一條 各課掛ノ分掌ヲ定ムル左ノ如シ

庶務課 庶務掛

一 議員ノ選舉并ニ其資格ニ關スル事項

二 褒賞ニ關スル事項

三 濟貧恤故ニ關スル事項

四 棄兒迷子行旅病死人ニ關スル事項

五 勸業獎勵ニ關スル事項

六 通信運搬ニ關スル事項

七 度量衡ノ取締ニ關スル事項

八 社寺ニ關スル事項

九 官有地ニ關スル事項

十 街燈ニ關スル事項

十一 統計及處務要録ノ調製

十二 記録文書ノ保管

十三 諸令達告示等ノ周知ニ關スル事項

十四 區長印役所印ノ管守

十五 區吏員ノ身分ニ關スル事項

十六 署内ノ取締ニ關スル事項

十七 給仕小使ノ監督

右ノ外他課掛ノ主管ニ屬セサル事項

同 學務掛

一 尋常小學區ノ會議ニ關スル事項

二 尋常小學校幼稚園ノ設廢并ニ其監督ニ關スル事項

三 尋常小學校幼稚園ノ歲入出及ヒ其基本財産ニ關スル事項

四 就學督責ニ關スル事項

五 授業料ニ關スル事項

六 尋常小學區學務委員及ヒ同學校幼稚園ノ職員ニ關スル事項

- 七 教員檢定願ニ關スル事項
- 八 尋常師範學校生徒ニ關スル事項
- 右ノ外學事ニ關スル事項

同 兵事掛

- 一 徵兵ニ關スル事項
- 二 徵發ニ關スル事項
- 三 兵員召集ニ關スル事項
- 四 軍人軍屬ノ身分ニ關スル事項
- 右ノ外兵事ニ關スル事項

戶籍課

- 一 戶籍簿ノ調理ニ關スル事項
- 二 寄留人ニ關スル事項
- 三 埋火葬認許ニ關スル事項
- 四 遺留財産ニ關スル事項
- 五 區内住民印鑑簿ノ整理ニ關スル事項
- 六 戶籍上ノ記事及犯罪破産印鑑證明等ニ關スル事項
- 右ノ外戶籍ニ關スル事項

衛生課

- 一 種痘ニ關スル事項

- 二 傳染病中毒患者ノ報告ニ關スル事項
- 三 傳染病豫防消毒ニ關スル事項
- 四 傳染病ニ罹ル貧民救濟ニ關スル事項
- 五 溝渠浚渫及ヒ塵芥採収ニ關スル事項
- 六 街廁ニ關スル事項
- 七 病院醫士藥劑師鍼灸產婆賣藥業者ニ關スル事項
- 八 湯屋演劇興行場人寄席等ノ營繕ニ關スル事項
- 九 衛生組合ニ關スル事項
- 右ノ外衛生ニ關スル事項

稅務課

- 一 土地臺帳ノ整理ニ關スル事項
- 二 國稅徵收及ヒ送納ニ關スル事項
- 三 賦金徵收及ヒ送納ニ關スル事項
- 四 市稅及ヒ雜收入ノ徵收及ヒ送納ニ關スル事項

司計課

- 一 役所經費ニ關スル事項
- 二 物品調度ニ關スル事項
- 三 署内營繕ニ關スル事項
- 四 爲替方ニ關スル事項

- 五 財産管理ニ關スル事項
- 六 貸下金ニ關スル事項
- 七 寄託金ニ關スル事項
- 第二十二條 文書物品ハ各課掛ニ於テ直ニ之ヲ收受スルモノトス  
但郵便又ハ通運ニ付シ送付スルモノ及ヒ封書ニシテ持參人其事件ヲ知ラサルモノハ庶務課庶務掛ニ於テ收受シ開封ノ上(親展書ヲ除ク)主務ノ課長ニ配付スルモノトス
- 第二十三條 各課掛ニ於テ收受スル文書物品ハ(庶務掛并ニ在直者ヨリ配付ノ分共)收受簿ニ登録シ(本書ニ受付月日ヲ照記スルモノトス)受理主任之ニ認印スヘシ
- 第二十四條 各主任ニ於テ起草スル處分按ハ其事件ヲ處務件名録ニ登録シ關係課掛回議ヲ經テ區長ノ決裁ヲ受クヘシ
- 第二十五條 諸届報告等ノ如キ回覽文書ニシテ原簿ニ登録又ハ訂正ヲ要スルモノハ本書ノ餘白ニ登録又ハ訂正ノ月日ヲ付記シ主任認印ノ上回覽スヘシ
- 第二十六條 各主任ニ於テ午前ニ於テ受領セシ文書ハ即日午後ニ受領セシ文書ハ翌日午前迄ニ處理スヘシ調査上時日ヲ要スルモノハ三日以内トス若シ期限内ニ處理シ難キ理由アルトキハ區長ノ認可ヲ受ケ相當ノ延期ヲ爲スコトヲ得
- 第二十七條 課長ハ日々收受簿ヲ點檢シ處務ノ滯滞ナキヤ否ヤヲ監査スヘシ
- 第二十八條 文書ノ淨書ハ課掛ニ於テスヘシ
- 第二十九條 文書物品ノ發送ハ各課掛ニ於テスヘシ  
但郵便又ハ通運或ハ使丁ヲ以テスルモノハ庶務課庶務掛ニ於テ發送スヘシ

- 第三十條 各課掛ニ於テ發送スル文書物品ハ(庶務掛ヲ經テ發送スルモノトモ)發送簿ニ登録シ(指令回答ノ如キ收受文書ニ依リ處分セシモノハ收受簿ニ點合ノ上)發送主任之ニ認印スヘシ
- 第三十一條 各課掛名若クハ主任名ヲ以テ官廳又ハ他ノ公署ト文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三十二條 人民ノ召喚ヲ要スルトキハ召喚簿ニ其事由ヲ詳記シ區長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十三條 處理ヲ了セシ文書ハ分類逐次年ヲ以テ(會計ニ係ル文書ハ會計年度ニ依リ)編綴スヘシ  
但重要ノ文書ハ冊首ニ目錄ヲ付シ索引ノ便ヲ設クヘシ
- 第三十四條 各課掛ハ日誌ヲ製シ處務ノ概要ヲ記錄スヘシ
- 第三十五條 毎曆年ニ依リ處務要録ヲ製シ翌年一月二十日ニ市參事會ニ報告スヘシ
- 第三十六條 休署日並ニ毎日執務時限ノ終リヨリ翌日執務時限ノ始メ迄ハ書記書記補(雇ヲ除ク各一名小使三名ヲ在直セシムヘシ  
但休署日在直ハ晝夜ニ區別シ晝直ハ執務時間夜直ハ執務時限ノ終リヨリ翌日執務時限ノ始メ迄トス
- 第三十七條 前條ノ在直者在直中ニ收受スル文書物品ハ在直收受簿ニ登録シ翌朝(翌朝休署日ニ相當スルトキハ順次次直者ニ引續クヘシ)主務ノ課長ニ配付スヘシ  
但緊急ノ事件ハ直ニ之ヲ主務ノ課長ニ送付シ其處分ヲ求ムヘシ
- 第三十八條 區吏員ノ服務心得ヲ定ムル左ノ如シ  
一 出署スレハ必ス先ツ出勤簿ニ捺印スヘシ

但定期時限二十分ヲ過キ出署シタルモノハ遲參ノ旨ヲ區長ニ申出ツヘシ尤モ公務ノ爲メ遲參シタルトキハ出勤簿ニ捺印スルコトヲ得

二 執務時限中疾病又ハ事故ノ爲メ退署セントスルトキハ區長ノ認可ヲ受クヘシ

三 疾病又ハ事故ノ爲メ出署スルヲ得サルトキハ其事由ヲ記シ午前十時迄ニ届出ツヘシ病氣ノ爲メ欠勤五日以上ニ及フトキハ醫士ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出テ爾後十五日毎ニ同様届出ツヘシ事故ノ爲メ欠勤二日以上ニ及フトキハ請假ヲ出願スヘシ

四 前條ノ場合ニ於テ扱ヒ掛リノ事件ヲ同僚ニ移スノ手續ヲ爲スヘシ

五 出張ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ復命スヘシ

六 退署ノトキハ公文書類ヲ筐中ニ收メ散逸セシムヘカラス

七 第三十五條ノ在直者ハ在直中時々署内ヲ巡視シ其取締ヲ怠ルヘカラス

八 非常ノ場合ハ各吏員出署請事取締ヲ怠ルヘカラス

九 退職轉職等ノ場合ハ其擔當スル未済事件ニ對シ演說書ヲ作り主務ノ課長ニ引繼クヘシ

第三十九條 區長ハ本規程ノ細則ヲ設ケ市參事會ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

○水利事務所規程

明治卅二年四月二十五日市達第一〇三號

第一條 疏水路發電事業ノ管理並ニ運河水力電動力等ノ使用及ヒ大津市街飲料水補給ニ關スル事務ヲ處辨スル爲メ水利事務所ヲ設置ス

第二條 水利事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

一 所長 一人

一 理事 一人

一 技師 若干

一 書記 若干

一 技手 若干

第三條 水利事務所ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

一 書記 補 若干

一 工手 若干

一 定夫 若干

一 給任使丁 若干

第四條 所長ハ市長又ハ市參事會ノ指揮監督ヲ受ケテ所務ヲ整理シ其委任ニヨル事項ヲ專決ス

第五條 所長ハ所屬吏員以下ヲ指揮監督シ其功過ヲ市長又ハ市參事會ニ具狀ス

第六條 所長ハ主掌ノ事務ニ付京都府廳各課警察署郡市役所町村役場等ノ官公署其他關係人ニ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第七條 理事ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第八條 所務ヲ分ツテ左ノ三部ヲ置ク

一 庶務部

一 電氣部

一 土木部

第九條 各部ニ部長ヲ置キ庶務部長ハ理事ヲ以テ之ニ充テ電氣部長土木部長ハ技師又ハ技手ヲ以



テ之ニ充ツ

第十條 各部長ハ部務總掌ノ責任シ其部員ヲ指揮監督ス  
 但部長事故アルトキハ其部首席ノ書記技手其職務ヲ代理ス  
 第十一條 各部ニ屬スル事務ノ分掌ヲ定ムル左ノ如シ

庶務部

- 一 水利事業ニ關スル收支豫算ノ整理並ニ司計ニ關スルコト
  - 二 文書ノ收受發送及ヒ其保管ニ關スルコト
  - 三 諸統計並ニ記錄編輯ニ關スルコト
  - 四 運河並ニ水力電動力ノ使用願ニ關スルコト
  - 五 疏水路ノ捕魚枯損木竹雜草等賣却及付屬地ノ使用願ニ關スルコト
  - 六 船体及通船ノ取締ニ關スルコト
  - 七 財産ノ整理並ニ處分ニ關スルコト
  - 八 物品ノ購買並ニ其保管出納ニ關スルコト
  - 九 諸收入金徵收ニ關スルコト
  - 十 諸請求金支出ニ關スルコト
  - 十一 用品ノ處分ニ關スルコト
  - 十二 所員ノ身分及ヒ服務紀律ニ關スルコト
  - 十三 公印監守ニ關スルコト
- 右ノ外他部ノ主管ニ屬セザル事項

電氣部

- 一 電氣機械器具及付屬品ノ設備修繕並ニ其監護ニ關スルコト
  - 二 電柱電線及付屬品ノ設備修繕並ニ其監護ニ關スルコト
  - 三 電氣力ノ作用并ニ其監査ニ關スルコト
  - 四 電話機ノ設備修繕ニ關スルコト
  - 五 主管ニ屬スル經費豫算ノ取調ニ關スルコト
- 土木部
- 一 通水ニ關スルコト
  - 二 通水并ニ通船路ノ監護ニ關スルコト
  - 三 水位觀測ニ關スルコト
  - 四 水路閘門堰門及インクタイン等ノ工事ニ關スルコト
  - 五 通水路ニ關係アル道路橋梁等ノ工事ニ關スルコト
  - 六 水車水路等ノ水量監査ニ關スルコト
  - 七 諸建築ニ關スルコト
  - 八 飲料水補給并ニ其工事ニ關スルコト
  - 九 主管ニ屬スル經費豫算取調ニ關スルコト
- 第十二條 各部中ノ事務分擔方法并ニ部員職務順序ハ所長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得  
 第十三條 技手以上ノ休務日并ニ其職務時限ハ市役所ノ例ニ依ルヘシト雖モ各部各當直ヲ設ケ事  
 務ニ差支ヘナカシムヘシ

第十四條 書記補以下ハ一定ノ休務日ヲ設ケス其服務時間休憩時間ハ第十二條ノ執務順序中ニ規定スヘシ

第十五條 本所ニ收受スル文書ハ所長檢閱ノ上收受簿ニ登記シ之ヲ各主任ニ配付スヘシ但口頭ヲ以テ申出ツル事件ハ其旨ヲ所長ニ通告シ速ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十六條 各主任前條ノ文書ヲ接受スルトキハ處理件名録ニ登記シ速ニ處理ノ手續ヲ爲スヘシ但調査ノ爲メ二日以上ノ時日ヲ要スルモノハ所長ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 各主任提出ノ文書ハ關係各部ノ回讀閱覽ヲ了シタル後理事ヲ經テ所長ニ提出スヘシ其委任外ノ事件ニ係ルモノハ市役所第二部ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

但關係文書ハ其事件ノ完結ニ至ル迄一切之ヲ其文書ニ添屬スヘシ

第十八條 決開濟ノ文書ハ總テ庶務部ニ送付シ同部ニ於テ淨書發送ノ上未完結ノモノハ各主任ニ返付シ完結ノモノハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ

但其事件ノ完結セルモノハ其文書ノ欄外ニ完結ノ字ヲ完結ニ至ラサルモノハ未完結ノ字ヲ各立案主任ニ於テ朱記スヘシ

第十九條 庶務部ニ於テハ毎月五日迄ニ前月收受セシ文書中處分ノ濟否ヲ調査シ未濟事件調査ヲ製シ之ヲ所長ニ提出スヘシ

第二十條 所長ハ各部長ヲシテ毎年處務要録ヲ製セシメ翌年一月十五日迄ニ市長ヘ提出スヘシ第二十一條 文書整理ニ關スル諸帳簿様式并ニ發行文書文例ハ別記ノ式ニ依ルヘシ

第二十二條 臺帳原簿并ニ文書ノ編綴ハ概テ別記ノ類別ニ從ヒ重要ノ文書冊首ニ目錄ヲ付シ索引ノ便ヲ設クヘシ

第二十三條 所員ノ服務心得ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 出所スレハ必ス出勤簿ニ捺印スヘシ
- 二 但定時限二十分ヲ過キ出所シタルモノハ遲參ノ旨ヲ部長ニ申出ツヘシ
- 三 處務時間中疾病又ハ事故ノ爲メ退所セントスルトキハ部長ノ承認ヲ受クヘシ
- 四 疾病又ハ事故ノ爲メ出所スルヲ得サルトキハ其事由ヲ記シ出勤時限迄ニ届出テ病氣ノ爲メ欠勤五百以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出テ爾後十五日毎ニ同様届出ツヘシ事故ノ爲メ欠勤二日以上ニ及フトキハ請假ヲ出願スヘシ
- 五 前項ノ場合ニ於テハ扱ヒ掛リノ事件ヲ同僚ニ引繼クヘシ
- 六 出張ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ復命スヘシ
- 七 退所ノトキハ公文書類ヲ筐中ニ收メ散逸セシムヘカラス
- 八 在直者ハ時々所内ヲ巡視シ其取締ヲ怠ルヘカラス
- 九 非常ノ場合ハ各所員出所諸事取締ヲ爲スヘシ
- 十 退職轉職等ノ場合ハ其擔當スル未濟事件ニ對シ演說書ヲ作り主務部長ニ引繼クヘシ

文書收受簿

配付月日部名 及其領受印	年月日	收	年月日
受	番	號	號
文書件名	何々願	何	某
差出人	何	某	年月日
處分濟	年月日	處分濟	年月日

第 號  
明治 年 月 日 領收

本收受簿ハ甲乙内ニ區分シ甲ハ願伺乙ハ届上  
申丙ハ照會トス  
本簿登記ト共ニ其收受文書上欄外ニ上掲ノ印  
ヲ捺シ其番號月日ヲ登記スヘシ

處理件名錄

差出人	何 某	何々願ニ對スル指令	起案 月日	裁決 月日	送月及領受印 日 月 日	備 考
			日 月	日 月	日 月 日	

文書發送簿

		號何第何	號番送發
		日何月何	日月送發
		何	發送先
		所	件
		何々ノ件	名
			月回
			日答

本簿ハ丁戌巳庚辛壬ニ區別シ及本簿ニ倣ヒ指令番號録ヲ製スヘシ

		號	號番受收
		日 月	日月付配
		何々ノ件	件
			名
		何所(何某)	差出人
		何々	未濟事由

本調書ハ所長點檢ノ後主務部長之ヲ保存シ督促ノ資料ニ供スヘシ

文書送達簿

受領先	受領者印	送付月日	文書番號
何々所	印	月 日	何第 號

官公署往復文例

○第 號

何々々々此段及御照會(御回答)(御依頼)(御通知)(御報告)又ハ(申進)候也

年月日

京都水利事務所

宛(宛名人職名氏名ヲ記スル) (場合ハ所長氏名ヲ用フ)

指令文例

水指第 號

何 所 (何 某)

何年何月何日付願(伺)(上伸)何々ノ件許可ス(詮議ニ及ヒ難シ)(開届云々)(伺之通)(承認ス)

(認可ス)(左ノ通心得ヘシ)  
年月日

京都市水利事務所長 氏 名印

臺帳原圖種目

- 一 職員名簿
- 一 財產臺帳
- 一 土地臺帳
- 一 電力、水力、運輸船、遊船臺帳
- 一 電力水力使用料徴收原簿
- 一 琵琶湖疏水線路圖面
- 一 文書目錄
- 一 發電所及ドラム工場圖面
- 一 事業費出納簿
- 一 備品臺帳
- 一 備品増減簿
- 一 消耗品受拂簿
- 一 郵便電信切手受拂簿
- 一 文書編綴類別
- 一 市公告綴

- 一 市達級
- 一 例規級
- 一 他所願伺届書級
- 一 他所届上申書級
- 一 他所照會級
- 一 當所願届書級
- 一 當所照會並注文書級
- 一 當所上申書級
- 一 參事會諮問決議書級
- 一 當所限處分書級
- 一 當所限雇員以下進退級
- 一 物品購入其他諸般ニ係ル契約書級
- 一 土地使用請書級
- 一 運河通船及貨物取調書級

○市學務委員規程

明治廿五年五月十八日制定

第一條 明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令第六十條ニ依リ設置スヘキ學務委員ハ市參事會員一名市會議員二名市公民中選舉權ヲ有スル者四名ヲ以テ組織シ市立高等小學校教員二名ヲ加フ

第二條 委員ハ公民ヨリ出ツルモノニシテ議員若クハ參事會員トナリ又ハ市參事會員及議員ヨリ出ツルモノニシテ其本分ノ職務ヲ罷メ及議員ニシテ參事會員ヲ兼ヌルトキハ同時ニ消滅スルモノトス

第三條 學務委員ニハ一人一ケ年報酬トシテ金五拾圓實費辨償トシテ金五拾圓ヲ給與ス但有給市參事會員及教員ヨリ加ハルモノハ此限リニアラス

○尋常小學區學務委員條例

明治廿八年六月三日 市公告第五〇號

條例第三十六號

第一條 明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第七十五條ニ依リ京都市各尋常小學區ニ學務委員ヲ置ク

第二條 學務委員ノ定員ヲ各區三名トシ二名ハ其區會ニ於テ區内ニ住スル市公民ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ一名ハ其區ニ於ケル市立尋常小學校教員ヲ以テ之ニ充ツ

但教員ヨリ出ツルモノハ市長之ヲ任免ス (小學校令改正ノ結果自然消滅)

第三條 學務委員ノ任期ハ教員ヨリ出ツルモノヲ除キ二ケ年トス (全上)

第四條 學務委員ハ名譽職トス

第五條 學務委員タル資格ノ要件ヲ失フトキハ其職ヲ失フモノトス (全上)

第六條 學務委員ニハ區會ノ議決ニヨリ相當ノ報酬ヲ給スルコトヲ得但教員ヨリ出ツルモノハ此限ニアラス

第七條 本條例ニ規定スルモノ、外委員ノ選舉及職務權限等ハ總テ市制及小學校令ノ規定ニヨル

○市臨時勸業委員規程

明治卅四年六月廿七日  
市公告第一五四號

- 第一條 明治三十六年大坂市ニ於テ開設セラル、第五回内國勸業博覽會ニ際シ勸業上必要ナル施設ヲ爲シテ本市ノ繁榮ヲ計ルヲ目的トシ市制第六十一條ニユリ臨時勸業委員ヲ置ク
- 第二條 委員ハ市參事會ノ監督ニ屬シ前條ノ事業ヲ調査シ其施設ヲ計圖スルモノトス
- 第三條 委員ハ其定員ヲ十五名トシ市參事會員三名市會議員七名市民中撰舉權ヲ有スル者五名ヲ以テ組織ス
- 第四條 委員ハ公民ユリ出ツル者ニシテ市參事會員又ハ市會議員トナリ又ハ市參事會員及市會議員ユリ出ツル者ニシテ其本分ノ職務ヲ罷メ或ハ市會議員ニシテ市參事會員ヲ兼スルトキハ之レト同時ニ委員ノ資格消滅スルモノトス
- 第五條 委員ノ任期ハ明治三十六年十二月末日迄トス

○市臨時傳染病豫防委員設置之件

明治卅五年七月  
十二日市會議決

本年七月本府訓令第一〇二號ニ依リ本市ニ設置スヘキ臨時傳染病豫防委員ノ定員ヲ七名トシ市參事會員一名市會議員二名市民中選舉ヲ有スル者三名ヲ以テ組織ス  
但シ市民中ユリ加ハル者ノ内二名ハ醫師トス

○市收入役責任及身元保証金規程

明治卅一年十月十四  
日市公告第四五號

第一條 市收入役ハ其責任ニ屬スル會計ニ對シ自身其事務ヲ執行セラルナ理由トシ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第二條 市入役ニ賠償ヲ爲サシムルニハ市長其理由ヲ市參事會ニ報告シ其決議ニ依リ之ヲ執行スルモノトス

第三條 市收入役ハ水火盜難又ハ其他ノ事故ニ由リ其保管スル所ノ現金若クハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テス保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ市長ニ證明シ市長ハ之ヲ市參事會ニ報告シ其決議ニ依リ責任解除ヲ受クルニアサレハ賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 市收入役ハ毎年度ノ收支決算ニ對シ市會ニ於テ當止ナルヲ認定シタル時ヲ以テ責任解除ヲ受ケタルモノトス

第五條 市收入役ノ退職ニ際シテハ市長ハ助役一人若クハ二名ヲ以テ臨時検査委員トシ退職ノ日ヨリ十日以内ニ在職中ノ出納ヲ検査セシメ其正當ナルヲ認ムルトキハ之ヲ市參事會ニ報告シ其決議ニ依リ責任解除ヲ爲スモノトス

第六條 市收入役ノ身元保証金ハ千圓以上トシ千五百圓ヲ超ヘサルモノトス

身元保証金ハ公債証書ヲ以テ之レニ換用スルコトヲ得其額ハ時價相當以上トス

身元保証金ハ就職後五日以内ニ之ヲ徴收シ退職ノトキハ責任解除ヲ爲スト同時ニ之ヲ還付ス

○市長代理順序條例

明治卅一年十一月卅日  
市公告第五九號

條例第三十號

市制第六十九條ニ依リ市長代理順序ヲ定ムル左ノ如シ

市長缺員又ハ故障アルトキハ上席助役其職務ヲ代理シ上席助役故障アルトキ其他ノ助役之ヲ代理ス

但助役ハ俸給ノ多額者ヲ上席トシ俸給同額ナルトキハ前任者ヲ上席トス

○市書記及技師技手定員規程

明治卅一年十月五日市公告第四〇號

市制第五十九條ニヨリ市役所在勤ノ書記並ニ技師技手ノ定員ニ關スル規程ヲ定ムル左ノ如シ  
一 書記ハ定員三十五人以内トシ其給料定額ニ殘餘アルトキハ本項ノ定員ニ拘ラス臨時雇ヲ使用スルコトヲ得

一 技師技手ヲ通シテ其定員ヲ二十人以内トシ其給料定額ニ殘餘アルトキハ本項ノ定員ニ不拘臨時雇ヲ使用スルコトヲ得

但特殊ノ工事ニ關シテハ別ニ臨時技師技手ヲ使用スルコトヲ得

○區書記并ニ書記補定員規程

明治卅一年十二月七日市公告等六二號

市制第六十條ニヨリ區役所在勤ノ書記并ニ書記補ノ定員ニ關スル規定ヲ定ムル左ノ如シ  
一 書記ハ上京四十三人下京五十二人書記補ハ上京四十五人下京五十二人トシ其給料定額ニ殘餘アルトキハ本項ノ定員ニ拘ハラス臨時雇ヲ使用スルコトヲ得

○市長專決事項

明治卅一年十一月一日制定

處務ノ敏捷ヲ希圖スル爲メ左記ノ事項ハ其都度參事會ノ議決ヲ簡略シ市長限リ專決セントス  
但專決權内ニ屬スル事項中最モ簡易至急ノモノニ限リ市長ノ意見ニ依リ之ヲ主務部長ニ分任スルコトアルヘシ  
一 本市經濟ニ關スル收入支出傳票ヲ發スル事

一 市役所并其直轄事務ニ屬スル經費豫算中普通消耗品及拾圓未満ノ備付品ヲ購入スル事

一 本市ニ屬スル吏員職員雇員ヲ命免シ臨時諸傭人ヲ使役スル事

但月俸拾五圓以上ノモノヲ除ク

一 豫算定額内ニ於ケル貳拾圓未満ノ工事ヲ施行スル事

一 所屬吏員ニ除服ヲ命シ書記以下ノ請暇ヲ許スル事

一 書記以下ニ出張ヲ命スル事

一 所屬吏員ノ監督ニ關スル命令ヲ發スル事

一 成規定例アル公告令達ヲ發シ又ハ之ヲ官廳ニ報告スル事

一 處案調査ニ屬スル照復ヲ爲ス事

一 官公署ノ依頼ニ依リ其主旨ヲ移牒スル事

一 無記名証書ヲ記名証書ニ記名証書ヲ無記名証書ニ變更スル事

一 記名証書ノ債權移轉之事

一 証書亡失代証書交付ノ事

一 尋常小學校職員ノ俸給額ヲ定ムル事

一 常用備付品ヲ修繕スル事

一 不用品ヲ處分スル事

一 但用不用ヲ決定スルハ此限ニアラス

一 學區會ノ議案ヲ發スル事

一 議事堂ノ使用并備品貸與ヲ許否スル事



- 一 道路上作業願ヲ許否スル事
- 一 臨時水防ヲ施行スル事
- 一 成規定例アル各種ノ証明ヲ與フル事
- 一 公園内ノ土地建物一時使用願ヲ許否スル事
- 一 公園内ノ建物増築變更并ニ其修繕願ヲ許否スル事
- 一 公園道路并ニ水部上使用人名義變更願ヲ許否スル事
- 一 電氣事業取締規則第十四條、第十五條、第十七條、第三十四條、第三十五條、第三十六條、第三十七條、第三十八條、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第七十四條、第七十七條ニ係ル逓信大臣及地方長官へ出願届出ニ係ルコト
- 一 道路使用願ノコト
- 一 水利事務所長、理事、技師等出張ヲ命スル事
- 一 道路使用ニ關スル支障有無決定ノ事

○區長分掌事務

明治卅一年十月一日  
市公告第三九號

市制第七十四條ニヨリ左ノ事務ヲ區長ニ分掌セシム

- 一 國稅徵收ニ關スル事

○市參事會管掌事務區長分任條件

明治卅一年十二月五日  
市公告第六〇號

市參事會管掌事務中左記ノ事項ヲ各區長ニ分任候條該事項ニ關スル願届ハ所轄區長へ差出スヘシ

- 一 區内各尋常小學區ノ所有財産管理ノ事
- 二 區内各尋常小學區費收入支出ノ事
- 三 區内各尋常小學區費收支決算表調製ノ事
- 四 區内各尋常小學區基本財産ノ設廢ニ關スル學區會ノ議決執行ノ事
- 五 市町村立小學按徒弟學校實業補習學校正教員恩給基金收納規則ニ依リ市立尋常小學校正教員恩給基金收納ニ關スル事
- 六 市稅賦課徵收ノ事  
但第二種所得稅本市公債ノ利子ニ對スル附加稅ハ此限リニ在ラス
- 七 市稅滯納處分ノ事
- 八 使用料及手數料徵收ノ事  
但一時限ノモトハ此限リニアラス
- 九 使用料及手數料滯納處分ノ事

○市長管掌事務區長分任條件

明治卅一年十二月八日  
市公告第六六號

市長管掌事務中左記ノ事項ヲ各區長ニ分任候條該事項ニ關スル願届ハ所轄區長ニ差出スヘシ

- 一 府雜收入金徵收ノ事
- 一 官有地借用者ニ其破損所ヲ修繕セシムルコト
- 一 賣藥請賣並ニ行商鑑札下付ノコト
- 一 學齡兒童就學ニ關シ市長ノ取扱ニ屬スル一切ノコト

- 一 市立尋常小學校ノ校舎等ヲ小學校ノ目的外ニ使用セントスルトキノ許可稟請ノコト
- 一 傳染病ノ流行其他非常ノ變災急迫ナル場合ニ於テ一時市立尋常小學校ノ幼稚園ヲ閉鎖スルコト
- 一 小學校教員及幼稚園保母檢定額ニ關シ市長ノ取扱ニ屬スル一切ノコト
- 一 度量衡法ニ依リ市長ノ取扱ニ屬スル一切ノコト
- 一 迷兒棄兒及行旅病人變死傷行倒人精神病者ニ關スルコト
- 一 賦金徵收ニ關スルコト
- 一 國稅滯納處分剩餘金行旅死亡人所持金漂流物公賣代等預金局ヘ寄託ノコト
- 一 諸貸付金債務者ニ關スルコト
- 一 漂流物公賣代金取扱ニ關スルコト
- 一 變災被害及救助處分報告ノコト
- 一 海外旅行願ニ關スルコト
- 一 煙草耕作人心得中市長ノ取扱ニ屬スルコト
- 一 傳染病豫防消毒執行ニ關スルコト
- 一 種痘施行ニ關スルコト
- 一 藥種商並製藥者願届ニ關スルコト
- 一 中毒並ニ麻疹患者報告ニ關スルコト
- 一 回歸熱者届ニ關スルコト
- 一 賣藥鑑札料徵收ノコト

- 一 清潔法施行ニ關スルコト
- 一 衛生組合ニ關スルコト
- 一 埋火葬認許証交付ノコト
- 一 醫術開業并ニ試驗願届ニ關スルコト
- 一 産婆營業并ニ試驗願届ニ關スルコト
- 一 按摩按腹營業願ニ關スルコト
- 一 賣藥營業願届ニ關スルコト
- 一 製氷貯雪願ニ關スルコト
- 一 醫師取締規則ニ關スル諸願届ノコト
- 一 藥劑師取締規則ニ關スル諸願届ノコト

○水利事務所長分任條件

明治卅一年十一月一日 定

- 自今左記ノ事件ニ限リ其所々長ニ其處分權ヲ分任ス
- 但第十項ハ處分ノ都度其他ハ毎月一口其前月中ニ於ケル處分事項ヲ報告スヘシ
- 一 條例ノ規定ニ從ヒ運河并ニ水力電動力ノ使用願ヲ許否スル事
  - 二 豫算定額内ニ於テ一ヶ所百圓未滿ノ工事ヲ施行シ一物品拾圓未滿ノモノヲ講求スル事  
但天變地異ニヨリ臨時急施ヲ要スルトキハ本項ノ範圍外又ハ豫算以外ト雖トモ臨機適  
應ノ處置ヲ施シ直ニ其旨ヲ市長ニ報告スヘシ
  - 三 水利事業ニ關スル諸收ノ收入合書ヲ發シ其旨ヲ收入役ニ報告スル事

- 四 疏水路ニ於ケル捕魚採藻頭ヲ許否スル事
- 五 疏水路并ニ其附屬地ニ於ケル枯損木竹雜草其他障礙物ヲ除却シ并ニ之ヲ賣却スル事  
但一物件ノ價格拾圓以上ナルトキハ此限リニアラス
- 六 所屬吏員ニ出張ヲ命スル事  
但疏水路并ニ送電所ニ屬シ市町村ヲ除クノ外本市外ノ出張ハ此限リニアラス
- 七 所屬雇工夫開門番インクライン番定夫水位觀測人火夫給仕小使等ヲ命免スル事
- 八 主管ニ屬スル不用品ヲ賣却スル事  
但一物件ノ價格拾圓以上ナルトキハ此限リニアラス
- 九 所屬吏員ニ除服ヲ命シ雇以下ニ公暇ヲ與ヘ并ニ私事旅行許否スル事
- 十 疏水路及電氣機械修繕等ノ爲メ通水通船又ハ送電ヲ停止スル事  
但三日以上ニ涉ルトキハ此限リニ非ラス

○學務委員ノ管理スヘキ教育事務

明治廿五年八月廿五日  
市公告第五二號

明治二十三年<sup>十月</sup>法律第八十九號地方學事通則同年<sup>同</sup>勅令第二百五號小學法令ノ規程ニ從ヒ本市ニ於テスヘキ教育事務ニ關シ市制第七十三條ニ依リ本市及本市內尋常小學區ノ學務委員ヲシテ取扱ハシムヘキ事務ノ要項概テ左ノ如シ

第一條 學務委員ニ於テ取扱フヘキ教育事務ノ要項左ノ如シ

- 一 市立小學校ノ修業年限、教科目加除、專修科、補習科、隨意科目及設備等ニ關スル取調ヲナシ意見ヲ市參事會ニ提出ノ事

- 二 市立學校小教員ノ旅費額及其教員ヲシテ執務時間ノ制限以外ニ補習科ノ教授ヲ擔當セシムル場合ニ於ケル報酬金額ニ關シ意見ヲ市參事會ニ提出ノ事
  - 三 市立學校圖書館ノ設置廢止等ニ關シ意見ヲ市參事會ニ提出ノ事
  - 四 市立學校圖書館ノ經費及學務委員職務取扱費ノ豫算表ヲ調製シ市參事會ニ提出ノ事
  - 五 市立學校圖書館基本財産ノ設備等ニ關シ意見ヲ市參事會ニ提出ノ事
  - 六 市立學校圖書館ニ供給スル市有財産管理ノ方法及其不動産ノ賣買等ニ關シ意見ヲ市參事會ニ提出ノ事
  - 七 市立學校圖書館ノ建物新築改造等ニ際シ工事監査ノ事
  - 八 市立學校圖書館ノ經費豫算內ニ於ケル修繕執行ノ事  
但工費拾圓以上ノモノニ關シテハ豫メ市參事會ニ申立其決定ニ依ルモノトス
  - 九 市立學校圖書館ノ經費及學務委員職務取扱費豫算內ニ於ケル諸物品購買ノ事  
但備付品ノ代價拾圓以上ノモノニ關シテハ前款但書ノ例ニ依ル
  - 十 市立學校圖書館及學務委員事務所等ニ於ケル不用品賣却ノ事  
但代價五圓以上ノモノニ關シテハ第九款但書ノ例ニ依ル
  - 十一 其他市立學校圖書館等ニ屬スル事項ニ關シ臨時市參事會ニ於テ依托ノ件取扱ノ事
- 第二條 前條第一款乃至第十款ノ事務ニ關シ尋常小學區ノ學務委員ニ於テスヘキモノ及小學校教育ノ範圍ニ屬セサルモノニ就キテハ市ノ學務委員之ニ關與セサルモノトス
- 第三條 尋常小學區ノ學務委員ニ於テ取扱フヘキ教育ノ要件左ノ如シ
- 一 尋常小學區費收入支出豫算案其他學區會ニ付スヘキ議案取調ノ事

二 市立尋常小學校幼稚園ノ建物新築改造等ニ際シ工事監督ノ事

三 市立尋常小學校幼稚園ノ經費豫算内ニ於ケル修繕執行ノ事  
但工事拾圓以上ノモノニ關シテハ豫メ該尋常小學校幼稚園ヲ管理スヘキ區長ニ申立其決定ニ依ルモノトス

四 市立尋常小學校幼稚園ノ經費並ニ學務委員職務取扱費及會議費豫算内ニ於ケル諸物品購買ノ事  
但備付品ノ代價拾圓以上ノモノニ關シテハ前款但書ノ例ニ依ル

五 市立尋常小學校幼稚園及ヒ學務委員事務所等ニ於ケル不用物品賣却ノ事  
但代價五圓以上ノモノニ關シテハ第三款但書例ニ依ル

六 其他尋常小學校ニ屬スル事務ニ關シ便宜區長ニ於テ依托ノ件取扱ノ事

○參事會員就職退職期日  
明治廿六年三月十五日  
市公告第七號

參事會員ノ滿期退職ヲ其年五月三十一日トシ新任ノ就職ヲ六月一日トス

○市名譽職員退任者彰切規程  
明治卅四年十月七日  
市公告第一九五號

第一條 滿十二年以上市參事會員市會議員又ハ市ノ常設臨時委員ノ職ニ在ル者退任シタルトキハ本市ハ有功章ヲ贈與シ其功勞ヲ表彰スルモノトス  
但シ數職ヲ兼ヌルモノニシテ其一ヲ退任シタル時在職滿十二年以上ニ及フモノハ本條ノ退任者ト見做ス

第二條 前條ニ該當スルモノニシテ其在職滿十二年以上十八年未滿ナル者ハ本規程第五條ノ第一號章ヲ贈與シ滿十八年以上ニ及フトキハ更ニ第二號ノ章ヲ贈與シ滿二十四年以上ニ及フトキハ尙ホ第三號章ヲ贈與ス

第三條 前條ノ有功者ニシテ其功勞顯著ナリト認ムル者ハ特ニ市參事會ノ審査ヲ經テ其章ノ價格ト同額以内ノ物品ヲ加贈スルコトアルモ此ノ場合ニ於テ二個以上有功章ノ贈與ヲ受ケタルモノニハ每章ノ價格合算額以内ノ物品ヲ加贈スルコトヲ得

前項物品ハ當該者第一條公職ノ一ニ就任スル間ハ加増セサルモノトス

第四條 在職年數通算法ハ任期アルモノハ其年數ヲ以テ計算ス但シ中途退任者補欠當撰者其他一定ノ任期ナキ者ハ在職月數ヲ以テ其年數ヲ算出ス

退任ノ事由ハ本規程第六條ニ該當スルモノハ總テ其以前ノ在職月數ヲ控除ス

第五條 有功章ハ三種ニ分テ其製式ヲ左ノ通り定ム

第一號 圓形金牌  
徑曲尺八分  
量目凡五分

第二號 同上  
同 九分  
量目凡七分五分

第三號 同上  
同 一寸  
量目凡十分

何レモ表面ハ上端ニ市ノ徽章ヲ印シ其左右下端ニ至ル迄弓形ニ柳櫻ノ圖ヲ描キ中央ニ京都市有功章ノ字ヲ表シ裏面ハ年月日某君ニ贈與スト刻ス

第六條 市制第八條第三項同第九條第二項ニ該當スル退任者ニハ本規程ヲ適用セス

附則

第七條 本規程ハ之レカ設定前退任シタル者ニモ適用ス  
第八條 本規程ニヨリ有功章ヲ贈與シタルトキハ本市ノ公告式ニヨリ其旨ヲ市内ニ公告ス

○市視學視察規程

明治卅三年七月十一日  
市達第一七七號

- 第一條 視學ハ一ヶ月少クモ學校授業日數ノ半數以上ハ授業時間中ニ於テ其視察ニ從事スヘシ
- 第二條 視學ハ視察上ニ關シ必要ト認ムルトキハ區吏員若クハ學務委員ノ出席ヲ求ムルコトヲ得
- 第三條 視學ハ視察ノ際法令ニ抵觸スルモノアリト認ムルトキ若クハ直ニ指示ヲ要スト認ムルモノアルトキハ之ヲ當事者ニ指示シテ其改善ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 視學ハ視察ノ狀況ヲ口頭若クハ書面ヲ以テ上司ニ報告スヘシ
- 第五條 視學ハ學校視察簿ヲ製シ置キ視察セシ學校名日時其他必要ナル事項ヲ記載シ時ニ上司ノ閱覽ニ供スヘシ

○檢稅吏設置ノ件

明治卅四年四月十日  
市達第一四二號

(區 役 所)

明治三十四年四月京都市公告第九十三號ニ依リ其役所定額豫算内ノ經費ヲ以テ專務檢稅吏二名ヲ命シ其姓名ヲ報告スヘシ  
但異動ヲ生シタルトキハ其都度報告スヘシ

○檢稅吏職務規程

明治卅四年四月廿九日  
市達第一四四號

第一條 檢稅吏ハ市役所ニ在テハ第三部區役所ニ在テハ稅務課ニ屬シ上司ノ指揮監督ヲ受ケ市稅ノ檢査ニ從事ス

第二條 檢稅吏ハ市内各町ヲ巡視シ脫稅者ノ有無又ハ法規ニ違フモノヲキヤヲ檢査スヘシ

第三條 檢稅吏ニ於テ脫稅者又ハ不合規ノモノヲ發見シタル時ハ區役所ニ在テハ課長ヲ經テ之ヲ所屬長ニ報告スヘシ

第四條 市役所檢稅吏ハ時々區役所稅務取扱方及檢稅ノ實況等ヲ調査シ部長ヲ經テ市長ニ報告スヘシ

第五條 檢稅吏ハ日誌ヲ製シ執務上ノ要項ヲ詳記シ所屬課長ノ閱覽ニ供スヘシ

第六條 檢稅吏ハ稅務上ニ關シ意見アル時ハ所屬長へ上申スル事ヲ得

○檢稅吏証票携帶ノ件

明治卅四年四月十七日  
市公告第九三號

京都市役所及上下京區役所ニ檢稅吏ヲ置キ市稅ニ關シ必要アリト認ムルトキハ營業場其他課稅ノ標準トナルヘキ物件鑑札又ハ納稅濟領收証等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ  
但檢稅吏ニハ左ノ証票ヲ携帶セシム

証票、用紙厚紙

表 第何號

檢稅吏証票役所印

縱三寸五分  
横二寸

裏 割 某 役 所 何 某

○檢稅吏制服着用ノ件

明治卅五年五月九日  
市達第一四四號

(市 區 檢 稅 吏 員)

執務中左ノ制服ヲ着用スヘシ  
疾病其他ノ事故ニ依リ着用スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具シ市ハ部長ニ區ハ區長ニ届出ヘシ  
此ノ規定ハ明治三十五年六月一日ヨリ施行ス

名 稱	色 及 地 質		制 式
	冬 服	夏 服	
上 衣	黒又ハ濃紺絨	黒又ハ濃紺セル	脊 廣 折 襟
胴 衣	全	全	通 常
袴	全	全 <small>但白リントン又ハ白小倉ヲ用ユルモ妨ナシ</small>	全
帽	全	白ノ被布ヲ着	海軍形

帽 前 章

金色經七分形狀左圖ノ通但之ハ現品ヲ貸付ス

(圖ハ略ス)

○市役所第二部土木課規程

明治卅五年九月十一日制定

第一條

京都市役所第二部ニ土木課ヲ置キ技師ヲ以テ課長ニ充ツ

第二條

土木課長ハ第二部長ノ指揮監督ヲ受ケ本市土木ニ關スル事項ヲ總掌ス

第三條

土木課員ハ課長ノ指揮監督ヲ受ケ事務ニ從事ス

第四條

土木課ニ左ノ三係ヲ置ク

一 設計係

二 工務係

三 庶務係

第五條 各係ニ係長ヲ置キ技師又ハ技師ヲ以テ之レニ充テ課長ノ指揮監督ヲ受ケ各其事務ヲ分掌セシム

第六條 各係ノ分掌事務ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一設計係

一新ニ計畫スヘキ工事ノ設計調査圖面製作工費豫算ノ編成ニ關スル件

第二工務係

一 工事ノ施行及監督ニ關スル件

一 道路溝渠河川護岸工橋梁其他一切ノ築造物監理ニ關スル件

一 定備工夫ヲ以テ行フヘキ小破修繕ニ關スル件

一 其係ニ屬スル定備工夫取締ニ關スル件  
第三庶務係

一 文書ノ授受往復起案ニ關スル件

一 出納ニ關スル件

一 豫算及決算ニ關スル件

一 物品材料及器械ノ購入保管及分配ニ關スル件

一 請負入札及契約ニ關スル件

一 課員ノ人事ニ關スル件

一 他ノ係ニ屬セザル諸件

第七條 必要ニ應シ臨時ノ事項ヲ處理スル爲メ他ノ係ヲ置クコトアルヘシ

第八條 本規程施行ニ關スル細則ハ別ニ定ムル處ニ依ル

○土木小修繕監督規程

明治卅五年七月一日制定

第一條 市内道路橋梁河川溝渠小修繕工事ノ爲メ市内ヲ左ノ六工區ニ分チ各區ニ小修繕監督一名小頭一名及工夫若干名ヲ配置ス

第一工區 鴨川筋荒神橋及鴨川以西荒神口通下立賣通及其以北市郡界ニ至ル地域

第二工區 鴨川筋夷川橋二條橋及鴨川以西三條通及其以北荒神口通下立賣通ニ至ル地域

第三工區 鴨川筋三條橋車道橋及鴨川以西松原通及其以北三條通ニ至ル地域

第四工區 鴨川筋五條橋正面橋七條橋及鴨川以西松原通以南市郡界ニ至ル地域

第五工區 鴨川筋丸太町橋及鴨川以東三條通及其以北市郡界ニ至ル地域

第六工區 鴨川筋四條橋團栗橋松原橋及鴨川以東三條通以南市郡界ニ至ル地域

第二條 小修繕監督ハ上司ノ指揮ヲ受ケ小頭及工夫ヲ指揮監督シ區内小修繕工事執行スヘシ

第三條 小修繕監督ハ常ニ其區内ヲ巡視シ小修繕事業ニ關スル狀況ヲ詳ニシ豫メ修繕ノ計畫ヲナシ緩急ヲ圖リ道路橋梁河川等ノ保存ニ注意シ其完全ヲ期スヘシ

第四條 小修繕監督ハ毎日區内修繕ノ狀況及工夫ノ勤惰ヲ精査シ一ヶ月毎ニ作業報告書別紙書式ニ依ル及工夫勤惰簿ヲ製シ翌月五日迄ニ土木課長ヘ差出スヘシ

第五條 小修繕砂利樹空慮トナリタルトキ及砂利ノ搬入ヲ了シタルトキハ直ニ土木課長ニ報告シ監檢ヲ求ムヘシ

第六條 小修繕監督ハ其區内ニ於テ定備工夫ニテ補修シ能ハサル箇所アルトキハ其狀況ヲ具シ土木課長ヘ申報スヘシ

第七條 小修繕ニ使用スヘキ材料器具機械ノ交付及其修繕ハ土木課庶務掛ヘ請求スヘシ但破損ノ器械ハ請求書ト共ニ庶務掛ヘ差出スヘシ

第八條 小修繕監督ハ毎日作業セシ個處ヲ種類毎ニ色分ケテ以テ圖面ヘ記入シ事務所ニ備ヘ置クヘシ

第九條 小修繕監督願伺屆其他土木課ノ通知ニ依リ實地取調ヲ要スルモノハ速カニ調査シ其修繕ニ關スルモノハ直チニ執行シ意見アルトキハ土木課長ニ具申スヘシ

但修繕ノ爲メ砂利以外ニ材料ヲ要スル時ハ其員數寸尺等取調着手ノ前土木課長ヘ報告スヘシ

第十條 小修繕監督ハ其工區ニ使用スル器具機械ヲ保管シ其増減ヲ明瞭ニシ三ヶ月毎ニ土木課庶務掛ノ點檢ヲ受クヘシ

第十一條 各工區ニ左ノ諸帳簿ヲ備フヘシ

- 一 器具機械臺帳
- 二 作業日誌
- 三 砂利臺帳
- 四 物品受取帳
- 五 定備工夫勤惰簿

第十二條 小修繕監督ハ定備工夫欠勤ノ爲メ作業ニ差支ヲ生スルトキハ臨時備入ヲ爲スコトヲ得但此場合ハ即日土木課長ヘ報告スヘシ

第十三條 小修繕監督ハ毎月二十一日ヨリ翌月二十日迄ノ定備工夫勤務日數ヲ調査シ定備工夫給料ノ請求書ヲ二十二日迄ニ土木課庶務掛ヘ差出スヘシ  
(別紙書式)

土木小修繕作業報告

月	日	路線	何處通何處上ル下 ル西へ入東へ入	工夫數	工事實施延長及概要
同	上	同	上	同	上
同	上	同	上	同	上

右報告候也

年月日

土木課長宛

監督者

姓名

○土木小修繕定備工夫採用規程

明治卅五年七月一日制定

第一條 小修繕ニ使役スル定備工夫ハ身体強壯品行方正且年齢滿十八年以上滿五十五年以下ニシテ其勞働ニ耐ヘキモノトス

但現ニ使役中ノ工夫ニシテ勞働ニ耐ヘ又ハ特種ノ技能アルモノハ詮考ノ上特ニ繼續セシムルコトアルヘシ

第二條 小修繕定備工夫ヲ採用セントスルトキハ七日以内試役シ確實ナルモノト認メタル後定備工夫トナスヘキモノトス

但試役ノ場合ト雖モ其日給額ヲ定メ土木課長ノ認可ヲ得ルニアラサレハ試役スルコトヲ得ス

第三條 小修繕定備工夫ヲ採用セントスルトキハ京都市内ニ住居スル戸主ニシテ相當資力ヲ有スル保証人ヨリ左ノ保証書ヲ徴シタル上採用スヘキモノトス

貳 錢  
印 紙

保証書



何府何市何區 何縣何郡何町村大字何 何番戶士族平民

何條 某

何年何ヶ月

右ノ者今般貴市土木小修繕定備工夫御採用相成候ニ付テハ服役心得堅ク相守リ不品行ノ行爲無之  
様相慎ミ服務致サス可クハ勿論都テ本人ニ關スル事項ハ自分ニ於テ責任ヲ負ヒ處辨可致候依テ此  
段保証仕候也

京都市上京區何通何處上ル下ル 東へ入西へ入何町何番戶

保証人 何 條 某團

京都市市長宛

○土木小修繕定備工夫服役心得

明治卅五年七月一日制定

- 第一條 定備工夫ハ始業時十分前詰所ニ至リ出勤簿ニ捺印スヘシ  
但病氣ノ爲メ欠勤セントスルトキハ就業前小頭ヲ經テ小修繕監督ニ届出ツヘシ
- 第二條 定備工夫ハ毎日始業及終業時共小修繕監督ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第三條 定備工夫ハ小修繕監督ノ命令又ハ小頭ノ傳達ヲ受ケ指定ノ場所ニ於テ就業ス可シ
- 第四條 定備工夫ノ作業時間左ノ如シ  
但天災其他臨時急施ヲ要スル事業アルトキハ定時間ノ外就業セシムルコトアルヘシ

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
		自午前七時	自午前七時	自午前六時	自午前六時	至午后五時	至午后五時	至午后五時	至午后五時	至午后五時	至午后五時
		十時間	十時間	十時間	十時間	十一時間	十一時間	十一時間	十一時間	十一時間	十一時間
		働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間	働時間九時間
		休同	休同	休同	休同	二時間	二時間	二時間	二時間	二時間	二時間

- 第五條 疾病其ノ他ノ事故ニリ依リ作業時間中退場セントスルトキハ小修繕監督ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 定備工夫ハ小修繕監督ノ承認ヲ得ルニアラサレハ作業中其場ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第七條 定備工夫ハ作業上人馬車通行ノ妨害トナラサルニ注意スルハ勿論往來人ニ對シ罵詈或ハ威嚇ノ所爲アルヘカラス
- 第八條 定備工夫ハ無斷欠勤二日以上ニ及フ時ハ解備スルコトアルヘシ
- 第九條 定備工夫ハ疾病其他ノ事故ニ依リ三十日以上欠勤スルトキハ解備スルモノトス  
但公務ノ爲メ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス
- 第十條 左ノ一二該當スル定備工夫ハ退場セシムルモノトス
  - 一 勞役ニ耐ヘサルモノ
  - 二 怠惰ナルモノ
  - 三 他ノ工夫ノ働作ヲ妨害スルモノ
  - 四 喧嘩口論ヲナシ制止ヲ肯セサルモノ

五 小修繕監督又ハ小頭ノ指揮ニ從ハサルモノ  
 第十一條 前條ニ依リ退場ヲ命セラレタル者及自己ノ都合ニ依リ終業時前退場シタルモノ、給料ハ作業時間ニ割當テ減給スルモノトス  
 第十二條 定備工夫ノ休業日ハ左ノ如シ  
 但天災其他臨時急施ヲ要スル事業アルトキハ就業セシムルコトアルヘシ

新年 宴會 孝明天皇祭 紀元節  
 春季 皇靈祭 神武天皇祭 秋季 皇靈祭  
 神嘗祭 祭天 長節 新嘗祭  
 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄  
 毎月一日及ヒ十五日

第十三條 定備工夫ハ作業ノ爲メ貸與シタル器具機械ハ鄭重ニ取扱ヒ終業ノ際點檢ヲ受ケテ返納スヘシ  
 但故意又ハ怠慢ニヨリ破損又ハ紛失セシメタルモノハ賠償セシムルモノトス

第十四條 定備工夫ハ被服ヲ紛失シ又ハ故意ニ破損シタルトキハ相當ノ代價ヲ賠償セシム  
 但本人ニ於テ賠償シ能ハサルトキハ保証人ヲシテ賠償セシム

○守衛服務規程

明治卅五年四月  
 二日制定

第一條 守衛ハ晝間市役所及市議事堂内外ヲ警守及巡視スルノ責職ヲ有スルモノトス  
 但非常ノ際ハ勿論其他必要ノ場合ハ夜間ト雖勤務スヘシ

第二條 守衛ハ文書課ニ屬シ左ノ職務ニ從事スヘシ

第一項

- 一 常時支關ニ警守シ文書物品ノ受付ヲ除ク外來所人ノ尋ニ應シ各主務課ヲ指導シ又ハ面會人ノ取次ヲ爲スヘシ
- 一 警守時間ノ餘時ハ市役所及議事堂ノ内外ヲ無間斷巡視シ万事ニ注意シ若シ不審ノイアルニ於テハ速ニ文書課ヘ申告シ其指揮ヲ受クヘシ  
 但常ニ見受カル人ノ所内徘徊スルヲ認ムルトキハ其人ノ所用ヲ尋子特ニ注目スヘシ
- 一 所内各室ニ備付アル物品及ヒ建造物其付屬品等破損又ハ汚染スルモノ構内ノ樹木ヲ折取モノ其不都合ノ所爲ト認ムル場合ハ直ニ防止スヘシ  
 但火ノ元戸締不潔物等ニハ特ニ注意スヘシ

第二項

- 一 來所人ニ對シテハ懇篤ニ取扱ヲ爲スヘシ
- 一 西地所ノ板扉各出入口ノ開閉ハ晝間ノミ管掌スヘシ勤務時間後ハ宿直ヘ引續ヘシ
- 一 日記簿ヲ製置シ日々ノ事故ヲ詳記シ文書課ノ檢閱ヲ受クヘシ
- 一 日々出勤例時三十分前出勤シ三十分後退所スルヲ例トス
- 一 日々文書課備付ノ勤怠簿ヘ押印スルモノトス
- 一 警守巡視ハ二時間毎ニ交代トス

○望火槽雇員勤務心得

明治卅一年十一月  
 二日市達第六八號

第一條 雇員ハ望火櫓ニ於テ晝夜見張ヲ爲シ本市内及本市接近郡村ニ出火アルコトヲ認メタルトキハ速ニ警報信號ヲナスヘシ

但シ信號ハ明治二十四年四月警第八十四號規定ニ依リ警察部員ノ指揮ニ從フヘシ

第二條 勤務方法ハ晝夜交代トシ晝一人夜二人在勤スヘシ

但病氣等ニヨリ勤務ヲナシ難キ場合ハ速ニ其旨ヲ同勤者ニ通報シ本文ノ在勤人員ヲ補フヘシ

第三條 望火櫓及休憩室ニ於テハ専ラ火氣ノ取締ヲ嚴重ニシ萬一ノ虞ナカラシムルハ勿論常ニ洒掃不潔ナラシメサル様注意スヘシ

第四條 備付ノ物品ヲ保管シ其増減ハ之ヲ備品増減簿ニ登記シ其事由ヲ明ニスヘシ

第五條 消耗品ノ受拂ハ之ヲ消耗品受拂簿ニ詳記シ翌月五日迄ニ市役所ニ報告スヘシ

○稅務取扱吏員證票ノ件

明治卅三年四月廿五日市公告第九五號

本市稅賦課徵收ニ關シ吏員ヲ市内ニ出張セシムルトキハ左ノ證票ヲ携帯セシム

證票

豎三寸横二寸用紙原紙

第 號	裏
稅務取扱吏員之證	區役所之印

○暑中休暇ノ件

明治三十二年七月七日市達第一六六號

市 役 所  
區 役 所  
水 利 事 務 所

自今毎年七月十一日ヨリ九月十日迄ノ期間ニ於テ臨時雇ヲ除ク事務差支ヘサル限リ暑中休暇ヲ與フ

但シ其休暇日及休暇中旅行又ハ歸省ヲナスモノハ其日數及場所ヲ定メ部長ハ市長ハ其他ハ部長ノ(區長ハ市長ハ其他ハ區長ハ)水利事務所長ハ市長ハ其他ハ所長ハ承認ヲ受クヘシ

○掃除監視吏員職務章程

明治三十三年五月十八日認可

第一章 掃除監督長ノ職務

第一條 掃除監督長ハ掃除監督、掃除巡視掃除人ノ勤務、作業、服裝等ヲ巡視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ

第二條 掃除監督長ハ市内ヲ巡回シ左ノ事項ヲ觀察スヘシ

- 一 掃除監督以下ノ配置ノ適否
- 二 掃除人ノ數及其配置ノ適否
- 三 塵芥捨場、汚物假置場ノ狀況
- 四 公共溝渠、公共便所ノ狀況

職制

- 五 市ノ義務ニ屬スル場所其他ノ掃除ノ狀況
- 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
- 七 其他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第三條 掃除監督長ハ公共溝渠、公共便所、塵芥捨場、汚物假置場等ノ築造修繕、浚渫等ヲ要スルト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
- 第四條 掃除監督長ハ汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スヘシ
- 第五條 掃除監督長私人ニ戒告スルトキハ左ノ事項ヲ除ク外市長ノ指揮ヲ受クヘシ
  - 一 溝渠便所并戸流其他場所ノ掃除及汚物ノ處分ニシテ人夫十人以内ニテ履行シ得ヘキ見込ナルモノ
  - 二 溝渠、便所、井戸流ノ築造、修繕等ニシテ費用五圓以内ニテ履行シ得ヘキ見込ナルモノ
  - 三 塵芥及汚泥容器ノ備付、取替等
- 第六條 掃除監督長戒告書ヲ送達セシムルトキハ領收証ヲ徴セシムヘシ
- 第七條 掃除監督長汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官署ノ協議アリタルトキハ掃除監督又ハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ
- 第八條 掃除監督長ハ掃除巡視ノ受持區畫ヲ定メ二以上ノ受持區ヲ以テ受持組合ヲ設クヘシ
- 第九條 掃除監督長ハ掃除巡視ニ受持區又ハ勤務ノ場所ヲ命スヘシ
- 第十條 掃除監督長ハ臨時必要アルトキハ掃除監督ヲシテ他ノ掃除監督ノ擔任ニ屬スル事務ヲ補助代理セシメ又ハ掃除巡視ヲシテ掃除監督ノ事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得

- 第十一條 掃除監督長ハ掃除監督及掃除巡視ノ進達賞罰ヲ市參事會ニ具申スヘシ
- 第十二條 掃除監督長ハ掃除人ヲ雇入レ及解雇シ又ハ人夫請負人ニ命シテ掃除セシムルコトヲ得
- 第十三條 掃除監督長ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
- 第十四條 掃除監督長ハ毎月一回左ノ事項ヲ調査シ翌月十五日迄ニ市長ニ報告スヘシ
  - 一 使用シタル掃除人ノ延人員
  - 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量
  - 三 公共溝渠、公共便所、塵芥捨場、汚物假置場、等ノ築造、修繕、浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル箇所其狀況
  - 四 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數
  - 五 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數
  - 六 私人ニ戒告シタル件數
  - 七 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數
  - 八 代執行シタル件數
  - 九 私人ノ申告ニヨリ臨檢シタル件數
  - 十 警察官署ノ協議ニヨリ臨檢シタル件數
  - 十一 汚物掃除法施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル府令ニヨリ告發シタル者ノ數
- 第十五條 掃除監督長ハ毎年事務年報ヲ調製シ翌年六月迄ニ市長ニ提出スヘシ
- 第十六條 事務年報ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ
  - 一 掃除區畫八數各區ノ面積、戸數、人口
  - 二 各掃除區畫内ノ受持區ノ數

- 三 掃除監視吏員ノ員數、俸給別
- 四 毎月使用シタル掃除人ノ延人員
- 五 毎月搬出シタル塵芥汚泥ノ各見積重量又ハ容量
- 六 公共便所、塵芥捨場、汚物假置場等ノ數
- 七 公共溝渠、公共便所、塵芥捨場、汚物假置場築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル個所其狀況
- 八 汚物掃除法施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ汚物ヲ蒐集スル戸數、塵芥容器、塵芥溜ノ數
- 九 汚物掃除法施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ汚物ヲ處分セシムル個所ノ數
- 十 毎月掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數
- 十一 掃除監視吏員毎月巡回視察中私人ニ與ヘタル注意件數
- 十二 毎月私人ニ戒告シタル件數
- 十三 毎月戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數
- 十四 毎月代執行シタル件數
- 十五 毎月私人ノ申告ニ依リ臨檢シタル件數
- 十六 毎月警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數
- 十七 毎月汚物掃除法施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル府令ニ依リ告發シタル者ノ數
- 十八 市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除又ハ掃除ニ關スル市ノ施設ニ付毎月掃除監督ヨリ掃除監督長ニ具申シタル件數
- 十九 掃除ニ關スル費用豫算(前年度決算額比較)

二十 其他

第二章 掃除監督ノ職務

- 第十七條 掃除監督ハ掃除區ヲ擔任シ又ハ塵芥捨場、汚物假置場等ヲ担任スヘシ
- 第十八條 掃除監督ハ常ニ担任ノ區内又ハ場所ヲ巡回シ掃除巡視、掃除人ノ勤務、作業、服裝等ヲ巡視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 第十九條 掃除監督ハ左ノ事項ヲ視察スヘシ
  - 一 掃除巡視ノ配置ノ適否
  - 二 掃除人ノ數及其配置ノ適否
  - 三 塵芥捨場、汚物假置場ノ狀況
  - 四 公共溝渠、公共便所ノ狀況
  - 五 市ノ義務ニ屬スル場所其他ノ掃除ノ狀況
  - 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
  - 七 其他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第二十條 掃除監督ハ公共溝渠、公共便所、塵芥捨場、汚物假置場等ノ築造、修繕、浚渫ヲ要スルト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スベシ
- 第二十一條 掃除監督ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スベシ
- 第二十二條 掃除監督ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ其狀況ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ

- 第廿三條 掃除監督ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ掃除巡視ヲ指揮シテ其事務ニ従事スヘシ
- 第廿四條 掃除監督ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受タルトキ又ハ警察官署ノ協議アリタルトキハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ
- 第廿五條 掃除監督ハ行務ノ統一ヲ圖ル爲メ隨時部下ノ掃除巡視ニ必要ナル訓授ヲ爲スヘシ
- 第廿六條 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ受持區内ニ於ケル巡回線路ヲ定メ掃除監督長ヘ報告スヘシ其變更シタルトキハ亦同シ
- 第廿七條 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ出勤簿及勤務日誌其他必要ナル簿冊ハ隨時點檢シ且ツ其整理ノ責ニ任ス
- 第廿八條 掃除監督ハ臨時必要アルトキハ掃除巡視ヲシテ他ノ掃除巡視ノ受持ニ屬スル事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得
- 第廿九條 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ進退賞罰ヲ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第卅條 掃除監督ハ掃除人ノ解雇ヲ要スト認ムルトキ又ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第卅一條 掃除監督ハ毎月三回左ノ事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ
  - 一 使用シタル掃除人ノ延人員
  - 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量
  - 三 公共溝渠、公共便所、塵芥捨場、汚物假置場等ノ築造、修繕、浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル個所其狀況
  - 四 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數

- 五 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數
  - 六 私人ノ申告ニ依リ臨檢シタル件數
  - 七 警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數
  - 八 汚物掃除法施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル府令ニ依リ告發シタル者ノ數
- 第三章 掃除巡視ノ職務
- 第卅二條 掃除巡視ハ受持區ヲ擔任シ又ハ塵芥捨場、汚物假置場等ニ勤務スヘシ
  - 第卅三條 掃除巡視ハ常ニ受持區内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ
  - 第卅四條 掃除巡視ハ毎日掃除人ノ被服及掃除用具ヲ点檢シ勤務日誌ニ記載スヘシ
  - 第卅五條 掃除巡視ハ掃除人ノ作業等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
  - 第卅六條 掃除巡視ハ必要ト認ムルトキハ掃除人ノ作業、服裝、掃除用具等ニ關シ視察シタル事項ヲ掃除監督ニ報告スヘシ
  - 第卅七條 掃除巡視ハ公共溝渠、公共便所其他市ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ其狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ
    - 但溝渠、便所、塵芥捨場、汚物假置場等ノ築造、修繕、浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ
  - 第卅八條 掃除巡視ハ塵芥、汚泥容器塵芥溜等ヲ檢查シ汚物停滞シタルトキハ掃除人ニ指揮シテ之ヲ搬出セシムヘシ其破損シタルモノハ家人ニ注意ヲ與ヘ取替又ハ修繕ヲ爲サシムヘシ
  - 第卅九條 掃除巡視ハ溝渠、便所、井戸流其他私人ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ家人ニ注意ヲ與ヘ又ハ時宜ニ依リ衛生組合幹事若クハ組長ニ交渉シ其狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

但シ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十條 掃除巡視ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十一條 掃除巡視ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ上司ノ指揮ヲ受ケテ其事務ニ従事スヘシ

第四十二條 塵芥捨場又ハ汚物假置場所屬ノ掃除巡視ハ每日出入ノ汚物舟車數其見積重量又ハ容量ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

第四十三條 掃除巡視ハ汚物掃除法第十五條ノ申告ヲ受タル時ハ二十四時間以内ニ臨檢シ直ニ其事實ヲ掃除監督ニ被告スヘシ若シ期限内ニ臨檢シ難キ事由アル時ハ速ニ掃除監督ニ具申スヘシ

第四十四條 掃除巡視ハ毎日一定ノ時刻ニ事務所又ハ出張所ニ參集シ出勤簿ニ捺印シ諸般ノ報告ヲ爲スヘシ

第四十五條 掃除巡視ハ受持區内ノ戸數塵芥容器、塵芥溜ノ個數ヲ調査ノ上記録シ常ニ之ヲ加除訂正スヘシ

第四十六條 掃除巡視ハ勤務中給與ノ手帳ヲ携ヘ大小ノ事故ヲ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ

第四十七條 掃除巡視ハ前各項ニ掲クルモノ、外毎日勤務ノ要領及勤務日誌ニ記載スヘシ

○掃除巡視懲罰例  
明治卅四年三月廿八日 制定

第一條 巡視服務規律及職務上ノ規程ニ背戾シタルモノハ審査ノ上其輕重ニ從ヒ第二條ノ以下ノ

例ニヨリ懲罰ヲ行フ

第二條 懲罰ノ法ハ分テ左ノ三種トス

- 一 譴責
- 二 過怠金
- 三 免職

第三條 譴責ハ懲罰ノ輕キモノトシ市參事會ヨリ譴責書ヲ交付ス

第四條 過怠金ハ拾錢ヨリ少カラス拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ科ス

第五條 過怠金ハ毎月ノ俸給ヨリ控除シテ完納セシムルト雖トモ一時ニ月俸ノ五分ノ一ヲ過クルヲ得ス

第六條 過怠金完納セサル内免職死亡等ノコトアリテ其月分ノ俸給中ヨリ控除スルモ猶不足ヲ生スルトキハ其不足額ハ追徴ノ限リニアラス

第七條 免職ハ譴責過怠金數回ニ涉ルモ改換ノ情怙ナク若クハ犯狀ノ職務ヲ耻カシムル重大ナルモノニ對シ之ヲ行フ

○掃除巡視制服着用期限

明治卅三年五月八日 制定

- 一夏服 六月一日ヨリ 九月中
  - 一冬服 十月一日ヨリ 五月中
- 外套着用期限ハ監督長ニ於テ適宜定ムルモノトス

○掃除巡視誓約書并ニ身元引受書書式ノ件

明治卅三年五月八日 制定

誓約書

一 私儀今般御試験ノ上掃除巡視ニ御採用相成候ニ付テハ總テ御規則ヲ遵守シ滿三年間勤績其本  
分ヲ盡シ私事等ノ爲メ期限内退職等ハ決シテ不致候依テ誓約書差出置候也

(本人)

氏名印

市長宛  
身許引受書

何某

右ハ今般御試験済ニテ掃除巡視ニ御採用相成候上ハ本人身上ハ勿論貸與品被服屬具其他制規ニ  
ヨリ辯償ノ義務アルモノヲ本人ニ於テ履行セサルトキハ引受人其責ニ任シ一切處辨可致候依テ  
引受書差出置候也

年月日

住所

氏名印

市長宛

○掃除巡視休暇規程

明治卅三年九月一日  
市達第二一〇號

第一條 皆勤者ハ慰勞トシテ左ノ例ニヨリ休暇ヲ與フ

- 一 滿一ケ年皆勤 休暇三週間
  - 一 滿半ケ年皆勤 休暇一週間
- 前項ノ外三ケ年以上皆勤ノ者ニハ一週間六ケ年間以上皆勤者ニハ三週間ノ休暇ヲ與フルコ

トナ得

第二條 休暇ハ勤務ノ都合ニヨリ月日ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三條 休暇ハ皆勤日數滿期ノ翌日ヨリ后壹ケ年間ニ於テ與フルモノトス

但第二條ニヨリ月日變更セシメザルトキハ本條ノ限リニアラス

第四條 左ニ係ルモノハ皆勤ノ日數ニ算入ス

- 一 職務上ニ係ル負傷又ハ傳染病ノ療養
- 一 父母ノ祭日又ハ服忌
- 一 陸海軍各種ノ召集
- 一 傳染病ノ爲メ庶斷又ハ隔離施行中

第五條 休暇ナシ又ハ休暇中施行チナサントスルモノハ豫テ監督長ヲ經由シ市長ニ出願シ許可ヲ  
受クヘシ

附則

第六條 此規程ニヨリ日數ヲ通算スル場合ハ繼續ノ月數ヲ除キ前後ノ日數三十日ニ滿ツルヲ以テ  
一ケ月トス

第七條 此規程明治三十三年六月一日ヨリ施行ス

○掃除巡視心得

明治卅三年五月八日  
制定

第一章 要領

第一條 掃除巡視ハ制規定則ヲ遵守シ上司ノ命ヲ遵奉シ以テ職務ノ本分ヲ盡スヘシ



第二條 職務上諸般ノ申告ハ總テ誠實ヲ旨トシ虚飾ニ涉ルヘカラス  
 第三條 人民ニ接スルトキハ極メテ懇切温和ヲ旨トシ威權ケ間敷所爲アルヘカラス  
 第四條 職務上必要ナル法律規則ハ勤務ノ餘暇ヲ以テ研究シ置クヘシ  
 第五條 給與ノ被服扇具及貸與品ハ私事ニ混用スヘカラス  
 第六條 給與及貸與品ハ貸借又ハ私ニ改造スヘカラス

第二章 行 狀

第七條 平素行狀ヲ慎ミ汚名不品行ノ所爲アルヘカラス  
 第八條 常ニ節儉ヲ旨トシ身分不相應ノ負債ヲ爲シ又ハ物品ヲ購買蓋ニ其代價ヲ借ルヘカラス  
 第九條 飲酒ハ攝養ノ爲メ適度ニ用フルハ妨ナシト雖モ乱醉シテ素行ヲ紊ルヘカラス

第三章 容 裝

第十條 勤務ニ服スルトキハ必ズ定規ノ服裝ヲナスヘシ  
 第十一條 定期ノ服裝ヲナシタルトキハ見苦敷物品ヲ携帯スヘカラス  
 第十二條 帽ハ端正ニ冠戴スヘシ  
 第十三條 被服ハ正シク之ヲ着シ釦ハ悉ク之ヲ掛クヘシ  
 第十四條 靴ハ常ニ光澤ヲ帶ハシムヘシ  
 第十五條 日履ハ夏服着用期限内之ヲ用フヘシ  
 第十六條 鞋脚袴ヲ以テ靴ニ代用スル場合ハ紺又ハ黒色ノ足袋ニ同色ノ脚袴ヲ用フヘシ  
 第十七條 被服扇具ハ清潔ヲ旨トシ汚染スルトキハ速ニ之ヲ滌掃シ破綻アルトキハ直チニ之ヲ修理スヘシ

第十八條 制服ヲ着シムルトキハ必ズ白ノ襟手袋ヲ用フヘシ

○掃除巡視點檢規則

明治卅三年十一月十六日  
市達第二三三號

第一條 點檢ハ巡視ノ人員服裝姿勢禮式附屬品ヲ檢査スルモノトス  
 第二條 點檢ハ通常臨時ノ二トス臨時點檢ハ總員ニ對シ監督長之ヲ行ヒ通常點檢ハ各管區ニ於テ受持監督之レヲ行フモノトス  
 但シ當分部長ヲシテ之ヲ行ワシムルコトアルヘシ  
 第三條 通常點檢ハ當日出務ノ巡視ニ對シ毎朝之レヲ行フベシ  
 第四條 臨時點檢ノ嚮導ハ上級監督通常點檢ハ部長ヲ以之レニ充ツヘシ  
 第五條 臨時點檢ノ場合嚮導外ノ監督ハ伍列背後ノ位置ニ就クヘシ  
 第六條 點檢者ハ出務時間二分前點檢場ニ參集スヘシ  
 第七條 列ノ順位ハ身幹ノ長キヲ首位トシ豫メ之ヲ定メ置クヘシ  
 第八條 臨時點檢ノ場合ハ監督長號令司トナリ通常點檢ノ場合ハ受持監督之レニ充ツ  
 第九條 號令司ハ點檢ノ準備ヲ爲シ嚮導ハ自ラ標準トナリ列員ハ整頓スヘシ  
 第十條 準備終レハ左ノ順序ニ依リ號令スベシ  
 氣ヲ附ケ  
 此令ニテ列員ハ姿勢ヲ正シ眞向嚴肅ナルヘシ  
 番 號  
 此令ニテ列ノ右翼ニヨリ番號ヲ唱ヘ順次左翼ニ終ル

右へ進へ  
此令ニテ列員ハ頭ヲ右斜ニ向ケ靜ニ右翼ニ準スヘシ嚮導ハ列員ノ不整ヲ正ス直シ

此令ニテ頭ヲ正面ニ復ス  
手帖名刺

此令ニテ列員ハ右手ニテ手帖ヲ出シ左手ニテ之レヲ開キ名刺鉛筆ヲ點檢者ニ示スヘシ收メ

此令ニテ両手ヲ以テ迅速開收直ニ両手ヲ垂下スベシ  
禮式

此令ニテ列員一當ニ右手ニテ帽ヲ脱シ行續スベシ  
分レ進メ

此令ニテ解散スベシ

○掃除巡視携帶名刺一定ノ件

明治卅三年六月十五日  
制

一寸五分

京都市第何管區監視吏員出張所	何	某
掃除巡視		

三寸

○監視吏員稱呼規程

明治卅三年十月廿日  
市達第二二三號

一知事ニ對スルトキ  
知事閣下

一市長助役收入役ニ對スルトキハ  
市長殿 助役殿 收入役殿

一監督長監督ニ對スルトキハ  
監督長殿 某監督殿

一上司ノ下僚ヲ呼フトキ又ハ同僚相對スルトキノ稱呼ハ必ス某ノ姓ト職ヲ呼フヘシ  
(例ハ某監督或ハ某巡視ト云カ如シ)

○監視吏員禮式規程

明治卅三年十一月十五日  
市達二二三號

第一條 監視吏員ニシテ定制ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス

第二條 本禮式中上司ト稱スルハ巡視ノ監督以上監督ノ監督長以上監督長ノ市參事會員助役市長知事ヲ云フ

第三條 禮式ヲ分テ室内ノ禮式室外禮式トス室内トハ居室事務室應接所等ニシテ階段廊下厠等ノ如キハ室外トス

第四條 室内ノ禮式ハ敬スヘキ全對シ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ上部ヲ少シク前ニ傾ケ両手ヲ垂下スヘシ

第五條 室内ノ禮式ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ニテ帽ヲ脱シ上部ヲ前ニ傾ケ行禮スヘシ  
 第六條 禮式ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ其最高級ノ人ニ對向シ行フモノトス  
 第七條 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ之レニ答禮スヘシ

第八條 官署室内ニ入ルトキハ必ス帽ヲ脱スヘシ

第九條 室内ニ於テ上司ヨリ辭令等ヲ受クルトキハ授與者ノ席ニ離ル、一凡三步ノ處ニ於テ禮ヲ行フ前後通シ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ舊位ニ復シ再ヒ禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十條 室内ニ於テ上司ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ上司ヨリ呈スルトキモ前條ニ準シ右手ヲ以テ之レヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ

第十一條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキモ下班ノ者ハ直立姿勢ヲ正スヘシ

第十二條 途上上司ニ行禮又ハ其傍ヲ通過スルトキハ上司ノ方ニ向ヒ直立姿勢ヲ正シ右手ニテ帽ヲ脱シ上部ヲ前ニ傾ケ行禮スヘシ

第十三條 同班者ハ相互ノ禮ヲ爲スモノトス

○掃除巡視宿直心得

明治卅四年三月五日 定

第一條 宿直巡視ヲシテ一名宛順次之レニ充ツ

第二條 宿直員ハ退所時間ヨリ翌日勤務時間マテ所内一切ノ取締ニ従事スルモノトス  
 但宿直ノ翌日ハ勤務ノ都合ニヨリ正午ヨリ退所ヲ許スコトアルハシ

第三條 宿直中疾病又ハ非常ノ事故アリテ退所セントスル時ハ同僚中ニ代理ヲ依頼シ其出所ヲ待テ退所スヘシ

第四條 新任者ハ服務ノ日ヨリ五日間ヲ經ルニアラサレハ宿直順番ニ加ヘス

第五條 直宿中ノ事故ハ細大漏サス日誌ニ明記シ認印ノ上監督檢閱ニ供スヘシ

第六條 宿直中受付タル文書ハ其儘日誌ニ登載翌朝之ヲ提出スヘシ

但至急親展又ハ電報等ハ直ニ宛名ニ送付スヘシ

第七條 宿直員ハ所ノ内外ヲ巡檢シ特ニ火元ニ注意スヘシ

第八條 近火ノ節ハ所内ヲ警戒シ火勢ノ狀況ニ依リ簿冊器具等ニ對シ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

○監視吏員勤務心得

明治三拾四年四月十九日 定

第一條 監視吏員ハ別表ノ定ムル所ニ從ヒ事務所及出張所ニ勤務スヘシ

第二條 巡視ノ勤務時間ハ七月十日ヨリ八月二十日迄ハ午前六時ヨリ午後六時迄其他ニアリテハ午前七時ヨリ午後五時三十分迄トシ七月十日ヨリ八月二十日迄ハ午前十一時三十分ヨリ午後二時三十分迄其他ハ十一時三十分ヨリ午後一時迄ノ休憩時間ヲ與フモノトス  
 但シ事務所ノ勤務ハ市役所規程ニヨル

第三條 監督ノ勤務時間ハ巡視ノ勤務時間ニ同シ  
 但日曜日ハ此限リニアラス

第四條 事務所詰監督ハ汚物掃除ニ關スル一切ノ事務整理ニ従事ス

第五條 事務所詰ノ巡視ハ庶務計算ニ従事スルモノ、外監督長ノ命ヲ受ケ出張所事務ニ屬セサル

市内全般ノ掃除事務ニ従事ス

第六條 出張詰監督ハ其出張所ノ所長トナリ部内ニ於ケル一切ノ整理ヲ統ヘ定時間ニ於テ巡視以下ノ點檢ヲ行ヒ所員全体ノ配置ヲナシ一日一回以上勤務作業ノ監視ヲナシ少クモ一ヶ月三回以上(七月ヨリ九月迄ハ四回以上)ノ塵芥採集ヲナサシムヘシ

第七條 前條以外ニ於テ特ニ監督長ヨリ指定シタル期間内ニ全部一回公共溝渠ノ浚渫ヲナスヘシ但シ局部ノ障害物其他疏通ヲ妨クル汚泥等ハ時々注意シテ排除セシムヘシ

第八條 巡視ニシテ點檢時間ニ參列セス十分ヲ過クルモ猶遲刻シタルモノアルトキハ所長ハ手續書ヲ呈シ即日監督長ニ報告スヘシ

第九條 巡視部長ハ職務章程ノ定ムル所ニヨリ監督ノ補助ヲナスノ外所長ノ命ヲ受ケ巡視ノ擔任區域内ニ於ケル職務執行ノ監視ノ爲メ一日二回以上ノ巡回ヲナスヘシ

第十條 出張所結巡視ハ毎日受持區内ヲ巡回シ塵芥採集汚泥浚渫ノ監督ヲナスノ外少クモ三ヶ月ニ一回全部家宅ノ臨檢ヲナスヘシ

第十一條 巡視ニシテ病氣ノ爲メ欠勤セントスルトキハ點檢時間前届出スヘシ引籠三日以上ニ拂ルトキハ醫師ノ診斷ヲ添付スヘシ

第十二條 服務中定期ノ時間三分ノ二ニ充タスシテ私事ノ爲メ退所シタルトキハ欠勤トス

第十三條 豫備巡視ハ塵芥汚泥ノ棄場ヲ擔任シ運搬夫棄場管理人等ノ行爲並ニ市外ニ於ケル沿道其他ノ濫棄等ニ注意ヲナシ又ハ所長ノ命ヲ受ケ欠勤巡視ノ補欠ヲナスヘシ

但シ所員少數ニシテ豫備巡視ヲ置キ難キ場合ハ最前受持ノ巡視ヲシテ前條ノ職務ヲ兼テシムモ妨ケナシ

第十四條 巡視ハ職務上ニ於ケル事項ハ毎日日誌ニ記載シ所屬所長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第十五條 前數條以外ニ於ケル勤務ハ市役所ノ規程ニヨル

○寄附金受納認可手續

明治廿二年九月十八日公告第一八號

市ノ事務ニ對シ金品ヲ寄附セントス者アル時ハ市參事會ハ之ヲ認可シ寄附者指定ノ費途ニ充ツルヲ得

○辭令文例

明治廿八年三月十六日 制定

- 一 總テ書記及技師技手進退及給與金ニ關スル辭令ハ第一號ヨリ第六號迄ノ書式ニ準據ス
- 一 總テ雇員及醫員看病婦等ノ進退賞與及給與金ニ關スル辭令ハ第五號ヨリ第九號迄ノ書式ニ準據ス
- 一 臨時雇及開門番人インクライン番人水量觀測人工夫定夫掃除人等進退賞與ニ關スル辭令ハ第十號第十二號第十四號ノ書式ニ準據ス
- 一 總テ吏員以下懲戒免職ノ際ハ依願ノ二字ヲ削ル又付屬員以下ニシテ期限ヲ以テ採用ノモノアリ此ノ如キ者期滿ヲ解雇ノ際ハ用濟ニ付ノ四字ヲ付記ス
- 一 書式第一號乃至第三號及ヒ第十三號第十五號用紙ニハ右方上部ニ當市徽章ヲ漉込ムモノトス

書式

第一號

何 某  
 撰任何々區長  
 但何級俸支給  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書(曲尺縦七寸五分横一寸二分)  
 第四號

元何々區長何某  
 滿何年以上勤繳退職  
 ニ付金何圓ヲ給與ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第二號

何々區長何某  
 自今給何級俸  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙同  
 第五號

遺族名  
 故何某在職中死亡候  
 ニ付金何圓給與ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第三號

何々區長何某  
 依願免本職  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙同  
 第六號

何 某  
 事務勉勵候ニ付爲慰  
 勞金何圓給與ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第七號

何 某  
 何々所雇ヲ命ス  
 但月俸何圓支給  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第八號

何々所雇何某  
 自今月俸何圓  
 ナ給ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第九號

何 某  
 依願何所雇ヲ  
 解ク  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第十號

何 某  
 何々所使丁ヲ命ス  
 但月俸何圓支給  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第十一號

何區何部消防夫  
 何 某  
 本年何月何日(場所)  
 失火ノ際援救消防ニ  
 盡力セシニ依リ  
 金何圓賞與ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第十二號

何 某  
 職務勉勵ニ付金何圓  
 賞與ス  
 年 月 日  
 京都市參事會

用紙奉書四ツ切

第十三號

何々校、院會、何々委員ヲ囑托ス  
年 月 日  
京都市參事會

第十四號

何 某  
依願何々所使丁ヲ解  
ク  
年 月 日  
京都市參事會

第十五號

何 某  
(臨時)何々委員ニ當  
撰ス  
年 月 日  
京都市參事會

用紙奉書(曲尺縱七寸五分)横一尺二分 用紙奉書四ツ切

第十六號

京都府屬(雇)何某何々ニ係ル事務勉勵候ニ付爲慰勞金何圓ヲ給與ス  
年 月 日  
京都市參事會

用紙奉書四ツ切

○道路敷地ノ爲メ買收場寄付ニ係ル處分ノ件

明治卅二年三月十日市會決議

本市道路敷地ノ爲メ市費ヲ以テ買收セシ土地ヲ官有地第三種道路敷地ニ寄附セントスルトキハ市會ノ議決ヲ省略シ市參事會限リ處分セントス

○廢公用道路並川溝敷地處分ノ件

明治卅二年九月市會決議

本市内官有場道路並川溝敷地ニシテ改修ノ爲メ又ハ自然不用ニ屬シ公用ヲ廢シ本市へ讓與ヲ受ケタル土場ハ市參事會限處分スルモノトス

○疏永用地ノ使用ヲ許可スル件

明治廿四年十一月二十日公告第七三號

疏永用地ノ内差支ナキ箇所ニ限リ相當ノ使用料ヲ定メ年季月期日期ヲ以テ市參事會ニ於テ使用許可スルモノトス

○市設電柱疏水運河放水等ノ使用ヲ許可スル件

明治廿四年八月廿八日公告第廿六號

市設電柱又ハ疏水運河放水等臨時使用申出ル者アルトキハ市參事會ニ於テ許可スルコトヲ得但收入アルトキハ其年度ノ雜收入ニ組込ミ取扱フモノトス

○公同組合設置標準

明治卅年十月二日制定

第一條 市内ノ各一ヶ町ヲ以テ公同組合ノ設置區域トシ其町内ニ一戸ヲ構フル住民及住民ニ非ササルモ其町内ニ不動産ヲ所有スル者ヲ組合員トス

但小町ハ便宜(一尋常小學區)ト合併シ大町ハ其狀況ニ依リ二個以上ノ組合ヲ設ケルモ妨ケナシ  
 第二條 組合ハ其組合内ニ係ル諸般ノ行政事務ニ關シ公私ノ利便ヲ増進シ且ツ隣保團結ノ情誼ヲ  
 守リ各自相互ニ警戒扶持スルヲ目的トシ此標準ニヨリ規約ヲ定ムルモノトス  
 第三條 組合ノ名稱ハ上京第一(小學區)聯合何町共同組合ト稱スルモノトス  
 第四條 組合ニハ組合長ヲ置キ組合員ニ於テ選舉スルモノトス  
 第五條 組合長ノ當選及交迭ハ組合幹事ヲ經テ所轄區役所ヘ申報スルモノトス  
 第六條 組合長ハ第二條ノ事務ヲ掌理スルモノトス  
 但組合長疾病事故等ニヨリ其事務ヲ執ル能ハサル場合ニハ組合員ニ於テ臨時代理ヲ定ムル者  
 トス  
 第七條 組合ニハ書記又ハ使丁ヲ置キ或ハ組合員中ニ就キ日行事月行事等ヲ設ケル事ヲ得  
 第八條 組合ニ集會ヲ設ケ組合内ニ關スル重要ノ事件經費ノ負擔方法及ヒ經費ノ收入支出ヲ評決  
 スルモノトス  
 但組合一般ノ利害ニ係ラサル事件ハ其關係組合員ノミノ評議ニ附スルモノトス  
 第九條 組合ノ集會ハ組合員ヲ以テ之ニ充ルモノトス尤モ規約ノ定ムル所ニヨリ便宜代表者ヲ設  
 クルコトヲ得  
 但女子又ハ幼年戶主并ニ居住者ニアラサル組合員ハ相當代理者ヲ出席セシムルコトヲ得  
 第十條 組合ノ集會ニ關スル規定ハ組合規約中ニ定ムルモノトス  
 第十一條 組合員ニシテ組合内ニ所有スル不動産ヲ組合員外ニ賣却讓與又ハ貸與セントスルトキ  
 ハ其取得者又ハ借主ヲシテ組合ニ加入セシムルモノトス

第十二條 組合ニ於テ規約ヲ定メ又ハ之ヲ改正加除シタルトキハ所轄區役所ノ承認ヲ承クヘキモ  
 ノトス  
 第十三條 組合ハ他ノ組合ト氣脈ヲ通シ事務ノ整理統一ヲ期スル爲メ一尋常小學區域内ノ各組合  
 長會議ヲ組織シ上京第一(小學區)聯合共同組合ト稱スルモノトス  
 第十四條 聯合共同組合會ニ幹事副幹事各一名ヲ置キ組合長會議ニ於テ選舉スルモノトス  
 第十五條 正副幹事ノ當選及其交迭ハ直ニ所轄區役所ヘ申報スルモノトス  
 第十六條 幹事ハ聯合共同組合會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ副幹事ハ幹事々故アルトキ其事  
 務ヲ代理シ尙ホ常時補佐ノ任ヲ有スルモノトス  
 第十七條 幹事ハ其聯合内ニ於ケル各共同組合ニ關スル經費ノ收支決算ヲ取纏メ毎曆年度ノ后二  
 ケ月以内ニ所轄區役所ヘ申報スルモノトス  
 第十八條 聯合共同組合會ニハ書記及使丁ヲ置クコトヲ得  
 第十九條 聯合共同組合會々則ノ設定變更ハ直ニ所轄區役所ヘ申報スルモノトス  
 第二十條 聯合共同組合會幹事ハ事務ノ必要ニヨリ上下京區又ハ兩區ヲ通シテ幹事會ヲ開設スル  
 コトヲ得  
 第二十一條 幹事會々則ノ設定變更及其決議事項ハ直ニ所轄區役所ヘ申報スルモノトス  
 第二十二條 聯合共同組合會及ヒ幹事會ニ於テ議決セシ經費ノ收支豫算ハ其時々所管區役所ノ承  
 認ヲ受ケ且ツ其決算ハ每曆年度後二ケ月以内ニ申報スルモノトス  
 但區役所ニ於テ必要ト認ムルトキハ其收支ヲ調査スルコトアルヘシ  
 第二十三條 聯合共同組合會及聯合共同組合幹事會ニ於テハ金錢ノ出納取扱ニ關スル規程ヲ設ケ

區長ノ承認ヲ請フヘシ

### 學事

#### ○京都市立美術工藝學校規則

總則

明治三十二年九月三十日  
市公告第一七三號

第一條 本校ハ工業學校規程ニ從ヒ美術及美術工藝ニ必須ノ智識技能ヲ教養スル所トス

第二條 本校ニ繪畫科圖案科彫刻科并ニ描金科ヲ置ク

第三條 本科ノ修業年限ヲ四年トス

第四條 本校ハ教授ノ傍ヲ圖案ノ調製并ニ彫刻及描金ノ製作ニ就キ他ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ

#### 學科課程

第五條 繪畫科ノ學科課程及教授時間數ハ左表ノ如シ

學科目	年級	繪畫科	
		身	文
第一學年	第一	一	四
	第二	一	三
	第三	一	三
	第四	一	二
第二學年	第一	一	三
	第二	一	三
	第三	一	三
	第四	一	二
第三學年	第一	一	三
	第二	一	三
	第三	一	三
	第四	一	二
第四學年	第一	一	三
	第二	一	三
	第三	一	三
	第四	一	二

計	實業科				體	國	博	化	物	歷	數
	實及繪本	革建	工美	解							
三三	習其畫邦	大築	藝史	術	操	畫	物	學	理	史	學
三三	寫模臨			術人	二	一	一		一	一	三
三三	生寫畫			解體	二	一	一		一	一	三
三三	作寫模臨			同	二	一	一		一	一	三
三三	圖生寫畫			上	二	一	一		一	一	三
三三	同				二		一				
三三	上				二		一				
三三	上二四				二		一				
三三	同上				二		一				



第六條 圖案科ノ學科課程及教授時間數ハ左表ノ如シ

圖案科

學科目	年級		時數	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年
	每 週	每 週					
修身	一	一	一	人倫道德ノ 要旨	同上	同上	同上
讀書	四	三	三	國文 漢文 日文	同上	同上	同上
作文	四	三	三	往復事 文	記事 文	同上	同上
算學	三	三	三	算術 代數 幾何 初歩	同上	同上	同上
歷史	一	一	一	本邦 歷史	同上	同上	同上
物理	一	一	一	力學 熱學	電氣 磁氣	無機 化學	無機 化學
化學	一	一	一	植物 動物	同上	同上	同上
博物	一	一	一	植物 動物	同上	同上	同上
圖畫	一	一	一	幾何 寫生 景法	同上	同上	同上
體操	二	二	二	柔軟 體操	同上	同上	同上

第七條 彫刻科ノ學科課程及教授時間數ハ左表ノ如シ

彫刻科

學科目	年級		時數	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年
	每 週	每 週					
修身	一	一	一	人倫道德ノ 要旨	同上	同上	同上
讀書	四	三	三	國文 漢文 日文	同上	同上	同上
作文	四	三	三	往復事 文	記事 文	同上	同上
實業科							
解剖大意	一	一	一	人體 解剖	同上	同上	同上
美術史	一	一	一	同上	同上	同上	同上
建築大意	一	一	一	同上	同上	同上	同上
木邦	一	一	一	臨摹 寫生	同上	同上	同上
繪畫	一	一	一	同上	同上	同上	同上
圖案習及	一	一	一	同上	同上	同上	同上
計	三三	三三	三三	同上	同上	同上	同上



計	繪畫	四	模寫	四	同上	二	同上	二	同上
	描金法調漆法及其實習	一五		一五		二二		二二	
		三三		三三		三三		三三	

學年教授日數及休業

第九條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス  
 第十條 教授日數ハ毎年四十三週教授時數ハ每週三十三時トス  
 第十一條 休業日ハ日曜日及大祭祝日ノ外左ノ如シ

春季 四月一日ヨリ同月七日迄七日間

夏季 八月一日ヨリ同月三十一日迄三十一日間

冬季 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄十四日間

前項ノ外知事ノ許可ヲ受ケ臨時休業ヲナスコトアルヘシ

入學在學及退學

第十二條 入學期ハ每學年ノ初メトス  
 但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 入學ヲ許スヘキモノハ品行善良志望確實身體強健ニシテ高等小學校四ケ年ノ學科ヲ卒業シ若クハ其程度ニヨリ施行スル左ノ科目ノ試験ニ合格シ年齡滿十四年以上十八年以下ノモノタルヘシ

但修學セントスル學科ノ實習科目ニ於テ素養アルモノハ試験ノ上年齡十八年以上ノ者ト雖モ入學ヲ許スコトアルヘシ

修身 讀書 習字 作文 算術 地理 歴史 理科 圖畫

第十四條 入學志願者ハ左ノ書式ノ入學志願書及履歷書ヲ差出スヘシ

入學願

今般御校へ入學(繪畫科、圖案科、彫刻科、描金科) 修業致度依テ履歷書相添此段相願候也

族籍住所

戶主又ハ某男弟等

氏

名印

年月日

生年月日

京都市美術工藝學校校長宛

履歷書

族籍住所職業

戶主又ハ某男弟等

氏

名

生年月日

一何年何月ヨリ何年何月迄何地何學校ニ於テ又ハ何地何某ニ就キ何々修業  
 一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賞罰ヲ受ケタル等  
 一卒業証書又ハ修了証書寫

右之通ニ有之候也

第十五條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ速ニ保証人ヲ定ムヘシ

但保証人ヲ定ムルニハ豫メ本校ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 保証人ハ躬ヲ出校シテ左ノ書式ノ保証書ヲ差出スヘシ

保証書

族籍住所

戸主又ハ某男

氏

名

生年月日

右某儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク相守勤學可爲致ハ勿論在學中本人ニ關スル一切ノ事件ハ拙者引受可申候仍テ保証書如此候也

年月日

族籍住所

氏

名印

京都市美術工藝學校長宛

第十七條 前條ノ保証書ヲ差出シタル後ニアラサレハ受業ノ爲メ生徒ノ出校ヲ許サス

第十八條 保証人ハ生徒ノ父兄親戚又ハ父兄ノ知友等ニシテ市内ニ住居シ一家計ヲ立テ生徒ノ身分等ニ關シ一切ノ事ヲ引受ケ且監督ノ責ニ任スルコトヲ得ヘキ者タルヘシ

第十九條 保証人轉住セハ速ニ届出ツヘシ

第二十條 保証人ニシテ其責ヲ盡サスト認ムルトキハ之ヲ代ヘシムヘシ

第二十一條 保証人變更ノ場合ハ其新ニ保証人トナリタル者更ニ第十六條ノ手續ヲナスヘシ

第二十二條 保証人旅行スルトキハ豫メ相當ノ代理人ヲ定メ届出ツヘシ

第二十三條 生徒ハ修業中途ニ退學スルコトヲ許サス

但疾病其他已ヲ得サル事故アリテ在學スルコト能ハサル場合ニ於テ保証人連署ヲ以テ願出ルトキハ詮議ノ上許可スルコトアルヘシ

專攻科

第二十四條 生徒ハ各本科卒業ノ後其實技ヲ專攻スルカ爲メ學校長ノ許可ヲ受ケ尙ニケ年間在學スルコトヲ得

但專攻志望ノ許否ニ關シテハ特ニ教員會議ヲ開キ其生徒卒業前ニ於ケル學業及行跡ニ就キテ評議シ專攻ノ志望ヲ許可セサルコトアルヘシ

第二十五條 專攻生ハ一般生徒ト均シク校規ヲ遵守シ保証人ヲ定ムヘシ

第二十六條 專攻生ハ毎學年ノ初メニ於テ人員ヲ定メ志望者其定員ニ超ユルトキハ優等ノ者ヨリ撰拔シテ在學ヲ許ス

試業

第二十七條 試業ハ臨時試業學年試業及卒業試業ノ三トス

但臨時試業ヲ除クノ外其他ノ試業ニ關スル規定ハ總テ專攻科ニ適用ス

第二十八條 臨時試業ハ一學年中三回已内臨時ニ之ヲ施行シ學業ノ進歩ヲ考定ス

但各科實技ニ關シテハ臨時試業ヲ施行セサルコトアルヘシ

第二十九條 學年試業ハ最後ノ學年ヲ除クノ外毎學年ノ終ニ於テ施行シ當該學級ノ終了ヲ判定ス  
但彫刻及描金科ノ實技ニ關シテハ平素ノ成績ニ就キテ學級ノ終了ヲ判定スルモノトス

第三十條 卒業試業ハ最後ノ學年ニ施行シ其卒業ヲ判定ス  
但卒業試業ニ合格セル者ノ製品ハ之ヲ學校ニ納メシムルモノトス

第三十一條 試業ノ成績ハ評點ニ依ル

第三十二條 試業評點ハ平素又ハ臨時若クハ學年試業ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ附シ各科一百ヲ以テ  
滿點トシ一科目評點四十點平均點數六十點以上ヲ合格トス  
但卒業試業ノ場合ニ於ケル製品ニ限リ其評點ヲ平均點數加ヘス各六十點已上ヲ合格トス

第三十三條 試業ニ欠席シタルモノ及日課ニ欠席多キカ爲メ試験ヲ省キタル者ハ事故ノ何タルヲ  
問ハス更ニ試業ヲ施行セサルモノトス  
但平素品行善良學業優等ノ者ニ限リ拔擢シテ特ニ受檢ヲ命スルコトアルヘシ

第三十四條 卒業試業及學年試業ニ合格シタル者ニハ左ハ書式ノ證書ヲ授與ス

書式

証	族籍	氏名	生年月日
繪畫科、圖案科、彫刻科、 描金科			
第何學年ノ學業修了ヲ証ス			
年月日			
番號	京都市美術工藝學校		

証	族籍	氏名	生年月日
右ハ本校所定ノ〔繪畫科、圖案科〕ヲ 〔彫刻科、描金科〕ヲ 履修シ成規ノ試業ヲ完了シ正ニ 其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ証ス			
年月日			
番號	京都市美術工藝學校長氏名印		

証

族 籍 氏 名

生年月日

右ハ本校ニ於テ何年間  
〔繪畫科、圖案科〕ヲ練習セリ仍  
〔彫刻科、描金科〕ヲ之ヲ証ス

年 月 日

京都市立美術工藝校學長氏名印

番 號

授 業 料

第三十五條 授業料ハ一ヶ月ニ付本科専攻科〔兩科共特待〕共各金壹圓トス  
 但毎年八月ハ授業料ヲ納付スルニ及ハズ

第三十六條 授業料ハ毎月指定ノ期日ニ必ス納付スヘシ  
 但便宜ニ依リ數月分ヲ前納スルモ妨ケナシ

第三十七條 授業料ノ納付ヲ怠ルトキハ其情狀ニ依リ登校ヲ許サルコトアルヘシ

第三十八條 全月欠席ノ者ト雖トモ本校ノ學籍ニ在ル間ハ授業料ヲ徴收ス  
 但シ病氣其他己ムヲ得サル事項ニ依リ屆濟全月欠席ノ者及正當ノ事由ナクシテ引續一ヶ月以  
 上欠席シ退學ヲ命シタルモノニ限リ其月分ノ授業料ヲ徴セス

賞 罰 及 特 待 法

第三十九條 生徒心得ヲ服膺シ他ノ模範タルニ足ルヘキ實行アル者學業優秀ナル者勉學超衆ノ者  
 及苦學ニ耐ル者等ハ左ノ方法ニ依リテ之ヲ褒賞ス

褒 狀 授 與  
賞 品 授 與

第四十條 品行善良學業優秀ニシテ將來特ニ有望ノ者二十名以内ヲ撰ミ之ヲ特待生トナシ在學中  
 授業用具費ノ幾部ヲ給與ス

但特待生ニシテ品行修ジズ又ハ學業進マズト認ムルトキハ直ニ之ヲ罷ム

第四十一條 校規ヲ犯ス者學業ヲ怠ル者校長教員ノ訓戒ニ遵ハサル者其他不良ト認ムル所爲アル  
 者ハ其情狀ニ依リ左ノ罰科ニ處ス

但停學ハ一週日已上一ヶ年以内ノ數日ヲ定メテ之ヲ科ス

謹 責  
停 學  
放 校

第四十二條 身体ノ健全ヲ失ヒタル者缺席多キ者及學業進マズシテ成業ノ見込ナキ者ハ詮議ノ上  
 退學セシムルコトアルハシ

生徒心得

- 第四十三條 本校生徒ハ常に左ノ各款ヲ服膺スヘシ
- 一 教育ニ關スル勅語ノ聖訓ヲ奉體シ以テ臣子ノ分ヲ辨ヘ常ニ忠孝ノ道ヲ修ムヘシ
  - 二 智徳ヲ研キ身體ヲ健全ニシ且技能ニ熟シ以テ立身報國ノ基ヲ確立スヘシ
  - 三 校規ヲ遵守シ師長ヲ敬重スヘシ
  - 四 信義ヲ重シ禮讓ヲ守リ學友互ニ其誼ヲ全フスヘシ
  - 五 廉耻ヲ勵ミ志操ヲ固クシ勤儉節制ヲ旨トシ浮薄驕奢ノ舉動アルヘカラス
- 前項各款ノ外生徒ノ心得ヘキ規定ハ細則ニ掲クヘシ

附 則

第四十四條 本則ハ明治三十二年九月ヨリ施行ス

第四十五條 現在ノ生徒ニシテ第三學年以上ノ學級ニ在ル者ニハ新設ノ學科目ニ限リ之ヲ課セラルコトヲ得

第四十六條 現設ノ豫科ハ明治三十四年三月迄仍之ヲ存置シ舊則ニ依リ其學業ヲ修メシムヘシ

○京都市立染織學校規則

明治三十二年五月五日  
市公告第一〇八號

第一章 總 則

第一條 本校ハ工業學校規程ニ依リ主トシテ染色又ハ機織ニ關スル必須ノ學理ヲ授ケ之ヲ實地ニ應用練習セシメ以テ適良ナル工業者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ本科及豫科ヲ置キ本科ヲ分チテ染色部機織部ノ二部トス

第三條 本科ノ修業年限ハ三ケ年トシ豫科ノ修業年限ハ二ケ年トス

第四條 本科生徒卒業ノ後其志望ニヨリ專攻科生トシ尙其學業ヲ研究セシムルコトアルヘシ但シ其年限ハ二ケ年以内トス

第五條 染色及機織業者若シハ其子弟實製ニ從事スルコト滿一ケ年以上ニシテ其業務ニ必要ナル課目ノ速成ヲ期スルモノ、爲メニ別科ヲ置キ其修學年限ヲ一ケ年トス

第六條 別科卒業生ニシテ志望ノ者ハ期限ヲ定メス復習生トシテ時々登校ヲ許シ其學業ヲ復習セシムルコトアルヘシ

第二章 學科課程

第七條 本科染色部及機織部ノ學科課程ハ左ノ如シ

本科課程表

學 年	第一學年		第二學年		第三學年	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
課 目	人倫道德 ノ要旨	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上
修 身	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上
讀 書	二 講 讀	二 同 上	二 同 上	二 同 上	二 同 上	二 同 上
數 學	二 算術演習	四 算術演習 幾何	三 代數 幾何	三 同 上	三 同 上	三 同 上
作 文	一 往復文 記事文	一 同 上	一 記事文	一 同 上		







第二十條 進級ハ第十七條第十八條ニ依ルト雖モ成績拔群品行端正ニシテ他生徒ノ模範タルヘキ  
 モノハ學校長ノ認定ニ依リ特ニ進級セシムルコトアルヘシ

第廿一條 試業ニ缺席シタル其科目ハ零點ヲ附ス

第廿二條 平常缺席多キモノハ通常試業評點及檢定評點若干ヲ減ス

第廿三條 病氣其他ノ事故ニ依リ試業ニ缺席スルモノハ醫師ノ診斷書若クハ理由書ヲ添ヘ保証人  
 連署當日午前八時迄ニ届出スヘシ

但シ病氣又ハ正當ノ理由アリト認ムルモノニ限り更ニ期日ヲ定メ追試業ヲ施スコトアルヘシ

第廿四條 學年試業ニ合格シタルモノニハ修了証書ヲ授與ス

第廿五條 最後學年ノ試業ニ合格シタル者ニハ卒業証書ヲ授與ス

第廿六條 專攻科生ハ試業ヲ行ハス學年ノ終ニ於テ實修ノ成績ヲ檢定シ其成績善良ナル者ニハ退  
 學ノ時專攻ニ係ル修業証書ヲ授與ス

第廿七條 別科生ハ一學年ノ終ニ於テ其學業ヲ試驗シ成績善良ナルモノニハ卒業証書ヲ授與ス

第四章 學年學期授業日數及休業日

第廿八條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第廿九條 學年ヲ分チテ二學期トシ第一學期ハ四月一日ニ始マリ九月三十日ニ終リ第二學期ハ十  
 月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十條 一學年ノ授業日數ハ凡二百五十一日トス

第三十一條 年中休業日左ノ如シ

日 曜 日 神武天皇祭 秋季皇靈祭

神嘗祭 天長節 新嘗祭  
 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭

冬期 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル二週間  
 夏期 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間  
 試驗後 學年試業一週間

第五章 入退學規程

第三十二條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス  
 但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十三條 本科第一學年ニ入學ヲ許スヘキモノハ左ノ各項ニ適合スルモノタルヘシ

一 年齡滿十四第以上ノ男子

一 品行端正ナル者

一 身體強健ナル者

一 染色若クハ機織業者ノ子弟又ハ將來染色若シクハ機織業ニ從事セントスル志望ノ鞏固ナ  
 ルモノ

一 修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業セル者

一 本校豫科卒業ノ程度ニ依リ英語ノ試驗ニ合格スル者

第三十四條 豫科第一學年ニ入學ヲ許スヘキモノハ前條第二項第三項ニ適合スルノ外左ノ各項ニ  
 適合スルモノタルヘシ

一 年齡滿十二年以上ノ男子

- 一 本科ニ入學セントスル志望ノ者
- 一 高等小學第二學年ノ課程ヲ修了セル者
- 第三十五條 別科ニ入學ヲ許スヘキモノハ第三十三條第二項第三項ニ適合スルノ外尙左ノ各項ニ適合スルモノタルヘシ
  - 一 年齡滿十五年以上ノ男子
  - 一 一ケ年以上實業ニ従事スル者
  - 一 尋常小學校ヲ卒業セル者
- 第三十六條 第三十三條第五項第三十四條及第三十五條ノ第三項ニ適合セサル者ト雖モ入學試驗ニ合格スル者ハ入學ヲ許ス
- 第三十七條 入學試驗ハ本科ニ於テハ修業年限四ケ年ノ高等小學校卒業以上ノ程度ニ依リ豫科ニ於テハ高等小學校第二學年修了以上ノ程度ニ依リ別科ニ於テハ尋常小學校卒業以上ノ程度ニ依リ行フモノトス
- 第三十八條 第三十三條第三十四條第三十五條ニ依リ入學ヲ志望スル者ト雖トモ入學志望者豫定人員ニ超過スル場合ニ於テハ相當ノ試験ヲ行ヒ成績ノ優等ナル者ヨリ撰拔入學ヲ許ス
- 第三十九條 入學志望ノ者ハ甲號書式ノ入學願書ニ乙號書式ノ履歷書ヲ添ヘ本校ニ差出スヘシ
- 第四十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ一週間以内ニ丙號書式ノ在學證書ヲ差出スヘシ
- 第四十一條 生徒卒業ノ後尙在學シ専攻科生若クハ復習生トシテ欲スル者ハ丁號書式ノ願書ヲ差出スヘシ
- 第四十二條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ京都市内ニ一家計ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切ノ事

ヲ引受クルニ足ルモノタルヘシ

第四十三條 保證人宿所ヲ轉シ或ハ改姓名改印スル等ノ事アルトキハ一週日以内ニ届出スヘシ又旅行セントスルトキハ相當ノ代理者ヲ立テ置クヘシ

第四十四條 保證人死亡若クハ市外ニ轉住スルトキハ直ニ第四十二條ニ合格スル保證人ヲ以テ之ニ代フヘシ

第四十五條 生徒ハ自費ヲ以テ本校所定ノ帽被服ヲ調製着用スヘシ但シ新入學生徒ハ入學ノ日ヨリ一ケ月以内ニ本文ニ依ル

第四十六條 生徒疾病等ハ己ムヲ得サル事故ニ依リ缺席スルトキハ其旨保證人ヨリ届出スヘシ尤モ病氣ノ爲メ引續キ一週日以上欠席スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第四十七條 病氣其他己ムヲ得サル事故ニヨリ半途退學セント欲スルモノハ事實ヲ詳具シ保證人連署願出スヘシ

但シ病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第四十八條 生徒學業不進若シクハ品行不良ニシテ成業ノ的目ナシト認ルモノハ退學ヲ命スヘシ

第四十九條 本校卒業生業ハ職業及就職ノ場所ヲ本校ニ通知スヘシ其異動ヲ生シタル場合ニ於テモ亦同シ

第六章 賞罰規程

第五十條 生徒品行方正學力優等平素勤勉ニシテ他生徒ノ模範タルヘキ者ハ相當ノ賞與ヲ行フ

第五十一條 校規ヲ犯シ其他生徒タルノ本分ヲ守ラサルモノハ左ノ懲罰ニ處スヘシ

一 證 責

第五十二條 無届欠席一ヶ月以上ニ涉ルモノハ除名スヘシ

附 則

第五十三條 從來在學ノ生徒ハ試験ヲ行ヒ相當ノ學年級ニ編入スルモノトス  
甲號書式 (用紙美濃紙)

入 學 願 書

私義御校本科何部 第何學年ニ入學仕度候間(英語科御檢定ノ上)(御試験之上)御許可被下度別  
紙履歷書相副此段相願候也

現 宿 所

年 月 日

本籍族(戶主ニアラサレハ誰子弟)

姓 名 印

何年何月生

京都市立染織學校長某殿

乙號書式 (用紙美濃紙)

履 歷 書

本籍族 (戶主ニアラサレハ誰子弟)

姓 名

何年何月生

一何年何月何地公立小學校何學年ノ課程修了

一何年何月何地公立小學校卒業但修業年限何ケ年

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地何某ニ就キ何學修業

賞 罰

一何年何月何日何所ニ於テ何廉ヲ以テ何賞罰ヲ受クル等

一家業何々

丙號書式 (用紙美濃紙印紙貼用)

在 學 證

私義今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵スヘキハ勿論漫ヲニ半途  
退學等仕間敷候此段相誓候也

宿所京都市何區町何番戶

本籍族 (戶主ニアラサレハ誰子弟)

姓 名 印

何年何月生

年 月 日

前文何某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者引受御校ニ對シ證人  
タルノ義務相缺キ申様ノ事致間敷候依テ保證如此候也

但證人ニ關スル御校ノ御規則ハ總テ承認致候

宿所京都市何區町何番戶

本籍職業或ハ職務

年月日

姓

何年何月生

名 印

京都市立染織學校校長某殿

丁號書式 (用紙美濃紙)

私義今回別本科(染色部)(機織部)卒業候處尙何年間在學々業ヲ專攻(復習)致度候間御許可被下  
度保證人連署此段相願候也

宿所京都市何區何町何番戶

本籍族 (戶主ニアラザレハ誰子弟)

姓 名 印

何年何月生

京都市立染織學校校長某殿

○京都市立商業學校規則

明治卅四年六月四日  
市公告第一三五號

第一章 總 則

第一條 本校ハ甲種商業學校ノ程度ニ基キ商業ニ從事セント欲スル者ニ須要ナル教育ヲ施ス所トス

第二條 本校ニ本科豫科ヲ置ク

第三條 本校修業年限ハ本科ヲ四ケ年トシ豫科ヲ二ケ年トス

本科ニ於テハ商業ニ關スル學科ヲ專修セシメ豫科ニ於テハ本科ニ進マンカ爲メニ必要ナル普通

學科ヲ受クルモノトス

第二章 學科課程

第四條 本科ノ學科ハ修身、讀書、作文、習字、數學、簿記、地理、歴史、商品、商事要項及商業實踐、法律、經濟、外國語(英語)、理科、體操トシ別ニ隨意科トシテ清語ヲ授ク

豫科ノ學科ハ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、圖畫、外國語(英語)、理科、體操トス

第五條 豫科各一年ヲ以テ一學級トス

第六條 本科ノ學科課程ハ左表ノ如シ

本科學科課程表

科目	年級	第一學級		第二學級		第三學級		第四學級	
		時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目
修身	一	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	一	同上	一	同上
讀書	四	三	漢文	一	漢文	一	漢文	一	漢文
作文	二	一	往復文、記事文、公用文	一	往復文、記事文、公用文	一	往復文、記事文、契約文		
習字	二	二	行書細字						
數學	五	三	筆算、珠算、代數	二	同上	二	同上		
簿記	四	四	簿記文、和文記帳、英文記帳	四	簿記文、和文記帳、英文記帳	四	和文記帳、英文記帳		
地理	二	二	內國	二	外國				



理	科	一	博物大意
體	操	三	同上
合	計	三〇	

第三章 學年學期及休業

第八條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日終ル

第九條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學 期四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學 期九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學 期翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 年中ノ休業日ハ左ノ如シ

一日	神武天皇祭	四月三日
一日	秋李皇靈祭	秋分日
一日	神嘗祭	十月十七日
一日	天長節	十一月三日
一日	新嘗祭	十一月二十三日
一日	孝明天皇祭	一月三十日
一日	紀元節	二月十一日

- 一 春季皇靈祭
- 一 夏季休業
- 一 冬季休業

春分日  
自七月二十六日  
至九月五日  
自十二月二十五日  
至翌年一月七日

第四章 入學及退學

第十一條 入學期ハ學年ノ始トス

但時宜ニヨリ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 豫科第一等級ニ入學ヲ許スヘキモノハ身體健全操行端正志望確固年齡滿十二年以上ニ

シテ京都市付簡易商業學校正科第二年又ハ高等小學校二箇年ノ學科課程修了ノモノ若クハ第十

三條ノ入學試業ニ合格セルモノタルヘシ

三入學志願者豫定人員ニ超過スルトキハ選抜試業ヲ行フモノトス

第十三條 豫科第一等級ノ入學試業ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フヘシ

- 一 修身
- 一 讀書
- 一 作文
- 一 習字
- 一 算術
- 一 地理
- 一 歷史
- 一 理科

一圖 畫

第十四條 本科第一年級ニ入學ヲ許可スヘキモノハ本校豫科卒業ノモノ若クハ之レト同等ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

但高等小學(修業年限四年ノ)全科卒業ノモノハ英語ノ學力ヲ査定シ本科第一年級ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十五條 豫科第二級若クハ本科第二級以上ニ入學ヲ志願スルモノアルトキハ其級ニ必要ナル入學試業ヲ行ヒ相當ノ學力アルモノニ限り許可スルコトアルヘシ

第十六條 入學志願者ハ第一號書式ノ入學願書並ニ第二號書式ノ學業履歷書ヲ差出スヘシ

第十七條 本校ニ入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ於テ其保證人ト共ニ來校シ第三號書式ノ保證書ヲ差出スヘシ

第十八條 入學者ハ京都市内住居ノモノニ限り其父母後見人若クハ近親ノ内一名ノ保證人ヲ要シ市外ヨリ來學ノ者ハ在籍地父母後見人若クハ近親ノ者一名ト外ニ京都市内若クハ近郡町村ニ居住スル丁年以上ノ戸主ニシテ本人身上ニ關シ一切ノ事ヲ引受ケ且監督ノ責ニ任スヘキ資格ヲ有スルモノ一名ト都合二名ノ保證人ヲ要ス

第十九條 保證人轉居改氏名其他異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ其旨届出ヘシ

第二十條 疾病其他不得已事故ニ依リ退學セント欲スルモノハ第四號書式ニ倣ヒ退學願書ヲ差出シ本校ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 願ニ依リ一旦退學シタル者再入學ヲ請フ時ハ詮議ノ上原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一ケ年以上欠席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上欠席シタル者

〔第一號書式〕

入 學 願

(用紙美濃野紙)

私儀御校何科何年級へ入學志願ニ付(試験ノ上)御許可被成下度依テ別紙履歷書相添へ此段相願候也

在籍地族職業某子弟(又ハ戸主)

年 月 日

志願人 氏

名 〇

何年何月何日生

現住所、、、、、、、

住所族職業父母若クハ後見人

保證人 氏

名 〇

年 齡

京都市立商業學校長氏名殿

〔第二號書式〕

履 歷 書

(用紙同上)



學業

一何年何月何日何地官私立何學校ニ入り何年何月何日何學科何年級修了或ハ全科卒業或ハ何某ニ從學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スルモノハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一何年何月何日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等以上

年月日

氏名

〔第三號書式〕

保證書

在籍地族職業某子弟(又ハ戶主)

(用紙同上)

志願人 氏名

何年何月何日生

現住所、、、、

右ノ者今回入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク可爲相守且本人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者ニ於テ引受可申依テ保證如此ニ候也

在籍地族職業父母若クハ後見人

保證人 氏名

名

年月日

學業

一何年何月何日何地官私立何學校ニ入り何年何月何日何學科何年級修了或ハ全科卒業或ハ何某ニ從學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スルモノハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一何年何月何日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等以上

年月日

氏名

〔第四號書式〕

退學願

京都市立商業學校長氏名殿

(用紙同上)

退學願人 氏名

何年何月何日生

右ノ者從來御校何科何年級へ入學致居候處今般病氣(何々ノ理由)ニユリ退學爲致度候間御許可被成下度此段相願候也

在籍地族職業某子弟(又ハ戶主)

保證人 氏名

名

年月日

在籍地族職業

現住所、、、、

年 齡

保證人 氏名

年 齡

現住所、、、、

京都市立商業學校長氏名殿

(用紙同上)

在籍地族職業某子弟(又ハ戶主)

氏名

何年何月何日生

右ノ者從來御校何科何年級へ入學致居候處今般病氣(何々ノ理由)ニユリ退學爲致度候間御許可被成下度此段相願候也

在籍地族職業父母若クハ後見人

保證人 氏名

名

在籍地族職業

保證人 氏名

名

京都市立商業學校長氏名殿

第五章 試業

- 第二十三條 生徒ノ進級ハ學年評點ニ據リテ之ヲ定ム
- 第二十四條 學年評點ハ第一第二學期評點、學年試業評點、行狀點ノ三種ヨリ成ル
- 第二十五條 各科目評點ハ一百點ヲ以テ最高點トス
- 第二十六條 各科目學期評點ハ該學期間ニ履修セル學課ニ付試業ヲ行ヒ之レヲ定ム
- 第二十七條 各科目學年試業點ハ該學年間履修セル學課ニ付學年末ニ於テ試業ヲ行ヒ之レヲ定ム
- 第二十八條 行狀點ハ生徒操行ノ良否ヲ表スヲモノニシテ其善行アルモノニハ正點ヲ與ヘ失行アルモノニ對シテハ負點ヲ付ス
- 第二十九條 各科課業中生徒ノ學力ヲ察驗シ評點ヲ付シタルモノヲ該科ノ日課點ト稱ス
- 第三十條 各科目課平均點ヲ以テ該科學期評點若クハ學年試業點ヲ斟酌スルコトアルヘシ  
但教科ノ便ニヨリ日課平均點ヲ以テ完ク學期評點ニ更フルコトアルヘシ
- 第三十一條 行狀點ハ左ノ方法ニ依リ之レヲ定ム  
第一 每學年末ニ於テ職員總會ヲ開キ該學年中ノ操行ヲ審査シ校長ノ判定ニ依リ十點以内ノ正點ヲ與ヘ若クハ廿點以内ノ負點ヲ付ス  
第二 生徒失行アル時ハ教員若クハ當該掛員ノ請求ニ依リ其實情ヲ審査シ相當ノ負點ヲ付ス
- 第三十二條 各科目學年平均點ハ第一第二學期評點ヲ平均シテ得タルモノニ學年試業點ヲ加ヘ二除シテ之レヲ定ム
- 第三十三條 學年評點ハ諸科目學年總平均點ニ該學年中ノ行狀點ヲ増減シテ之レヲ定ム
- 第三十四條 每試業科目ニ於テ四十點以上ノ評點ヲ得學年評點ニ於テ六十點以上ヲ得タルモノハ

以テ進級者トシ修業證書ヲ授與ス

第三十五條 總テ試業ニ缺席スル者ハ零點ヲ付スルモノトス

但病氣又ハ正當ノ理由アリテ事情ノ明白ナルモノニ限リ期日ヲ定メテ追試業ヲ施スコトアルヘシ

第三十六條 最後ノ學年評點ニ於テ合格ノ點數ヲ得タルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十七條 卒業生中本科第一年以後每學年ノ評點ヲ通算シ各科目六十點以上諸課目平均九十點

以上ヲ得タルモノニ對シテハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

但行狀ニ於テ一旦負點ヲ得タルモノハ本文ノ限ニアラス

〔卒業證書々式〕

優等卒業證書

族 籍

氏 名

生 年 月

本校所定ノ全學科ヲ履修シ正ニ其業ヲ卒ヘ成績優等品行善良ナルヲ認ム依テ此證書ヲ授與ス

年 月 日

京都市立商業學校長 氏

名 圖

卒業證書

族 籍

氏 名

本校所定ノ全學科ヲ履修シ正ニ其業ヲ卒ヘヨリ依テ此證書ヲ授與ス  
年 月 日

京都市立商業學校長 氏 名 圖

「修業證書々式」

修業證書

族 籍

氏 名

生 年 月

本校何科第何年級授業ヲ證ス

年 月 日

京都市立商業學校

第六章 授業料

第三十八條 生徒ハ毎月左ノ通授業料ヲ納ムヘシ

- 一 木 科 金壹圓參拾錢
- 一 豫 科 金八拾錢

但毎年八月ハ授業料納付スルニ及ハス

第三十九條

授業料ハ毎月指定ノ期日ニ必ス納付スヘシ  
但便宜ニ依リ數月分ヲ前納スルモ妨ケナシ

第四十條 授業料ノ納付ヲ怠ルトキハ其情狀ニ依リ登校ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第四十一條 全月缺席ノ者ト雖トモ本校ノ學籍ニ在ル間ハ授業料ヲ徵收ス

但病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ屆濟全月欠席ノ者及正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上欠席シ退學ヲ命シタルモノニ限リ其月分ノ授業料ヲ徵セス

第七章 賞 罰

第四十二條 學力優等ニシテ平素品行方正ナルモノハ褒賞ヲ附與スルコトアルヘシ

第四十三條 凡ソ生徒不良ノ行爲アルモノ若クハ校則ニ違背スル者ハ行狀點ノ制裁ヲ受ケシムルノ外此規程ニ依リテ之ヲ罰ス

第四十四條 罰科ヲ分チテ左ノ三種ト爲シ事ノ輕重ニ從ヒ其一ヲ科スルモノトス

- 一 戒 飾
- 二 謹 慎
- 三 停 學

第四十五條 戒飾ハ最輕ノ罰ニシテ將來ノ改悛ヲ促スモノトス

第四十六條 謹慎ハ授業中別席ヲ與ヘ若クハ授業時間外別室ニ於テ謹慎ヲ表セシムルモノトス

第四十七條 戒飾謹慎ニ處スルモ未タ改悛ノ實ヲ表セサルモノハ停學ヲ命ス

○京都市立簡易商業學校規則

明治卅五年四月廿四日  
市公告第一〇九號

第一章 目的及修業年限

第一條 本校ハ乙種商業學校ノ程度ニ基キテ商業上ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ第一科及第二科ノ二種ヲ置キ其ノ修業年限ハ各二ケ年トス  
 第二科ハ商業ニ關スル學科ノ速成ヲ望ムモノ、爲ニ設ク

第二章 學科目及其程度

第三條 本校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、簿記、商事要項、商品、英語、體操トス

但第一科ニ在リテハ歷史ヲ第二科ニ在リテハ商品及英語ヲ欠ク

第四條 本校ノ學科課程表ハ左ノ如シ

第一科課程表

學科目	年級別		每週授業時間數
	第一 年 級	第二 年 級	
修身	一人倫道德ノ要旨	一同上	一
讀書	五 漢字交リ文	四同上	四
作文	二 往復文 記事文	二 同上 商業作文	二
習字	二 楷、行、草	一 商業書式	一
算術	三分數 比例 百分算	三 同上 求積 商業算術	三
算珠	二 四則	二 同上	二

第二科課程表

學科目	年級別		每週授業時間數
	第一 年 級	第二 年 級	
修身	一人倫道德ノ要旨	一同上	一
讀書	五 漢字交リ文	五 同上	五
作文	三 往復文 記事文	三 同上 商業作文	三
習字	三 楷、行、草	三 楷、行、草細字	三

算	算	五	加減乘除度量衡貨幣及時ノ計	四	小數、比例、百分算
術	珠算	二	四則	二	同上
地	理	二	日本地理大要	二	同上
歷	史	二	日本歴史大要	二	同上
簿	記	二	帳合 法	二	單式
商	事要項	二	度量衡、印紙稅、郵便、電信、送金、運送等并ニ實踐	三	貨幣、利息、貯金、手形、銀行、會社、有價証券、取引等并ニ實踐
體	操	三	柔軟体操 徒手教練 普通体操	三	同上
合	計	三〇		三〇	

第三章 學年學期及休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス  
 學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ  
 第一學期 四月一日ヨリ七月二十五日ニ至ル  
 第二學期 九月六日ヨリ十二月二十四日ニ至ル  
 第三學期 翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル  
 第六條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一日 照
- 一神武天皇祭 四月三日
- 一秋季皇靈祭 秋分日
- 一神嘗祭 十月十七日
- 一天長節 十一月三日
- 一新嘗祭 十一月二十三日
- 一孝明天皇祭 一月三十日
- 一紀元節 二月十一日
- 一春季皇靈祭 春分日
- 一夏期休業 七月二十六日ヨリ九月五日ニ至
- 一冬期休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至

第四章 入學及退學

第七條 入學期ハ學年ノ始トス  
 但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ  
 第八條 第一科第一年級ニ入學ヲ許スヘキモノハ年齡滿十二年以上ニシテ高等小學校第二學年修了ノ者若クハ之レト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ  
 第九條 第二科第一年級ニ入學ヲ許スヘキ者ハ年齡滿十年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者タルヘシ  
 第十條 各科第二年級ニ入學ヲ許スヘキモノハ各其ノ一年級ニ入學シ得ル資格ヲ有スル外一年級

終了ノ程度ニテ行ヒタル入學試験ニ合格シタル者タルヘシ  
第十一條 入學志願者ハ左ノ書式ニ據リ入學願書ヲ差出スヘシ

入學願書

(用紙半紙野)

原籍、住所、身分、職業、(某何男又ハ弟)

氏名

年月日生

右之者御校何科何年級ニ入學爲致度候ニ付御許可相成度履歷書相添此段相願候也

原籍、住所、身分、職業、志願者某ノ父、兄

戸主又ハ親族

氏名

年月日生

年月日

京都市立簡易商業學校長氏名殿

履歷書

原籍、住所、身分、職業

氏名

年月日生

一明治

年 月

日何縣何市何學校ニ入學

一明治

年 月

日何縣何市何學校卒業

一明治

年 月

日何年間誰某ニ就キ何學ヲ修ム

右

年月日

氏名

第十二條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ當日ヨリ五日内ニ京都市内若クハ近郡ノ在籍者ニシテ

成年以上ノ戸主(父母又ハ其他監督者)一名ヲ保証人トナシ保証書差出スヘシ

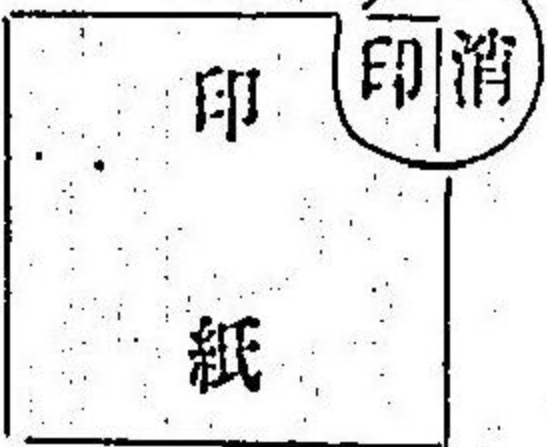
保証書

(用紙半紙野)

原籍、住所、身分、職業、某何男又ハ弟

氏名

年月日生



右之者今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク可爲相守ハ勿論在學中本人ニ關スル事件ハ一切拙者引受可申候仍而保証書差出候也

原籍、住所、身分、職業、志願者某ノ父兄

戸主又ハ親族

氏名

年月日生

年月日

京都市立簡易商業學校長氏名殿

第十三條 保証人轉居、改氏名、其ノ他異動ヲ生シタルトキハ五日内ニ之レヲ届出ツヘシ

第十四條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ退學セントスルモノハ其ノ旨ヲ記シタル退學願書

ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第五章 試業

第十五條 試業ヲ分テ學期試業學年試業ノ二種トス  
 第十六條 學期試業ハ一學年中ニ二回之レヲ行ヒ學年試業ハ學年ノ終リニ其ノ學年中終了セシ學科ニ就キテ成績ヲ檢定ス  
 第十七條 各種試業ノ各科目評點ハ一百點ヲ最高トシ成績點數四十以上ニシテ總成績點ノ平均六十以上ヲ得タル者ヲ及第トシ之レニ及ハサル者ヲ落第トス  
 第十八條 學年試業ニ及第シタル者ニハ修了證書ヲ授與シ最後學年ノ試業ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス其ノ書式ハ左ノ如シ  
 (卒業證書書式) 卒業證書

族籍

氏

生年月

本校第一(第二)科課程卒業ヲ證ス  
 年 月 日

京都市立簡易商業學校長氏名印

族籍

氏

生年月

(修了證書書式) 修了證書

本校第一(第二)科第一年度修了ヲ證ス

年 月 日

京都市立簡易商業學校

第十九條 試業ニ關スル細則ハ別ニ之レヲ定ム

第六章 授業料

第二十條 授業料ハ一ヶ月金五拾錢トス

第二十一條 授業料ハ毎月所定ノ期日迄ニ其月分ヲ納ムヘシ但納付期日後ニ入學シタル者ハ入學ノ際ニ納ムルモノトス

第二十二條 授業料ノ納付ヲ怠ルトキハ其ノ情狀ニ由リテ登校ヲ禁止スルコトアルヘシ

第二十三條 全月間缺席ノ者ト雖トモ本校ノ學籍ニアル間ハ授業料ヲ免除セズ  
 但疾病其他止ムヲ得サル事故ニ由リテ屆濟ノ上全月間缺席ノ者并ニ登校ヲ禁止セラレテ一ヶ月ニ達シタル者ニ限リ其月分ノ授業料ヲ免除ス

第七章 罰則

第二十四條 怠惰不品行ニシテ成業ノ見込ナキ者若クハ校則ヲ犯シ其ノ他生徒分外ノ所行ヲ爲シタル者ハ事ノ輕重ニ應シテ左ノ罰科ノ一ヲ科スルモノトス

- 一 譴責
- 二 謹慎
- 三 停學
- 四 除名

○京都市立盲啞院規則

明治卅五年十月廿日  
市公告第二〇八號

第一章 通 則

- 第一條 本院ハ盲及聾啞ニ普通ノ教育ヲ授ケ兼テ獨立自活ニ須要ナル技藝ヲ教フルヲ以テ目的トス
- 第二條 本院ニ普通科、技藝科ノ二科ヲ置ク
- 第三條 普通科ヲ分チテ盲尋常科、盲高等科、聾啞尋常科、聾啞高等科トス
- 第四條 技藝科ヲ分チテ盲技藝科、聾啞技藝科トス盲技藝科ハ簡易按摩科、鍼按科、高等鍼按科、音曲科、高等音曲科トシ聾啞技藝科ハ繪畫科、高等繪畫科、裁縫科、木工科トス
- 第五條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第六條 學年ヲ分チテ二學期トス
  - 第一學期 自四月一日起至七月二十日
  - 第二學期 自七月二十日起至十月十四日
  - 第三學期 自十月十四日起至三月三十一日
- 第七條 休業日ハ左ノ如シ
  - 一日 曜 日
  - 一大 祭 祝 日
  - 一 皇后陛下御誕辰 祭十五日 氏 神 祭十五日 時 代 祭當日

- 一夏 期 自七月三十一日
- 一冬 期 自八月三十一日
- 一學 年 期 自十一月二十五日起至翌年一月七日
- 一學 末 五日間

- 第八條 生徒入學ハ每學年ノ始トス  
但欠員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第九條 普通科ニ入學ヲ許スヘキモノハ盲年滿九年以上聾啞年滿八年以上ノ者トス  
但所定ノ年齢ニ達セザルモノト雖トモ見習生トシテ入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第十條 技藝科ニ入學ヲ許スヘキ者ハ其條項ヲ各別ニ規定ス  
但年長者ニシテ直ニ技藝科ニ入ラントスルモノ各科ニ規定スル資格ナキトキハ特別生トシテ入學ヲ許スコトアルヘシ此場合ニ於テハ普通學科ヲ補修セシムルモノトス
- 第十一條 入學志願者ニシテ既ニ學藝ノ素養アル者ハ試験ヲ以テ相當ノ學年ニ編入スルコトアルヘシ
- 第十二條 入學ヲ志願スルモノハ書式第一號ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
- 第十三條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ書式第二號ニ依リ京都市内ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ者ヲ保証人ト定メ在學証書ヲ差出スヘシ
- 第十四條 生徒父兄又ハ保証人轉居スルトキハ速ニ届出ツヘシ
- 第十五條 生徒病氣又ハ事故ニ依リテ欠席スル時ハ父兄又ハ保証人ヨリ其理由ヲ届出ツヘシ  
但疾病ニ依リ欠席ニ週間以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ本文ノ手續ヲ經テ届出ツヘシ



第十六條 修業中途ニシテ猥リニ退學スルヲ得ス若シ疾病其他止ムヲ得サル事故ノ爲ニ退學セン

ト欲スル者ハ其理由ヲ詳具シ父兄保証人連署シテ願出ツヘシ

第十七條 左ノ一項又ハ二項ニ該當スル者ハ特待生トシテ若干ノ獎學金ヲ給シ若クハ學年末ニ於

テ褒賞ヲ與フヘシ

一平素ノ行狀優良ナルモノ

一學力優等ナルモノ

一勉勵衆ニ超ルモノ

第十八條 成業ノ見込ナシト認定スル者ニハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 校則及職員ノ訓誡ニ屢違背シタル者其他不都合ノ行爲アリタル者ハ其事情ニ依リ譴責

停學若クハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 修業卒業ノ適否ハ其學年間ニ修メタル學業ノ成績及行狀ノ考查ニ依リテ之ヲ判ス

第二十一條 各學年修業ノ者ニハ修業證書〔舊式〕ヲ各科卒業ノ者ニハ卒業證書〔舊式〕ヲ與フ

第二十二條 授業料ハ京都府管外生ニ限リ一ヶ月金五拾錢ヲ徵收ス

但左ニ該當スルモノハ之ヲ免除ス

一京都市内ニ全戸寄留ノモノ

一貧困ノモノ

一欠席全月ニ及ヒタルモノ

第二章 普通科

第二十三條 盲尋常科、盲高等科ノ修業年限ハ各四ケ年トス

第二十四條 盲尋常科、盲高等科ノ學科目ハ修身、國語、算術、地理、歴史、理科〔尋常科ニ欠ク〕唱歌、

体操、手工トス其課程ハ別表ノ如シ

但音曲志望ノ者ハ唱歌ノ時間ヲ以テ音曲ヲ學フヲ得

第二十五條 聾聾尋常科ノ修業年限ハ五ケ年トシ聾聾高等科ノ修業年限ハ三ケ年トス

第二十六條 聾聾尋常科聾聾高等科ノ學科目ハ修身、國語、算術、地理、歴史、理科〔歴史理科ノ二科〕体

操、圖畫、裁縫、手工〔高等科ニ欠ク〕トス其課程ハ別表ノ如シ

但國語科中會話ハ言語教授ニ適スルモノニ限リ之ヲ課ス此場合ニハ國語科中ノ手字ヲ課セザ

ルモノトス

裁縫手工ハ第四學年ヨリ隨意其一ヲ撰ヒ學フヲ得

第三章 技藝科

第二十七條 簡易按摩科ハ健康按摩ノ技能ヲ教フルヲ旨トシ兼テ日常近易ノ學科ヲ授ケ以テ健康

按摩ノ營業者タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第二十八條 鍼按科ハ普通鍼治、按摩ノ技能ヲ得シムルヲ旨トシ兼テ鍼治按摩ニ關スル智識ヲ授

ク以テ普通鍼治按摩ノ營業者タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第二十九條 高等鍼按科ハ普通鍼治按摩ノ技能ヲ有スルモノニ尙進ンデ其技ノ蘊奧ヲ探究セシメ

兼テ鍼治按摩ニ關スル學理ヲ授ケ以テ高等鍼按家タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第三十條 簡易按摩科ノ修業年限ハ二ケ年鍼按科ノ修業年限ハ四ケ年高等鍼按科ノ修業年限ハ

三ケ年トス

第三十一條 簡易按摩科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ年齡滿十五年以上ニシテ鍼按科ニ入ルノ學力ナキモ

ノ若クハ速成ヲ望ム者タルヘシ

第三十二條 鍼按科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ年齢滿十五年以上ニシテ盲高等科二學年ノ課程ヲ卒リタル者若クハ之ニ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第三十三條 高等鍼按科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ鍼按科卒業ノ者タルヘシ

但高等科入學志願ノ許否ニ關シテハ特ニ教員會ヲ開キ其生徒卒業前ニ於ケル學業等ニ就キ評議シテ之ヲ決スヘシ

第三十四條 高等鍼按科生ハ練習時間ヲ以テ本科修業ノ傍開業スルコトヲ得

第三十五條 簡易按摩科ノ學科目ハ修身、解剖、生理、衛生按摩、國語、算術、体操トシ鍼按科及高等鍼按科ノ學科目ハ修身、解剖、生理、病理、指點（鍼按科ニ限リ學習モノニハ之）、按摩（ニ欠ク）、鍼治、和歌（ニ限リ學習モノニハ之）、体操トス其課程ハ別表ノ如シ

但高等鍼按科生ハ鍼治又ハ按摩ノ一科ヲ專攻スルコトヲ得

第三十六條 音曲科ハ絃索ノ技能ヲ教フルヲ旨トシ兼テ音曲ニ關スル智識ノ一班ヲ授ケ以テ普通音曲師匠タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第三十七條 高等音曲科ハ絃索ノ技能ヲ有スル者ニ尙進ンテ其技ノ蘊奧ヲ探究セシムルヲ旨トシ兼テ音曲上ノ智識ヲ授ケ以テ高等音曲師匠タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第三十八條 音曲科ノ修業年限ハ五ヶ年トシ高等音曲科ノ修業年限ハ四ヶ年トス

第三十九條 音曲科ニ入ルヲ得ヘキモノハ年齢滿十年以上ニシテ盲尋常科二學年ノ課程ヲ卒リタルモノ若クハ之ニ相當スル學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十條 高等音曲科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ音曲科卒業ノモノタルヘシ

但其許否ニ就テハ第三十三條但書ヲ適用ス

第四十一條 高等音曲科生ハ第三十四條ヲ適用ス

第四十二條 音曲科高等音曲科ノ學科目ハ修身、箏、三絃、琵琶、尺八、胡弓、八雲（琵琶ヨリ尺八ニ欠ク）、音曲談、作曲（音曲科ニ欠ク）、國語、算術（國語算術ノ二科高）、和歌、体操トス其課程ハ別表ノ如シ

但琵琶、尺八、胡弓、八雲ハ隨意選擇シテ學フヲ得

第四十三條 繪畫科ハ普通本邦繪畫ノ初歩ヲ教フルヲ旨トシ兼テ美術工藝ニ必須ナル智識ノ一班ヲ授ケ以テ美術工藝家ノ徒弟タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第四十四條 高等繪畫科ハ普通本邦繪畫ノ初歩ヲ卒リタル者ニ尙一層其技ヲ練磨セシメ以テ繪畫ヲ業トスルコトヲ得シムルヲ目的トス

第四十五條 繪畫科高等繪畫科ノ修業年限ハ各四ヶ年トス

第四十六條 繪畫科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ聾啞尋常科ヲ卒リタル者若クハ之ニ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十七條 高等繪畫科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ繪畫科卒業ノ者タルヘシ

但其許否ニ就テハ第三十三條但書ヲ適用ス

第四十八條 繪畫科高等繪畫科ノ學科目ハ修身、繪畫、讀方、會話（又ハ筆談）、綴方、書方、歴史博物、体操トス其課程ハ別表ノ如シ

第四十九條 裁縫科ハ裁縫ノ技能ニ通セシムルヲ旨トシ兼テ日常須知ノ學科ヲ授ケ以テ裁縫工タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第五十條 裁縫科ノ修業年限ハ五ケ年トス

第五十一條 裁縫科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ聾啞尋常科ヲ卒リタル者若クハ之ニ相當ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第五十二條 裁縫科ノ學科目ハ修身、裁縫、會話(又ハ筆談)家事、算術、圖畫、体操トス其課程ハ別表ノ如シ

第五十三條 木工科ハ木工ノ技能ニ通セシムルヲ旨トシ兼テ日常須知ノ學科ヲ授ケテ普通ノ木工タルコトヲ得シムルヲ目的トス

第五十四條 木工科ノ修業年限ハ五ケ年トス

第五十五條 木工科ニ入ルヲ得ヘキ者ハ聾啞尋常科ヲ卒リタルモノ若クハ之ニ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十六條 木工科ノ學科目ハ修身、木工、會話(又ハ筆談)算術、圖畫、体操トス其課程ハ別表ノ如シ

第四章 寄宿舎

第五十七條 寄宿舎ニ入ラントスル者ハ書式第三號ニ依リ父兄保証人連署シテ願書ヲ差出スヘシ

第五十八條 寄宿舎ニ入ルヲ得ヘキ者ハ年齢滿八年以上ニシテ日常ノ着服、喫飯、起臥等ヲ自ラ辨シ得ル者タルヘシ

第五十九條 寄宿料ハ食費、雜費電燈、木炭、小遣、筆、墨、紙、齒磨、石鹼、其等ヲ支辨スルモノトス其金額ナ一ケ月凡六圓トス

但物價、高低ニ依リ増減スルコトアルヘシ

第六十條 寄宿料ハ毎月五日マテニ寄托スヘシ

但二ケ月以上一時ニ寄托スルモ妨ケナシ

第六十一條 傳染病又ハ重病ニ罹リタル時ハ病院ニ入ラシムルカ或ハ下宿歸郷ヲ命スルコトアルヘシ

(書式第一號)

入 學 願

族籍職業何某何男(女)又ハ兄弟姊妹

現 住 所

何 某 何 年 月 生

天然痘(種痘)濟何才

ヨリ盲(聾啞)トナル

右父兄又ハ親戚

何 某 何 年 月 生

年 月 日

京都市立盲啞院御中

(書式第二號)

在 學 証 書

族籍職業何某何男(女)又ハ兄弟姊妹

現住所

何 某 何 年 月 生

天然痘(種痘)濟

何歳ヨリ盲(聾啞)トナル

右今般入學御許可可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守候ハ勿論撰リニ退學爲致間敷候依テ證書如斯候也

年月日

右父兄又ハ親戚

何 某 ㊦

前書何某在學中身上ニ關スル一切ノ事件拙者ニ於テ引受可申候依テ保証候也

族籍現住所

保証人 何 某 ㊦

京都市立盲啞院御中

(書式第三號)

入 舍 願

何 科 生

盲(聾啞) 何 某

右御院へ寄宿勤學爲致度尤御許可ノ上ハ寄宿料諸費其他一切ノ事件私共引受可申此段相願候也

現住所

右父兄親戚

年月日

現住所

保証人 何 某 ㊦

京都市立盲啞院御中

(書式第四號)

證

道廳府縣士族平民

何 生 年 某 月

何々科第何學年ノ課程ヲ修了ス

年月日

京都市立盲啞院

院 印

第 號 (書式第五號)

卒業證書

道廳府縣士族平民

何 生 年 某 月

院 印

右ハ本院所定ノ何々科課程ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ依テ之ヲ證ス

京都市立盲啞院

院 長 擔任教員 印 印

第 號

盲尋常科課程表

學年	時間	修身	國語				算術	地理	歴史
			讀方	話方	綴方	覺方			
第一學年	時間	二 道德ノ要旨	二 單語 (短句短文(點字))	一 發音矯正 (談話練習)	二 單語 (短文)	一 點假名			
第二學年	時間	二 道德ノ要旨	四 近易ナル (普通文(點字))	一 發音矯正 (談話練習)	二 近易ナル (普通文)	一 假名			
第三學年	時間	二 道德ノ要旨	四 近易ナル (普通文(點字))	一 談話練習	三 近易ナル (普通文)		一 日本地理ノ大要	一 日本歴史ノ大要	
第四學年	時間	二 道德ノ要旨	四 近易ナル (普通文(點字))	一 談話練習	三 近易ナル (普通文)		一 日本地理ノ大要	一 日本歴史ノ大要	

盲高等科課程表

學年	時間	修身	國語				算術	體操	手工	計
			讀方	話方	綴方	覺方				
第一學年	時間	二 道德ノ要旨	四 普通文(點字)	一 談話練習	三 普通文	一 加減乘除 (珠算)	三 單音唱歌	六 遊戯	三	
第二學年	時間	二 道德ノ要旨	四 普通文(點字)	一 談話練習	三 普通文	一 簡易ナル (珠算)	三 單音唱歌	六 普通體操	二六	
第三學年	時間	二 道德ノ要旨	四 普通文(點字)	一 談話練習	三 普通文	一 簡易ナル (珠算)	三 單音唱歌	六 普通體操 (粘土、紙燃等)	三〇	
第四學年	時間	二 道德ノ要旨	四 普通文(點字)	一 談話練習	三 普通文	一 簡易ナル (珠算)	三 單音唱歌	六 普通體操 (粘土、紙燃等)	三〇	

國	修	教	學	計	手	體	唱	理	歷	地
五	二	第一	第一	三二	一	五	三	二	四	四
短假手 句名字 短單 文語	二	第一	第一	三二	一	五	三	二	四	四
六	二	第二	第二	三二	一	五	三	二	四	四
文近 易ナ ル普 通	二	第二	第二	三二	一	五	三	二	四	四
六	二	第三	第三	三一	一	五	三	二	四	四
文近 易ナ ル普 通	二	第三	第三	三一	一	五	三	二	四	四
六	二	第四	第四	三一	一	五	三	二	四	四
文近 易ナ ル普 通	二	第四	第四	三一	一	五	三	二	四	四
六	二	第五	第五	三一	一	五	三	二	四	四
文近 易ナ ル普 通	二	第五	第五	三一	一	五	三	二	四	四

學事尋常科課程表

手	裁	圖	體	算	語		
					書	會	筆
工	縫	畫	操	術	方	話	談
一	一	一	四	五	二	六	六
編木 物工 其他(男)	運針 法	一單 形	遊戲	自以下 ノ數	日用 須知ノ 文	近易 ナル普 通	近易 ナル普 通
一	一	一	三	五	二	六	三
編木 物工 其他(女)	通針 法	一簡 易ナル 形体	遊戲	通常ノ 加減乘 除	日用 須知ノ 文	近易 ナル普 通	近易 ナル普 通
四	四	三	三	五	二	六	二
編木 物工 其他(女)	通針 法	一簡 易ナル 形体	遊戲	通常ノ 加減乘 除	日用 須知ノ 文	近易 ナル普 通	近易 ナル普 通
四	四	三	三	五	二	六	一
編木 物工 其他(女)	通針 法	一簡 易ナル 形体	遊戲	通常ノ 加減乘 除	日用 須知ノ 文	近易 ナル普 通	近易 ナル普 通



科目	年	時間	修身		計	體操	和歌	按摩							
			理	論				實習	及	手	術	實習	及	手	術
高等鍼按科課程表	第一學年	每週	理	論	三	遊藝	作歌	用	管	全身按摩(腕・肘・膝・足)	一	詞	大	要	
	第二學年	每週	理	論	三	遊藝	作歌	刺	腹	按	一	詞	大	要	
	第三學年	每週	理	論	三	遊藝	作歌	治	術	治療的マツサージ	一	詞	大	要	
	第四學年	每週	理	論	三	遊藝	作歌	治	術	治療的マツサージ	一	詞	大	要	

科目	年	時間	修身		計	體操	算術	語		
			理	論					書	綴
鍼按科課程表	第一學年	每週	理	論	七	遊藝	加減乘除	六		
	第二學年	每週	理	論	七	遊藝	加減乘除	六		
	第三學年	每週	理	論	七	遊藝	加減乘除	六		
	第四學年	每週	理	論	七	遊藝	加減乘除	六		



高等音曲科課程表

計	音曲練習	體操	和歌	算術	國語		音曲談	曲	
					綴方	讀方		三	絃
三	六音曲練習	三 器械體操(男)	一 遊作歌詞大歌要	二 加減乘除	四 文近易ナル普通	文近易ナル普通(點字)	一 音曲談	段平	五
三	六音曲練習	三 器械體操(男)	一 遊作歌詞大歌要	二 加減乘除	四 文近易ナル普通	文近易ナル普通(點字)	一 音曲談	評平	五 許
三	六音曲練習	三 器械體操(男)	一 遊作歌詞大歌要	二 加減乘除	四 文近易ナル普通	文近易ナル普通(點字)	一 音曲談	歌許平	五 許
三	六音曲練習	三 器械體操(男)	一 遊作歌詞大歌要	二 加減乘除	四 文近易ナル普通	文近易ナル普通(點字)	一 音曲談	替歌許平	五 替
三	六音曲練習	三 器械體操(男)	一 遊作歌詞大歌要	二 加減乘除	四 文近易ナル普通	文近易ナル普通(點字)	一 音曲談	表替歌許平	五 替

音曲科課程表

音	修身	數科 日/年	學 時間	計	體操	和歌	按摩				
							治	鍼	摩	按	指
表	干	一	第一學年	二〇	三	一	治	理	摩	按	指
表	平	一	第二學年	二〇	三	一	治	理	摩	按	指
裏	平	一	第三學年	二一	三	一	治	理	摩	按	指
中	許	一	第四學年	二一	三	一	治	理	摩	按	指
中	許	一	第五學年	二一	三	一	治	理	摩	按	指

體操	博物	歷史	國語				繪畫	修身	教科目年		
			書方	綴方	筆談	會話					
三	一	一	四				二三	一	每週時間		
柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	植物	本邦歷史	草書	行楷書	往復文	日用須知ノ事項	繪畫ニ關スル事項	普通文	寫生	臨摹	第一學年
三	一	一	四				二三	一	每週時間		
柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	植物	本邦歷史	草書	行楷書	往復文	日用須知ノ事項	繪畫ニ關スル事項	普通文	寫生	臨摹	第二學年
三	一	一	三				二四	一	每週時間		
柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	動物	本邦歷史	草書	行楷書	往復文	日用須知ノ事項	繪畫ニ關スル事項	普通文	按圖寫生	臨摹	第三學年
三	一	一	三				二四	一	每週時間		
柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	動物	本邦歷史	草書	行楷書	往復文	日用須知ノ事項	繪畫ニ關スル事項	普通文	按圖寫生	臨摹	第四學年

計	體操	和歌	作曲	音曲談	音曲			修身	教科目年
					三絃	箏	管		
一七	三	二		一	一			一	每週時間
	柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	作歌 歌詞大要		音曲談	八胡尺琵琶	歌端許	中後許	一	第一學年
一七	三	二		一	一			一	每週時間
	柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	作歌 歌詞大要		音曲談	八胡尺琵琶	歌端許	中後許	一	第二學年
一八	三	二	一	一	一			一	每週時間
	柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	作歌 歌詞大要	作曲	音曲談	八胡尺琵琶	歌端許	中後許	一	第三學年
一八	三	二	一	一	一			一	每週時間
	柔術體操 器械體操 普通體操 遊藝	作歌 歌詞大要	作曲	音曲談	八胡尺琵琶	歌端許	中後許	一	第四學年

繪畫科課程表

高等繪畫科課程表

博 物 史	歷 史	國 語				繪 畫	修 身	教 科 目 年 時 間	計
		書 方	級 方	筆 談	會 話				
一	一	三				二 四	一	第一學年	三
動物	支那 邦 歷 史	草 行 楷 書	記 事 文	日 用 須 知 ノ 事 項	項 繪 畫 ニ 關 ス ル 事	國 漢 文	臨 寫 作	道 德 ノ 要 旨	三
一	一	三				二 四	一	第二學年	三
動物	支那 邦 歷 史	草 行 楷 書	記 事 文	日 用 須 知 ノ 事 項	項 繪 畫 ニ 關 ス ル 事	國 漢 文	寫 作 中 彩 色 初 步 法	道 德 ノ 要 旨	三
一	一	三				二 四	一	第三學年	三
動物	支那 邦 歷 史	草 行 楷 書	記 事 文	日 用 須 知 ノ 事 項	項 繪 畫 ニ 關 ス ル 事	國 漢 文	寫 作 中 彩 色 上 法	道 德 ノ 要 旨	三
一	一	三				二 四	一	第四學年	三
動物	支那 邦 歷 史	草 行 楷 書	記 事 文	日 用 須 知 ノ 事 項	項 繪 畫 ニ 關 ス ル 事	國 漢 文	寫 作 色 法	道 德 ノ 要 旨	三

裁縫科課程表

算 術	家 事	國 會 話	裁 縫	修 身	教 科 目 年 時 間	計	體 操
一 加 減 乘 除	一 家 事 經 濟	二	二 裁 縫 ニ 關 ス ル 事 項 日 用 須 知 ノ 事	一 道 德 ノ 要 旨	第一學年	三	遊 戲 普 通 體 操 柔 軟 體 操 (男)
一 小 加 減 乘 除	一 家 事 經 濟	二	二 裁 縫 ニ 關 ス ル 事 項 日 用 須 知 ノ 事	一 道 德 ノ 要 旨	第二學年	三	遊 戲 普 通 體 操 柔 軟 體 操 (男)
一 比 加 減 乘 除	一 看 病 ノ 心 得 (女)	二	二 裁 縫 ニ 關 ス ル 事 項 日 用 須 知 ノ 事	一 道 德 ノ 要 旨	第三學年	三	遊 戲 普 通 體 操 柔 軟 體 操 (男)
一 比 加 減 乘 除	一 看 病 ノ 心 得 (女)	二	二 裁 縫 ニ 關 ス ル 事 項 日 用 須 知 ノ 事	一 道 德 ノ 要 旨	第四學年	三	遊 戲 普 通 體 操 柔 軟 體 操 (男)
一 比 加 減 乘 除	一 育 兒 ノ 心 得 (女)	二	二 裁 縫 ニ 關 ス ル 事 項 日 用 須 知 ノ 事	一 道 德 ノ 要 旨	第五學年	三	遊 戲 普 通 體 操 柔 軟 體 操 (男)

圖 書	體 操	計	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
			時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目
一	三	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操(男)	一	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操(男)	一	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操(男)

木工科課程表

圖 書	算 術	國 語	國 會 話	木 工	修 身	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
						時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目
一	一	二	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
用器畫	加減乘除	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事	指物ニ關スル事項 日用須知ノ事

圖 書	體 操	計	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年	
			時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目
一	三	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操	一	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操	一	三	一	遊藝 普通體操 器械體操 柔軟體操

○京都市立美術工藝學校商議員規程

明治卅一年九月十六日 市第五三號

- 第一條 商議員ハ常ニ本校ノ隆盛ヲ謀リ美術工藝相符合ツノ關係ヲ保チ且ツ營業者ニ就キ子弟ノ入學ヲ獎勵スルモノトス
  - 第二條 商議員會ハ本校長ニ於テ日時ヲ定メ商議ノ事項ニ依リ豫メ其幾名若クハ全員ニ通知シテ開會ヲ求ムヘシ
  - 第三條 商議員ハ美術ノ應用ニ關シ本校長ノ求メニ依リ圖案科及美術工藝科ノ教授ヲ贊補ス
  - 第四條 商議員ハ本校ノ校務ニ關シ意見アルトキハ何時ニ限ラズ之ヲ市參事會若クハ本校長ニ提出ス
  - 第五條 商議員ハ滿五ヶ年ヲ以テ依囑ノ期限トス期滿ツル後更ニ依囑スルコトアルヘシ
- 京都市立美術工藝學校評議委員規程
- 明治卅一年九月十六日 市第五二號
- 第一條 評議委員ハ博識知名ノ士ニ就キ本校長之ヲ推薦シ市參事會市長ニ於テ囑托スルモノトス
  - 但京都府第四課長在職者ハ評議委員ノ囑托ニ加ルモノトス
  - 第二條 評議委員ハ本校長ノ提議ニ對シ左ノ事項ヲ評議ス

- 一 生徒教養ノ方法
- 二 教科目ノ加除及各教科目教授ノ方法
- 三 教授上必須ノ設備及經費
- 四 其他重要ナル事項
- 第三條 評議委員會ハ本校長ニ於テ日時ヲ定メ豫メ各員ニ通知シテ其開會ヲ求ムヘシ
- 第四條 評議委員ハ教授用具及參考品ノ蒐集等ニ關シ本校長ノ商議ニ應シ之ヲ助クルコトアルヘシ
- 第五條 評議本員ハ本校ノ教育教授ニ關シ意見アルトキハ何時ニ限ラス之ヲ市參事會若クハ本校長ニ提出ス

○京都市立染織學校商議員規程

明治三十六年二月十七日 制定

- 第一條 商議員ハ本校教育ト實業トノ關係ヲ保ツ爲メ相當經歷アル知名ノ士ニ就キ市長之ヲ囑托ス
- 第二條 商議員ニ商議ヲ要スルトキハ市長又ハ學校長ニ於テ日時ヲ定メ其事件ニ依リ豫メ其一部若クハ全員ニ通知シ參會ヲ求ムヘシ
- 第三條 商議員ハ學校長ノ求メニ依リ本校實修料ノ教授ニ關スル事業ヲ補翼ス
- 第四條 商議員ハ校務ニ關シ意見アルトキハ之ヲ市長又ハ學校長ニ提出ス
- 第五條 商議員囑托ノ期限ハ三ヶ年トス滿期ノ後更ニ囑托スルコトアルヘシ

○京都市立染織學校評議員規程

明治卅六年二月十七日 制定

- 第一條 評議員ハ學校ニ關スル重要ナル事件ヲ評議スル爲博識知名ノ士ニ就キ市長之ヲ囑托ス
- 第二條 評議員會ニ提出スヘキ事項ノ概要左ノ如シ
  - 一 學科課程ノ變更
  - 二 教授上必須ノ設備及經費
  - 三 前各號ノ外重要ナル事項
- 第三條 評議員會ハ市長又ハ學校長日時ヲ定メ豫メ各員ニ通知シ其開會ヲ求ムヘシ
- 第四條 前條ニ依リ學校長ニ於テ評議員會ノ開會ヲ求メントスルトキハ提議スヘキ問題ヲ具シ豫メ市長ニ稟議スルコトヲ要ス
- 第五條 科議員ハ校務ニ關シ意見アルトキハ市長又ハ學校長ニ提出ス
- 第六條 評議員囑托ノ期限ハ三ヶ年トス滿期ノ後更ニ囑托スルコトアルヘシ

○京都市立商業學校簡易商業學校商議員規程

明治卅四年四月廿三日 制定

- 第一條 商議員ハ學校教育ト實業トノ關係ヲ圖ル爲メ相當ノ經歷アル商工業家ニ就キ市長之ヲ囑托ス
- 第二條 商議員ニ商議ヲ要スルトキハ市長若クハ學校長ニ於テ日時ヲ定メ其事項ニ依リ豫メ其一部若クハ全員ニ通知シ參會ヲ求ムヘシ
- 第三條 商議員ハ學校長ノ求メニ依リ商事要項及商業實踐科ノ教授ニ關スル事業ヲ翼補ス
- 第四條 商議員ハ學校ノ校務ニ關シ意見アルトキハ之ヲ市長若クハ學校長ニ提出ス

第五條 商議員囑托ノ期限ハ三ケ年トス滿期ノ後更ニ囑托スルコトアルヘシ

○京都市立商業學校簡易商業學校評議員規程

明治卅四年四月廿三日 制定

- 第一條 評議員ハ學校ニ關スル重要ナル事件ヲ評議スル爲メ博識知名ノ士ニ就キ市長之ヲ囑托ス
- 第二條 評議員會ニ提出スヘキ事項ノ概要左ノ如シ
  - 一 生徒教養ノ方法
  - 二 學科課程ノ變更
  - 三 教授上必須ノ設備及經費
  - 四 其他重要ナル事項
- 第三條 評議員會ハ市長若クハ學校長日時ヲ定メ豫メ各員ニ通知シ其開會ヲ求ムヘシ
- 第四條 學校長ニ於テ評議員會ノ開會ヲ求メントスルトキハ提議スヘキ問題ヲ具シ豫メ市長ニ稟議スルヲ要ス
- 第五條 評議員ハ校務職務ニ關シ意見アルトキハ之ヲ市長若クハ學校長ニ提出ス
- 第六條 評議員囑托ノ期限ハ三ケ年トス滿期後更ニ囑托スルコトアルヘシ

○京都市立盲啞院商議員尙議要項

明治廿六年九月十二日 設定

- 一 資金増殖並寄付金品ニ關スル事
- 一 事業ノ改良並擴張ニ關スル事
- 一 生徒卒業後ノ就業ニ關スル事

○京都市立盲啞院管理規程

明治廿三年一月二十五日 市公告第三號

- 京都市立盲啞院ハ左ノ各項ニヨリ市稅外特別ノ經濟トシ市參事會ニ於テ之ヲ管理スルモノトス
- 一 盲啞院付屬地建物並書籍器械等別記之通及資金壹萬七千六百拾九圓六錢八厘ヲ以テ財產トス
  - 一 盲啞院ハ資金ノ利子土地賃賃授業料製造品賣却代並工作料及寄附金雜入等ヲ以テ經費ニ充ツ
  - 一 盲啞院ノ收支豫算ハ毎年度之ヲ議定シ殘餘アルトキハ資金ニ加入シ不足ヲ生スルトキハ京都市會ノ決議ヲ經テ資金ノ内ヲ以テ之ヲ補フ

○京都市立美術工藝學校外四校長處分ノ件

明治卅五年十月十六日 市達第三三號

美術工藝學校  
機械學校  
商業學校  
簡易商業學校

- 左記ノ事務ハ其校ニ於テ取扱フヘシ
- 但從前ノ規定ニシテ本達ニ抵觸スル事項ハ廢止ス
- 一 毎年度經費支收豫算表ヲ調製提出ノ事
  - 二 經費豫算内ニ於ケル諸物品購買ノ事
    - 但備付品ノ代價拾圓以上ノモノハ豫メ稟議スヘシ
  - 三 經費豫算内ニ於ケル修繕執行ノ事
    - 但工費拾圓以上ノモノハ前項但書ノ例ニヨル
  - 四 製品及不用物品賣却ノ事

但製品代價拾圓以上不用品代價五圓以上ノモノハ前項ノ但書ニ同シ  
五 雇員門衛及使丁ノ進退  
但教務上ノ雇員ヲ採用若クハ俸俸セントスルトキハ豫メ稟議シ其ノ解雇及他ノ常雇ノ  
進退ハ其都度直ニ報告スヘシ

○高等小學校長處分ノ件

明治卅二年七月廿九日  
市達第一七八號

其校事務履及使丁ノ進退ハ校長限リ處分シ其都度報告スヘシ  
但明治二十二年達第五號ハ自今廢止ス

○市立學校々地變更ニ關スル處分ノ件

明治卅三年三月二日  
市會ニ於テ議決

市立尋常小學校々地ノ變更ニ關スル府知事ノ諮問ニシテ校地ノ擴張又ハ減少ニ止マリ其位置ノ變  
更ニ涉ラサルモノハ參事會限リ之ヲ處理スルモノトス

○高等小學校授業料細則

明治卅二年四月十一日  
市公告第七五號

- 第一條 市立高等小學校生徒ノ授業料ハ每一人一ヶ月金六拾錢トス
- 第二條 授業料ハ毎月指定ノ期日ニ必ス納付スヘシ  
但保護者ノ便宜ニ依リ數月分ヲ前納スルモ妨ケナシ
- 第三條 病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ引續キ全月欠席スルモノハ其月分ノ授業料ヲ免除ス
- 第四條 既納ノ授業料ハ業ヲ受クルト否トニ拘ラス之ヲ返付セズ  
但第三條ニ該當スル場合ハ此限ニアラス

第五條 保護者發病ニシテ授業料ヲ納ムル能ハスト認ムルモノハ其申立ニ依リ學務委員ノ意見ヲ  
聞キ授業料ノ半額若シクハ全額ヲ減免スルコトアルヘシ

○尋常小學校授業料細則

明治卅二年六月五日  
市告第一二九號

- 第一條 市立尋常小學校ノ授業料ハ學區ノ情況、學年別及正教科補習科ノ別ニ依リ左ノ金額中ニ  
就キ之ヲ定ム  
生徒每一人一ヶ月 拾五錢 拾貳錢 拾參錢 拾四錢
- 第二條 一家ノ兒童二名以上同一學校ニ就學スルトキハ多額ノ一名ヲ除クノ外總テ半額トス
- 第三條 授業料ハ毎月ノ始ニ徵收ス  
但シ保護者ノ便宜ニ依リ數月分ノ前納ヲ許スコトアルヘシ
- 第四條 病氣其他已ムヲ得サル事故ニ依リ引續キ全月欠席スルモノハ其月分ノ授業料ヲ免除ス
- 第五條 既納ノ授業料ハ業ヲ受クルト否トニ拘ハラス之ヲ返付セズ  
但シ第四條ニ該當スル場合ハ此限リニアラス
- 第六條 保護者發病ニシテ授業料ヲ納ムル能ハスト認ムルモノハ區學務委員會ノ評決ニ依リ授業  
料ノ半額若クハ全額ヲ減免スルコトアルヘシ

○京都市立美術工藝學校其他各學校生徒  
修學旅行ノ節稟議若クハ開申方ノ件

明治卅一年十一月  
市達第七五號

其校院生徒ヲシテ學術研究ノ爲メ旅行セシメントスルトキハ左ノ要項ヲ具シ宿泊ヲ要スルモノハ

美術工藝學校  
盲啞學校  
染織學校  
高等小學校  
商業學校  
簡易商業學校

豫メ稟議シ其他ハ旅行ノ都度開申スヘシ

- 一 旅行スヘキ生徒ノ學年別及人員
- 二 附添教員ノ人員
- 三 出發及歸着ノ日時
- 四 經過順路及里程
- 五 宿泊ノ箇所
- 六 生徒每一人ヲ要スル旅行費

但學校費ヨリ補助スルモノハ其補助額ノ割合ヲ附記スルヲ要ス

○尋常小學校生徒修學旅行ノ節開申方之件

明治卅二年三月十三日 市達第二七號

生徒ヲシテ修學ノ爲メ旅行セントスルトキハ左ノ要項ヲ具シ豫メ開申スヘシ

- 一 旅行スヘキ生徒ノ學年及男女別人員
- 二 附添教員ノ人員
- 三 出發及歸着ノ日時
- 四 經過順路及里程
- 五 生徒每一人ニ要スル旅行費

但シ學校費ヨリ補助スルモノハ其補助額ノ割合ヲ附記スルヲ要ス

○學區經費負擔ノ件

明治廿五年六月六日 市公告第三七號

本市尋常小學校ニ設置スル學務委員ノ執務ニ關スル費用ハ其學區内ノ負擔トス

○京都市立美術工藝學校應請圖案調製規則

明治卅三年六月十五日 市公告第一五三號

第一條 美術工藝學校ニ於テハ該校規則第四條ニ基キ生徒ノ實習ニ資シ且本市ニ於ケル工藝ノ上進ヲ圖ル目的ヲ以テ當業者等ノ依頼ニ應シ各種ノ美術工藝圖案ヲ調製スルモノトス

但本條ノ趣旨ニ適セスト認ル圖案ハ調製セス又同時ニ依頼者多キ場合ハ謝絶スルコトアルヘシ

第二條 應請圖案調製料ノ金額ハ學校長之ヲ定ム

第三條 應請圖案ニ基キ各種ノ美術工藝品ヲ製作スルニ當リ當業者ハ協議ノ爲メ出校シ又ハ其製作場ヘ圖案調製者ノ出張ヲ請フコトヲ得

但出張ヲ承諾スルトキハ其出張ノ爲メニ要スル實費ヲ請求スルコトアルヘシ

第四條 應請圖案ノ外美術工藝學校ニ於テハ職員并專攻科等ノ生徒ヲシテ各種ノ圖案ヲ調製セシメ當業者等ノ望ニ依リ相當ノ調製料ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第五條 應請圖案調製上必要ナル費用ノ支出及其調製料收入ノ會計ハ別途ニ之ヲ整理シ其益金ハ積立増殖スルモノトス

第六條 前條ノ收支ヲ整理スルカ爲メ學校長ハ其明細簿ヲ備ヘ會計主任ノ職員ヲシテ一切ノ出納ヲ登記セシムルモノトス

第七條 應請圖案調製料ノ益金ハ學校長ニ於テ其調製料ヲ受取リタル都度計算書ヲ添ヘ之ヲ市役所ニ回納スルモノトス



- 第八條 學校長ハ圖案調製料ノ益金中ニリ百圓以内ノ現金ヲ請取置圖案調製上必要ナル費用ノ繰替拂ニ充ツルコトヲ得
- 第九條 應請圖案調製料ノ益金ハ調製材料ノ購入費等ヲ扣除シタル殘額トス  
但職員ニシテ職務ノ餘暇ニ調製シタルモノ及專攻科等ノ生徒チシテ調製セシメタルモノ、益金ハ材料購入費ノ外其調製者ニ交付スヘキ相當ノ調製料ヲ扣除シタル殘額トス
- 第十條 應請圖案調製ニ關スル手續ハ學校長ニ於テ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 繪畫ノ依頼製作ニ就キテモ凡テ本則ニ準據ス又本校ノ施設上差支ナキ限り本則ニ準據シテ木彫蒔繪ノ製作及陶磁器ノ染付繪付等ノ依頼ニ應スルコトアルヘシ
- 附 則
- 第十二條 明治二十八年市公告第四十三號美術工藝學校依頼品製作規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○市立染織學校製品整理規則

明治卅五年四月八日  
市公告第六五號

- 第一條 京都市立染織學校ニ於テ物品ヲ製造シタルトキハ本則ニ依リ整理スルモノトス
- 第二條 製品ハ學校長ニ於テ保存スヘキモノト賣却スヘキモノトノ區別ヲ定メ三ヶ月毎ニ之ヲ市長ニ報告スヘシ
- 賣却スヘキ製品ハ一品毎ニ其價格ヲ定メ豫メ市參事會ノ認可ヲ受ケ學校長ニ於テ便宜賣却スルコトヲ得
- 第三條 學校長ハ製品明細簿ヲ備ヘ其品目製作年月日及賣却品ハ其價格ヲ記載シ置キ之ヲ賣却シ

- マルトキハ尙其年月日ヲ登記スヘシ
- 第四條 製品ヲ賣却シタルトキハ直ニ其品目買受人及其年月日ヲ市長ニ報告シ其代價ハ明細書ヲ添ヘ市收入役ヘ送納スヘシ
- 第五條 前條ノ收入金ハ特別會計トシ其半額ハ學校基本財産ニ編入シ其半額ハ特別製品資金トシテ蓄積スルモノトス
- 第六條 學校長ニ於テ特別製品ヲ爲サントスルトキハ其事由及費用ノ概算ヲ具シ市長ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ百圓以内現金前渡シヲ請求スルコトヲ得
- 前項ノ製品ハ第三條第四條ニ準シテ整理シ其收支ハ出納簿ニ詳記シ其事由ヲ明カニスヘシ
- 第七條 不用ニ屬スル布片糸屑等ハ普通ノ手續ヲ經テ賣却シ其代價ハ本則第五條ノ收入ニ加フルモノトス
- 第八條 本則施行ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

勸業

○陶磁器試驗所職制

明治卅二年五月  
定

- 第一條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 所 長 一名 技術者ヲ以テ之ニ充ツ
- 市長ノ指揮監督ヲ受ケ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス
- 技術者 若干名

所長ノ指揮ヲ受ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス

會計及ヒ庶務ニ從事ス

書 記 一 名

第二條 本所ノ業務ニ關シ商議ヲ要スル爲メ商議員若干名ヲ設ケ市參事會ニ於テ之レヲ囑托ス其任期ハ二ケ年トス

第三條 所長ハ豫算定額内ヲ以テ職工使丁臨時雇ヲ使用又ハ解雇スルヲ得

第四條 所長ハ豫算定額内金拾圓以下ヲ以テ物品ノ購買及ヒ修繕ヲ施行スルヲ得

第五條 所長ハ金五圓以下ノ不用物品ヲ賣却スルコトヲ得

第六條 業ハ大祭祝日、日曜日、極暑ニ週間以内トス

第七條 第三條及ヒ第四條ノ規定ニ依リタル處分ハ毎月末ニ所長ヨリ市長ニ報告スルモノトス

○陶磁器試験所規則

明治卅二年七月 設 定

第一條 本所ハ常ニ本市陶磁器業ノ景況ニ注意シ陶磁器ノ製造及之レニ關スル一切ノ改良進歩ヲ圖ル爲メ試験ヲ施行スルモノトス

第二條 本所ハ本市陶磁器業者ノ依頼ニ應シ陶磁器ニ關スル質疑ニ答ヘ又ハ試験ヲ依頼スルトキハ經費ノ許ス以内無料ニテ之ヲ施行ス

第三條 本所ニ於テ施行シタル試験ノ結果其成效シタルモノハ可成之レヲ當業者ニ公示ス

第四條 本市陶磁器業ニ關係ヲ有スル者ハ何時ニ限ラス本所ノ職務ヲ參觀スルヲ得

第五條 本所ハ當業者ノ依頼ニヨリ職務ニ差支ナキ限りハ相當ノ修繕料及ヒ定費ヲ徴シ器械及ヒ

窯ノ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

但シ之レカ爲メ毀損セシ場合ニハ依頼者ヨリ現物ヲ以テ辨償セシムヘシ

第六條 本所ニ於テ必要ト認ムル時ハ當業者ヲ招集シ講話ヲ開クヲ得

第七條 營業者ノ子弟中本所ニ入り其業ヲ修メントスル者ニ學理及ヒ實修ヲ傳習ス

但本所ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本所ノ職務ニ關シ必要アルトキハ所員ヲシテ管内外ニ出張セシムルコトアルヘシ

○陶磁器試験所商議員處務規程

明治廿九年八月七日 制 定

第一條 商議員ハ本所重要ノ件ニ付市長又ハ所長ノ商議ヲ受ク

第二條 商議員ハ本所ノ利害ニ關シ意見アルトキハ所長又ハ市長ヘ申出ル事ヲ得

第三條 商議員ハ何時ニ限ラス本所ニ來リ職務ノ事蹟ヲ視察スルヲ得

第四條 市長又ハ所長ニ於テ商議ヲ要スル場合ニハ其事件ニ依リ商議員ノ全部又ハ數名ヲ招集ス

第五條 商議員會ニハ本所員ヲシテ列席セシムルコトアルヘシ

○陶磁器試験所傳習生規則

明治卅一年十一月十四日 市公告第五三號

第一章 總 則

第一條 傳習生ハ京都市在籍ノ者ニシテ將來本業ニ從事セントスル志望堅確ナル者ニ限リ之レヲ許可シ本業ニ要スル學理及ヒ實習ヲ簡易ニ傳習ス

第二條 傳習生ノ修業期限ハ二ケ年トス

第三條 傳習生ハ授業料ヲ徴收セス且ツ傳習ニ要スル書籍文具器具器械ヲ貸與シ消耗品ハ之ヲ支給ス

第二章 教 科

第四條 教科ハ化學、製陶法、燃焼論、樂窯法ノ四トス

但必要ニヨリ簡易ナル物理學、地質學、岩石學、數學等ヲ教授スルコトアルヘシ

第五條 圖化學ハ教科書ヲ用ヒ其他ハ總テ筆記トシ何レモ講義及ヒ實修ノ兩法ニヨリ之ヲ教授ス

第六條 教授時間ハ毎日講義及ヒ實修ヲ通シテ六時間トス

第七條 講義ハ一定ノ時間割ヲ設ケス本所々務ノ都合ニヨリ毎日凡二時間ノ割ヲ以テ適宜之レヲ

施行ス

第八條 傳習ハ毎年四月一日ニ始メ翌年三月末日ニ終ル

但此期間ニ於ケル休業期日ハ本所休業日ニ同シ

第三章 試業及修了

第九條 試験ハ臨時試験及ヒ修了試験ノ二トス

第十條 臨時試験ハ教員ノ見込ニヨリ臨時之レヲ行ヒ修了試験ハ傳習期ノ終リニ於テ之ヲ行フ

第十一條 試験點數ハ各科一百點ヲ以テ最高點トス

第十二條 修了試験ハ各科六十點以上ヲ以テ及第トス

但修了試験ハ臨時試験ノ點數ヲ勘合スルモノトス

第十三條 修了試験ニ及第セルモノハ修了證書ヲ授與ス

但修了試験ニ及第セサルモノニ對シ更ニ傳習期日ヲ延期セス

第十四條 試験ニ欠席シタル科目ニハ零點ヲ附ス

但病氣其他止ムヲ得サル事故ニヨリ届出ノ上欠席スルモノハ願ニ依リ特ニ試験ヲ行フコトアルヘシ

第四章 募集入退學

第十五條 傳習生ノ定員ハ當分ノ内十名以内トシ適宜之レヲ募集ス

第十六條 傳習生志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一 品行方正ニシテ身体強健傳習期中家事ニ係累ナキモノ

一 壹ケ年以上本業ニ従事シタル証明ヲ有スルモノ

一 年滿十四年以上ニシテ相當ノ學力ヲ有スルモノ

第十七條 志願者ハ左ノ書式ニ準シ願書並ニ履歷書ヲ本所ヘ差出スヘシ

入 學 願 書

私儀京都市陶磁器試験所傳習生トシテ入學志願ニ付御試験ノ上御許可相成度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍身分職業(戸主ニアラサレバ)

何

某

年 月 日

何年何月生

右本人身元取調候處別紙履歷書ノ通相違無之候ニ付此段保証候也

京都陶磁器商工業組合

頭取

何

某印

年 月 日

京都市陶磁器試験所長何某殿

第十八條 入學許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ準シ在學証書一通ヲ認メ保証人ヨリ本所ニ差出スヘシ

在學証書

本籍身分職業(戸主ニアラザレハ何某男或ハ弟等)

何 某

右今般京都市陶磁器試験所傳習生トシテ入學御許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候此段保証候也

但宿所移轉或ハ印章相改メ候節ハ速ニ御届可申候也

本籍身分職業

年月日

保証人 何

某印  
何年何月生

京都市陶磁器試験所長何某殿

第十九條 保証人ハ丁年以上ノ男子ニシテ京都市内ニ於テ一家計ヲ立ツルモノ又ハ本所ニ於テ適當ト認ムルモノタルヘシ

但シ保証人ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十條 保証人死去若クハ市外ニ轉住スルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ニ換ヘ更ニ保証書ヲ差出スヘシ

第二十一條 本市長ニ於テ事情止ムヲ得スト認ムルモノ、外ハ中途退學ヲ許サス

第二十二條 怠惰若クハ不品行ニシテ成業ノ見込ナキモノ又ハ屢々欠席スル者等ハ退學セシム

○陶磁器試験所職工就業規程

明治廿九年十一月二十二日 可

第一條 當所雇入ノ職工ハ所員ノ指揮ニ從ヒ就業シ都テ規程ヲ堅ク遵守スヘキ事

第二條 職工ハ其使用ヲ許シタル原料及器具器械等ヲ大切ニ保護シ竊略ノ取扱ヒナスヘカラス若シ毀損等生シタルトキハ其都度詳細所員ニ届出相當ノ處分ヲ受クヘシ

第三條 職工ノ就業時間ハ毎日八時間トス但食後三十分ヲ休憩トス時季ノ長短ニヨリ所長ノ見込ヲ以テ時限ヲ定メ市長ヘ届出ルモノトス

第四條 職工ハ毎日定時十分前ニ出場出勤簿ヘ捺印ノ上就業スヘシ又退場前十五分前ニ就業ヲ中止シ各自使用セシ器具及製品等ヲ整理シ洒掃ヲ施シ所員ノ命ヲ受ケ退場スヘシ

第五條 職工ハ定期休日ノ外猥ニ休業ヲ許サス萬一休業ヲナストキハ其都度當日正午迄ニ事務所ヘ届出スヘシ

第六條 職工定時間ニ出場就業セシモ事故ニヨリ中途退場ナシタルトキハ一日ヲ四分シテ雇給ヲ與フ

第七條 第十一條ノ休業定日ハ給料ヲ支給セス但大祭日中三大節、極暑ニ週間及年始三ケ日(一日二日)年末三ケ日(廿九日三十日三十一日)ハ之ヲ給與ス

本條但書ニヨリ給與スヘキ休日ハ(極暑休日ヲ除ク)前後引續キ就學セサルトキハ之ヲ支給セス